

神奈川大学大学院

言語と文化論集

特別号 2015年9月

中国言語文化専攻 博士後期課程修了 (2015年3月)

博士学位論文

現代中国語における副詞“在”の意味と論理

青木 萌

神奈川大学大学院 外国語学研究科

現代中国語における副詞“在”の意味と論理

Adverb *Zai*(在) in Mandarin Chinese Semantics

青木 萌

目次

序	1
第一章 副詞“在”の先行研究	4
1.0 はじめに	4
1.1 先行研究	4
1.1.1 潘文娛(1980)	5
1.1.2 北京大学中文系 1955、1957 级语言班編(1982)	5
1.1.3 杉村博文(1994)	5
1.1.4 龚千炎(1995)	7
1.1.5 王还主编(1997)	7
1.1.6 郭风岚(1998)	8
1.1.7 侯学超編(1998)	8
1.1.8 吕叔湘主编(1999)	9
1.1.9 朱继征(2000)	9
1.1.10 李科第(2001)	10
1.1.11 刘月华等(2001)	10
1.1.12 张斌主编(2001)	11
1.1.13 马真(2004)	12
1.1.14 李晓琪(2005)	12
1.1.15 朱景松主编(2007)	12
1.1.16 房玉清(2008)	13
1.1.17 卢福波(2010)	13
1.1.18 袁莉容 郭淑伟 王静(2010)	13
1.1.19 岑玉珍主编(2013)	14
1.2 第一章の結び	14
第二章 副詞“在”と前置詞“在”の統一的解釈	17
2.0 はじめに	17
2.1 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文	17
2.2 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文	30
2.3 目的語が生起した“在”構文	35
2.4 第二章の結び	37
第三章 “在”構文の生成過程	38

3.0 はじめに	38
3.1 オートマトンによる解析	38
3.2 状態遷移図による解析	39
3.3 論理回路と論理式による解析	41
3.4 タイプ理論による解析	43
3.5 談話概念を導入した論理式の生成過程	46
3.6 第三章の結び	47
第四章 [現場進行]における副詞“在”と[非現場進行]における副詞“在”	48
4.0 はじめに	48
4.1 [現場進行]を表す“在”	48
4.2 [非現場進行]を表す“在”	53
4.3 第四章の結び	60
第五章 副詞“在”が表す[複数の出来事存在]	62
5.0 はじめに	62
5.1 複数の出来事存在を表す“在”	62
5.1.1 複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例	62
5.1.2 複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例	65
5.1.3 複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例	66
5.1.4 複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例	68
5.1.5 他の文脈から[進行]を明確に判断できる例	69
5.2 第五章の結び	71
第六章 副詞“在”の文における時制構造	72
6.0 はじめに	72
6.1 絶対時間と相対時間	72
6.2 副詞“在”における時制構造	74
6.2.1 [過去]-[簡単]における“在”構文	74
6.2.2 [現在]-[簡単]における“在”構文	78
6.2.3 [未来]-[簡単]における“在”構文	81
6.3 集合論の運用による解析	85
6.4 第六章の結び	87
第七章 副詞“在”と副詞“正”の意味と論理	88
7.0 はじめに	88

7.1 “在”の解析	88
7.2 “正”の解析	95
7.3 第七章の結び	106
結びにかえて	107
参考文献	109
用例の出典先	111

序

本稿は現代中国語における副詞“在”についての研究であり、以下の七つの章によって構成されている。

第一章 副詞“在”の先行研究

第二章 副詞“在”と前置詞“在”の統一的解釈

第三章 “在”構文の生成過程

第四章 [現場進行]における副詞“在”と[非現場進行]における副詞“在”

第五章 副詞“在”が表す[複数の出来事]の存在

第六章 副詞“在”の文における時制構造

第七章 副詞“在”と副詞“正”の意味と論理

まず第一章では、他の研究者は副詞“在”を如何に解釈しているのかを確認し、その記述の中から検討の余地があると思われる点を四つ提示する。

第一に、副詞“在”に対して多くの研究者が「進行」という言葉を用いて解釈していることである。

第二に、“在”は[現在]、[過去]、[未来]のいずれにおいても生起しえることである。従って、“在”は時態(Aspect)を表現することが可能であると推測できる。

第三に、“在”は、“经常”、“总”、“一向”、“一直”、“还”、“又”、“已经”といった成分と共に共起することができ、これらの成分によって“在”が修飾する出来事の長期的な存在を保証していることである。

第四としては、副詞の“在”と前置詞の“在”は共に状況語となる点からして、時として両成分の境界線は曖昧となる可能性があるということである。

以上の問題点は第二章から第七章の中で妥当な見解を提示する。

そこで第二章では、副詞“在”によって構成する“在+動詞”は、前置詞“在”に後続する目的語が省略された形式であることを主張する。即ち、“在”は副詞、前置詞を問わず、いずれも述連構造の一番目の動詞を担うと見なし、かつ、“在”の後方には、意味上、必ず出来事存在場所を示す成分が生起する、と考える。従って“在”に後続した目的語の有する特徴の差異、或いは目的語の有無に基づき、以下の三つの構文に区分して考察を行うこととなる。

- ① 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文
- ② 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文
- ③ 目的語が生起した“在”構文

また、“在”の文における各成分の意味関係を明らかにするため、松村(2005)の理論を基にして、命題論理(propositional logic)と述語論理(predicate logic)を併用した論理式による解析を試みる。

第三章では、オートマトン(automaton)、状態遷移図(state transition diagram)、論理回路

(logical circuit)、タイプ理論(type theory)を運用し、第二章で用いた論理式の正当性を多角的に証明する。また、終わりには談話概念から論理式の生成を検討する。

第四章は副詞の“在”が表す[進行]を[現場進行]と[非現場進行]に区分して考察を行う。要点は以下の三つである。

第一に、[現場進行]の文は、出来事が発話時間において存在している点に注目が置かれた[進行]であり、一方[非現場進行]は、発話時間に制限されず、出来事が複数存在している点に着眼した[進行]である。第二に、[現場進行]の文の出来事地点は一か所であり、[非現場進行]の文の出来事地点は複数に及ぶということである。第三の要点としては、[現場進行]の文は出来事の多発を保証する成分が生起しないが、[非現場進行]の文には出来事の多発を保証する成分(“最近”、“現在”、“毎日”、“一天到晚”、“一直”、“六年”)が生起しているということである。また、第二章で運用した論理式の解析をここでも用いることにする。

第五章においては、副詞“在”が表す[進行]の概念が論理的に如何なるしくみによって成立しているのかを明らかにする。主たる考察方法は、副詞“在”が生起する文を五つのタイプに分けて分析し、“在”が示す[進行]とは厳密に[複数の出来事存在]の意であることを証明する。重要な点は、副詞“在”に後続する動詞が有する[持続]の意味特徴、及び他の成分や前後の文脈によって、出来事が「数量化」していることである。その五つのタイプは以下の通りである。

- ① 複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例
- ② 複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例
- ③ 複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例
- ④ 複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例
- ⑤ 他の文脈から[進行]を明確に判断できる例

そして、第六章では、副詞“在”は[進行]の意味を表す時態成分であるという仮説のもと、“在”と時制(tense)との関わりについて詳述する。主として、絶対時間と相対時間の二つの視点から“在”構文を考察する。その結果、絶対時間から考察すると、発話時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[過去]における[進行]、[現在]における[進行]、或いは[未来]における[進行]の表現が可能であることを論じる。一方、相対時間から考察すると、参照時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[簡単]の関係を構成すると考える。また、この章においても命題論理と述語論理を併用した論理式による解析を行う。そして最後には、集合論(set theory)を運用して“在”の文の生成プロセスを検討し、時間体系から見た“在”の文の生成は、時相(phase)表現から時態表現、そして時態表現から時制表現という過程を踏むことを提示する。

第七章においては、集合論と量子化子(quantifier)を運用して、副詞“在”と副詞“正”が表す意味を考察し、両成分の差異を明らかにする。その結果、“在”の[複数の出来事存在]の意は、通常、存在量子化子(existential quantifier)によって解析し、“正”の[複数の出来事存在]

包括]の意は全称量子化子(universal quantifier)によって解しえることを主張する。

以下第一章から順を追って考察を進める。

第一章 副詞“在”の先行研究¹

1.0 はじめに

本章は従来の研究者が副詞“在”を如何に解釈しているのかを確認し、その記述の中から検討の余地があると思われる点を提示する。それは以下の四点である。

第一に、副詞“在”に対して多くの研究者が「進行」という言葉を用いて解釈していることである。

第二に、“在”は[現在]、[過去]、[未来]のいずれにおいても生起しえることである。故に、“在”は時態(aspect)を表現することが可能であると推測できる。

第三としては、“在”は、“经常”、“总”、“一向”、“一直”、“还”、“又”、“已经”といった成分と共に起ることができ、これらの成分によって、“在”が修飾する出来事の長期的な存在を保証していることである。

そして第四に、副詞の“在”と前置詞の“在”は共に状況語となる点からして、時に両成分の境界線は曖昧となる可能性があるということである。

1.1 先行研究

本章では以下 19 個の記述を取り上げる。

- 1.1.1 潘文娱(1980)
- 1.1.2 北京大学中文系 1955、1957 级语言班编(1982)
- 1.1.3 杉村博文(1994)
- 1.1.4 龚千炎(1995)
- 1.1.5 王还主编(1997)
- 1.1.6 郭风岚(1998)
- 1.1.7 侯学超编(1998)
- 1.1.8 吕叔湘主编(1999)
- 1.1.9 朱继征(2000)
- 1.1.10 李科第(2001)
- 1.1.11 刘月华等(2001)
- 1.1.12 张斌主编(2001)
- 1.1.13 马真(2004)
- 1.1.14 李晓琪(2005)
- 1.1.15 朱景松主编(2007)
- 1.1.16 房玉清(2008)
- 1.1.17 卢福波(2010)
- 1.1.18 袁莉容 郭淑伟 王静(2010)

¹ 本章は青木(2014a)の『副詞“在”の意味解釈と問題点』に加筆、修正を行ったものである。

1.1.19 岑玉珍主编(2013)

では潘文娛(1980)の記述から見る。

1.1.1 潘文娛(〈談談“正”“在”和“正在”〉1980:44-47)

潘文娛(1980)は“在”に対して「動作が続いている、或いは進行中であることを表わす。」と述べた。また、「“在”の前方には“还”、“一直”、“已经”、“刚”等の時間副詞を加えることができる」と主張した。具体的な用例としては以下のようなものがある。(なお本稿における下線はすべて筆者による。また引用例の訳は 1.1.3 の杉村(1994)の記述以外はすべて筆者が行った。)

(1) 敌人已经在注意他们了。

(敵はすでに彼らを警戒しています。)

また潘文娛(1980:47)は次のような記述も残している。

「“在”が表わす持続性は離散的なものでもよい。しかし、それは日常的に行われているような動作である。」

そこでもう一つ例を挙げよう。

(2) 几年来,我都在在等着他!

(数年来、私はずっと彼を待ち続けています!)

この潘文娛(1980)において注目すべき記述は「“在”が表わす持続性は離散的なものでもよい。しかし、それは日常的に行われているような動作である。」である。

この記述から、副詞“在”が修飾する出来事は、一つの現場に制限されず、複数の現場において存在する可能性があるかと推測することができる。

1.1.2 北京大学中文系 1955、1957 级语言班编(《现代汉语虚词例释》1982:620)

北京大学中文系 1955、1957 级语言班编(1982:620)は“在”に対して「動作、行為が正に進行の状態にあることを表わす。」という解釈を与えている。具体的な例としては以下のような文がある。

(3) 延安的青年们干了些什么呢?—他们在在学习革命的理论,研究抗日救国的道理和方法。

(《毛泽东选集》532)

(「延安の青年たちは何をしたのか、それは革命の理論を学び、抗日救国の道理と方法を研究していたのである。」)

(4) 那时,我们红军每天在和敌人打仗。

(あの時、私たち紅軍は毎日敵と闘っていました。)

1.1.3 杉村博文(『中国語文法教室』1994:104-106)

ここでは杉村(1994:104-106)における記述を引用する。杉村(1994:104)は“在”が表す意味について以下のように述べている。

「“在”は時間の流れを感じさせる行為や状況の継続・進行を表すことが多く、主に書きことばで使われます。」

用例は以下のようなものがある。

(5) “你会说日语吗？”“我在自学日语，会一点儿，说得不好。”

(「あなたは日本語が話せますか」「いま日本語を自分で勉強しています。少しできますが、うまくはありません」)

(6) 三年过去了，他还在爱她。

(3年が過ぎたが、彼はなお彼女を愛し続けている)

(7) 一切都会变，一切都在变。我也在变。我的思想由复杂变简单，由简单变复杂，以后还要变下去。

(すべてが変化しうる、すべてが変化している。私も変化している。私の思考は複雑から単純に変化し、単純から複雑に変化した、そして今後もお変化し続けるであろう)

また杉村(1994:105)は次のような見解も述べている。

「“着”と“在”の表す持続・継続・進行といった概念は意味上強く排斥し合うものではないので、主に書面語においてですが、しばしば組み合わせられて用いられます。」

(8) 毛毛细雨还在不停地下着。

(こぬか雨はまだ間断なく降り続けている)

(9) 她正在做着前人没有做过的事。

(彼は今まさに前人が為したことの無い事をやっているところである)

(10) 计算机的广泛应用正在深刻地改造着生产力的面貌。

(コンピュータの広範な応用は今まさに生産力の様相を根本から換えつつある)

以上の記述の中で注目に値する点は以下のとおりである。まず、杉村(1994)は上記の例における“在”は主に書きことばで使われる。と述べているが、現在は書面語に止まらず口語においても“在”は多用されている。そこで陈前瑞(2008:257)における記述を紹介したい。陈前瑞(2008:257)は北京大学中文系の“汉语语料库检索”を利用し、老舍の《四世同堂》と、王朔の小説の中から、[進行]の意を表わす“在”と“呢”を取り出して両成分の生起率を比較した。その結果、《四世同堂》の“在”と“呢”の生起率は1:1.2となった。そして、《四世同堂》の会話文においては“在”が生起していないと述べた。一方、王朔の小説における“在”と“呢”の生起率は5.3:1という数値が得られた。故に現在では“在”は口語においても多く生起している、と推測しえる。

そこで、筆者は中国のテレビドラマを視聴して調査したところ、会話の場面において、副詞“在”が生起する文をたくさん収集することができた。例えば、《奋斗》の第一話だけで、副詞の“在”が生起した文を七つ、また《媳妇的美好时代》の第一話のみで二つ、そして《花非花雾非雾》における第一話では七つ収集することができた。(一話の放送時間は約四十分である。)また、本論文の第二章から第七章において用いる例の多くはテレビド

ラマの会話のシーンから収集したものである。従って、現在では副詞の“在”は口語においてもよく用いられる成分であると言って間違いないと思われる。

1.1.4 龚千炎(《汉语的时相时制时态》1995:44, 89-93)

龚千炎(1995:89)は“在”を時態成分として見なし、以下のように述べた。

「動作行為の変化が進行、或いは状態が続いていることを表わす。」

幾つか例を挙げておこう。

(11) 他们在砍在松树。

(彼らはユーカリの木を切っている。)

(12) 你去吧, 我在在写文章呢。

(行ってください、私は文章を書いているので。)

(13) 她身上的肿块不仅没有缩小, 而且还似乎在无休止地增大。

(彼女の体のできものは小さくならないばかりか、更に止まることなく大きくなっているようだ。)

(14) 是什么在扩散呢?

(何が拡散しているのですか?)

なお、時態とは、龚千炎(1995:44)によると「出来事(event)のある段階における特定の状態を表わす。」と解釈している。

1.1.5 王还主编(《汉英双解词典》1997:1103)

王还主编(《汉英双解词典》1997:1103)は副詞の“在”を二つの用法に区分した。即ち、

[1] “正在”の意味であり、動作が絶えず進行していることを表わす。“正”を替わりに用いることができる。²

(15) 秒针在不停地走动。

[The second hand on the clock is constantly moving.]

(秒針は絶えず動いている。)

(16) 什么人在在唱歌?

[Who is singing?]

(誰が歌を歌っているのだろうか?)

(17) 大家都在在等你。

[We are all waiting for you.]

(皆あなたを待っています。)

[2] ある範囲において活動していることを強調する。しかしそれは動作が進行の状態にあることを記述しているわけではない。他の副詞の修飾を受けることが可能である。“正”

² 筆者は“正”と“在”は異なる意味役割を果たすため、両者は、意味上、二つに分けて解釈する必要があると考える。その所以については第七章で詳述する。

と代替することができない。

- (18) 我几年来一直在作研究工作，没有教课。

[I've been engaged in research work in recent years and haven't done any teaching.]

(私はここ数年ずっと研究をしています。授業はしていません。)

- (19) 深夜了，他还在看书。

[It was late at night and he was still reading.]

(夜も深まった、彼はまだ読書をしている。)

- (20) 他又在写家信了。

[He's writing another letter to his family.]

(彼はまた家族宛の手紙を書いている。)

- (21) 阅览室里安静极了，没有人不在专心学习。

[The reading room is deathly quiet. There isn't a single person in there who isn't concentrating on his studies.]

(閲読室はとても静かで、みなが熱心に勉強している。)

以上の記述から分かるように、王还主编(1997:1103)は副詞の“在”を二つに区分し、その内の一つは[非進行]、つまり、「動作が進行の状態にあることを記述しているわけではない」という意味を表すと述べている。そのため、他の研究者の見解とは大きく異なっておりとても興味深い。そこで再び王还主编が用いた例を見ると、(18)、(19)、(20)、(21)における用例は、複数の出来事存在を連想させる“几年来”、“一直”、“还”、“又”、“没有人不”といった成分が生起していることに気づく。故に、これらの成分の生起が[非進行]の概念を生じさせる原因ではないかと推論できる。

1.1.6 郭风岚(〈论副词“在”与“正”的语义特征〉1998:38)

郭风岚(1998:38)は“在”に対して「動作行為の進行、或いは動作行為や状態の持続の時間量を表す。」といった解釈を与えている。用例としては次のような文を挙げている。

- (22) 我明知道我今生没有希望了，然而这几天我又好像在期待着什么似的。

(僕は今生に希望はないと分かっているけど、ここ数日また何かを期待しているような気がするんだ。)

- (23) 她还在抽抽搭搭地哭泣。

(彼女は依然としてさめざめと泣いている。)

- (24) 你总在想工作，想孩子们，想家庭琐事。

(君はいつも仕事や子供たち、家の切り盛りのことを気にかけている。)

1.1.7 侯学超编(《现代汉语虚词词典》1998:725-726)

侯学超编(1998)は、“在”は「“正在”(動作の進行、状態が続いていることを表わす(侯学超編 1998:745))の用法と同じである。」と述べた。实例としては以下のような文を挙げて

いる。まず“在”の後方に動詞，又は動詞連語が生起した文を見られたい。

- (25) 篝火在燃烧，孩子们在欢笑
(たき火が燃えていて、子どもたちは喜ばしげに笑っている)
- (26) 社会在发展，人民在前进
(社会は発展し続け、人は前進し続けている)
- (27) 干吗呀，我在做作业呢
(何ですか、私は宿題をしているのです)
- (28) 又不是我一个人，大家都在说
(私一人というわけではなく、みんなが揃って言っています)
- (29) 只剩下黑狗还在对着桑树啤，老尼姑念着佛(鲁迅)
(ただ黒犬が依然として桑の木に向かって吠え、尼さんがお経を読み続けているだけである)

次は“在”の後方に形容詞，或いは形容詞連語が生起した例である。

- (30) 这几天他总在忙，也不知忙些什么
(ここ数日彼はずっと忙しくしているが、何を忙しくしているのか分からない)
- (31) 我们的生活一天天在好起来，你不必挂心
(私たちの生活は一日一日良くなりました、気に掛ける必要はありません)
- (32) 机构也在逐步健全
(機関も次第に健全になっている)
- (33) 妈是在高兴，不是难过
(母は喜んでいる、悲しんではない)
- (34) 力量一天天在壮大
(力が日に日に増している)

1.1.8 吕叔湘主编(《现代汉语八百词(增订本)》1999:645)

副詞“在”に対して吕叔湘主编(1999:645)は「“正在”(動作が進行中，或いは状態が続いていることを表わす(1999:672))の意である。」と述べている。用例は以下の三つである。

- (35) 红旗在飘扬
(赤い旗がはためいている)
- (36) 火车在飞奔
(汽車が疾走している)
- (37) 时代在前进
(時代は前進している)

1.1.9 朱继征(『中国語の動相』2000:59)

朱继征(2000)は主として“在”と“着”の違いについて詳細な分析を行った。その結果、

“在”は動詞の外部状況を示す進行相形式であると主張した。

1.1.10 李科第(《汉语虚词辞典》2001:633)

李科第(2001:633)は“在”について以下のような見解を述べた。

「時間副詞として動詞の前に用いて、動作行為がちょうど進行の状態にあるということを表わしている。“正”、“正在”と解釈してよい。」

用例は以下の三つである。

(38) 历史在发展, 社会在前进。

(歴史は発展し続け、社会は前進し続けている。)

(39) 中国人民在开创人类历史上最壮丽的事业。

(我が人民は人類の歴史上、最も壮麗なる事業を創設している。)

(40) 风在吼, 马在叫, 黄河在咆哮。(光未然《黄河大合唱》)

(風は轟き、馬は嘶き、黄河は唸っている。)

1.1.11 刘月华等(《实用现代汉语语法(增订本)》2001:232)

刘月华等(2001:232)は、“在”は「動作の進行を表す」と考え、以下のような例を挙げている。

(41) A: 老师在做什么? 怎么不上课?

(先生は何をしているのだろうか? どうして授業に来ないのかな?)

(42) 早上我正在洗澡的时候, 有人打电话来。

(早朝、私がちょうど入浴しているときに、誰かが電話をしてきた。)

(43) 明年这个时候, 你会在做什么?

(来年の今ごろ、あなたは何をしていますのでしょうか?)

(44) 去年这个时候, 我正在上课。

(去年の今ごろ、私はちょうど授業をしていました。)

また、刘月华等(2001:232)は“在”は、同じく動作の進行を表わす“呢”と共起することができる。」と述べた。その例は、

(45) 我到学校的时候, 同学们正在考试呢。

(私が学校に着いた時、学生たちはちょうど試験をしていました。)

である。以上の記述の中で留意すべき点は、概念上、“在”の生起は時制(tense)に影響されないことが分かる。即ち、“在”は[現在]、[過去]、[未来]のいずれにおいても生起しえるということである。たとえば(41)は[現在]、(42)は[過去]、そして(43)においては[未来]の時制を有している。

一つ気になる点は、上記で紹介した如く、刘月华等(2001:232)は“在”は、同じく動作の進行を表わす“呢”と共起することができる。」と述べているが、一つの文に[進行]の意

を示す成分が同時に共起するという点に疑問を感じざるをえない。³

1.1.12 张斌主编(《现代汉语虚词词典》2001:683-684)

以下は张斌主编(2001:683-684)の引用である。

動作、或いは行為や性質の状態が進行、または続いていることを表わす。

(46) 我进去时, 他在给孩子们讲故事

(私が入って行ったとき、彼は子供たちに物語を話してあげていた)

(47) 他不像在作检讨, 倒像在诉苦

(彼は反省をしているのではなくて、苦情を言っているようである)

(48) 天气一天天地在热起来

(天気が日に日に暑くなってきた)

(49) 天在漫漫暗下来

(空が少しずつ暗くなってきた)

(50) 前方的战士在流血, 我们怎么能休息

(前線の兵士は流血しているのだから、我々はどのようにして休息することができようか)

“在”の後方に“着”、“呢”を伴うことができる。

(51) 吉普车在公路上颠簸着, 急驶着

(ジープ車は道路において揺れながら疾走している)

(52) 他在生气呢

(彼は怒っています)

(53) 他在跟进来的客人打着招呼

(彼は入ってきたお客に挨拶をしている)

(54) 他在玩命呢

(彼は命を軽んじている)

“在”の前方に“又”、“还”、“一直”、“一向”等を用いることができる。

(55) 他又在说谎了

(彼はまた出鱈目を言っている)

(56) 那孩子还在哭

(あの子供はまだ泣いている)

(57) 听说你一直在找这个秘方

(聞くところによると君はずっとこの秘伝の処方を探しているそうだね)

(58) 你不是一向在研究水果的培养和储存吗?

(あなたはずっと果物の栽培と保存について研究しているんですよね?)

以上の用例の中で注目に値する文は、(51)の“吉普车在公路上颠簸着, 急驶着”である。つまり、ここでの“在”は、通常、品詞でいうと前置詞である。しかし、述語句の“颠簸

³ 副詞“在”と“呢”が共起した文についての考察は第七章の論考を見られたい。

着，急驶着”は[持続]の意を表していると思えるため，文全体の意味としては[進行]の意味を表しえると考えられる。

1.1.13 马真(《现代汉语虚词研究方法论》2004:160)

马真(2004:160)は，“在”は[進行]の意を表わす時態成分と判断し，[未来]、[現在]、[過去]のいずれの時制においても生起できると主張した。そして以下の三つの例を列挙した。

(59) 也许觉察到我在暗暗注意他，吉茨忽然抬起脸朝我一笑。

(私がひそかに彼に注意を払っていることに気づいたのかもしれない、吉茨は忽然顔を挙げて、私に向かってぼつと笑みを浮かべた。)

(60) 以后，我在跟人家说话时，你最好别插嘴。

(今後私が人と話をしているときは、無駄口を挟まないでください。)

(61) “你爸爸去哪儿啦？”“没去哪儿，在备课呢。”

(「あなたのお父さんはどこへ行ったのですか?」「どこへも行っていません、講義の準備をしています。」)

以上の記述から，马真(2004:160)も“在”は[過去]、[現在]、[未来]におけるどの時制においても生起しえると思なしていることが分かる。また，(60)における“在”は時間を表わす“时”という成分が生起しているため，ここでの“在”は“在……时”という意味枠において用いられていることが分かる。通常，この“在……时”における“在”は前置詞と見なされる。しかし，この例における“我在跟人说话时”の“说话”は[持続]の意味を表し，文全体が表わす意味は確かに[進行]の意を示していると思なすことができる。よって“在”の意味役割と品詞について深く検討する余地があると思われる。

1.1.14 李晓琪(《现代汉语虚词讲义》2005:14-15)

李晓琪(2005:15)は，“在”は状況語として，ちょうど進行しているということを表わすと主張した。具体的に以下のような用例がある。

(62) 风在不停地刮，雨在不停地下。

(風は絶えず吹き、雨は止めどなく降っている。)

(63) 我经常在想，为什么会有战争？

(私はしょっちゅう考えています。どうして戦争があるのかと。)

(64) 我们在学习呢，你一会儿再来。

(私たちは勉強をしていますから、もう少ししてからまた来てください。)

1.1.15 朱景松主编(《现代汉语虚词词典》2007:531)

朱景松主编(2007:531)は“在”は“正在”(動作が進行していること，或いは状態が続いていることを表す(2007:551))の意であると解釈した。用例は下記のようなものがある。

(65) 大家的确在思索，而且的确相信军长的指示。

(皆は確かに沈思している、しかも紛れもなく隊長の指令を信じている。)

(66) 妈妈好像看出我在撒谎,因为我站在那儿一动不动,低着头不敢看他。

(お母さんは僕がウソをついているのを見透かしたようである。それは僕がそこへ佇立し微動だせず俯き、目を見ることができなかったからである。)

また、朱景松主编(2007:531)は、

「“在”が動詞性の成分を修飾するとき、動作の状態は厳密にその時刻において生じていなくてもよい。従って、“还”、“一直”、“已经”等の副詞と連用することができる。」と述べており、この記述から、“在”の[進行]は、一つの現場に制限されないと理解できる。

1.1.16 房玉清(《实用汉语语法(第二次修订本)》2008:393-394)

房玉清(2008:393)の“在”に対する解釈は「動作が進行中、或いは、状態が続いていることを表わす。」であり、用例として以下のような文を挙げている。

(67) 这时候,牛大水可还在巴巴的等着结亲呢。(孔厥、袁静)

(このとき牛大水はなお今か今かとお嫁を待ち続けていた。)

また、房玉清(2008:393)は「“在”は持続を表わすので、前方には副詞の“经常”や“一直”等を加えることもできる。」とも述べた。そこで次の例を見られたい。

(68) 我经常在练习

(私はよく練習をしている)

(69) 他一直在试验

(彼はずっと実験をしている)

1.1.17 卢福波(《汉语语法教学理论与方法》2010:142)

卢福波(2010:142)は“在”に対して次のように述べている。

「“在”は現在、或いは、ある時点、ある時間幅における動作の進行性を表わす。“在”を用いた文は、動作の一定の時間内における進行性を表せるので、文の形式上よく時間の幅を持つ連語成分、或いは“总”、“还”、“一直”など持続性を示す時間副詞と共起する。」次に卢福波(2010:142)が挙げた例文を引用しよう。

(70) 你在想什么?

(君は何を考えているのですか?)

(71) 整整一个假期,他都在尽义务。

(休暇の間全てを彼はボランティアに尽くした。)

(72) 从昨天晚上8点到今天早上5点,王大夫一直在做手术。

(昨夜八時から今朝の五時まで王医師はずっと手術を行っていた。)

1.1.18 袁莉容 郭淑伟 王静(《现代汉语句子的时间语义范畴研究》2010:160-170)

袁莉容 郭淑伟 王静(2010:169)は副詞“在”に対して「動作の進行を表わす」と述べた。

用例は次のような文がある。

- (73) 听说她还是妇女队长，整日在晒太阳、种庄稼，怎么就晒不黑呢？
(話によると彼女はやはり婦人隊長らしいね。一日中太陽に当たりっぱなしで農作業をしていて、日焼けしないはずがない。)
- (74) 早就下岗的杨欣这一年来工作老是在换。
(早々とリストラした楊欣はこの一年間で仕事を何度も換えている。)

1.1.19 岑玉珍主编(《汉语副词词典》2013:373)

岑玉珍主编(2013:373)では“在”について次のような解釈を与えている。

「動作の進行、状態が続いていることを表す。」

では用例を以下の如く列挙しよう。

- (75) 说呀，我在听着呢！
(言って、聞いているから！)
- (76) 快点，我们都在在等着你呢。
(早く、私達はみなあなたのことを待ち続けているのよ。)
- (77) 我在给朋友写电子邮件呢。
(私は友人にメールを書いているところです。)
- (78) 我们在谈论今天发生的事情。
(我々は今日起こった出来事について話し合っているところです。)
- (79) 风在轻轻地吹，小鸟在愉快地唱，孩子们在高兴地玩，一切都那么美好。
(風はそよそよと吹き、小鳥は愉快にさえずり、子供たちは喜ばしげに遊んでいる。すべてがあんなにも美しい。)
- (80) 他在忙着，你有事吗？
(彼は忙しくしていますが、用事がありますか？)
- (81) 他的身体在慢慢好起来。
(彼の身体は少しずつ回復しました。)
- (82) 大家都在在着急，不知道该怎么办。
(皆が焦っていて、どうしてよいのかわかりません。)

1.2 第一章の結び

以上の記述から重要だと思われる点を次の如く総括する。それは全部で四つある。

第一に、多くの研究者が「進行」という言葉を用いて副詞“在”を解釈していることである。これについては第五章で詳述する。

第二に、“在”は[現在]、[過去]、[未来]のいずれにおいても生起しえるということである。故に、“在”は時態を表現することが可能であると推測できる。“在”と時制の関係、及び“在”が示す時態表現については第六章にて詳しく検討する。

第一章における第三の要点は、“在”は、“经常”、“总”、“一向”、“一直”、“还”、“又”、“已经”等と共に起し、これによって、“在”が修飾する出来事の長期的な存在が保証されていると解しえる点である。これについては王还主编(1997:1103)が最も厳密に解釈しているといえる。つまり、王还主编(1997:1103)は、副詞の“在”を[進行]と[非進行]の二つに区分し、後者の[非進行]における“在”の用例には、意味上、複数の出来事の実在を保証する“几年来”、“一直”、“还”、“又”、“没有人不”という成分が生起している、と看取できる。従って、これらの成分の生起が[非進行]の概念を生じさせる要因ではないかと推論するに到りうる。この問題に関しては第四章において詳しく論じる。

そして第四の要点は、1.1.12の张斌主编(2001)が挙げた“吉普车在公路上颠簸着，急驶着”と1.1.13の马真(2004)が挙げた“以后，我在跟人家说话时，你最好别插嘴。”という例における“在”は、通常、いずれも前置詞として見なされるが、この二つの文における動詞とともに[持続]の意味特徴を保持しており、文全体は確かに[進行]の意を表していると見なしえる。しかも、副詞の“在”と前置詞の“在”は共に状況語となりえる。よって、両者の境界線は時として曖昧となる可能性があるかと推論しえる、ということである。これに対しては第二章で妥当な見解を提示する。

最後に各研究者の“在”に対する解釈を簡潔に示すことにしよう。

表一[各研究者の副詞“在”に対する解釈]

研究者	“在”が表す意味
1.1.1 潘文娛(1980)	動作が続いている、或いは <u>進行</u> 中であることを表わす。
1.1.2 北京大学中文系 1955、1957 级语言班编(1982)	動作行為が正に <u>進行</u> の状態。
1.1.3 杉村博文(1994)	時間の流れを感じさせる行為や状況の継続・ <u>進行</u> 。
1.1.4 龚千炎(1995)	動作行為の変化が <u>進行</u> 、或いは状態が続いていることを表わす。
1.1.5 王还主编(1997)	1. 動作が絶えず <u>進行</u> していることを表わす。 2. ある範囲において活動していることを強調する。しかしそれは動作が <u>進行の状態にあることを記述しているわけではない</u> 。
1.1.6 郭风岚(1998)	動作行為の <u>進行</u> 、或いは動作行為や状態の持続の時間量を表す。
1.1.7 侯学超编(1998)	“正在”(動作の <u>進行</u> 、状態が続いていることを表す(侯学超编 1998:745))と同様の意味を表わす。
1.1.8 吕叔湘主编(1999)	“正在”(動作が <u>進行中</u> 、或いは状態が続いている

	ことを表す(呂叔湘編 1999:672)の意である。
1. 1. 9 朱继征(2000)	動詞の外部状況を示す <u>進行</u> 相形式。
1. 1. 10 李科第(2001)	動作行為がちょうど <u>進行</u> の状態にあるということを表わしている。
1. 1. 11 刘月华等(2001)	動作の <u>進行</u> 。
1. 1. 12 张斌主编(2001)	動作、或いは行為や性質の状態が <u>進行</u> 、または続いていることを表わす。
1. 1. 13 马真(2004)	<u>進行</u> を表す。
1. 1. 14 李晓琪(2005)	ちょうど <u>進行</u> しているということを表わす。
1. 1. 15 朱景松主编(2007)	“正在”(動作が <u>進行</u> していること、或いは状態が続いていることを表す(朱景松主编 2007:551))の意である。
1. 1. 16 房玉清(2008)	動作が <u>進行中</u> 、或いは、状態が続いていることを表わす。
1. 1. 17 卢福波(2010)	現在、或いはある時点、ある時間幅における動作の <u>進行性</u> 。
1. 1. 18 袁莉容 郭淑伟 王静(2010)	動作の <u>進行</u> を表す。
1. 1. 19 岑玉珍主编(2013)	動作の <u>進行</u> 、状態が続いていることを表す。

第二章 副詞“在”と前置詞“在”の統一的解釈⁴

2.0 はじめに

本章では[進行]の意を示す副詞の“在”は、意味上、前置詞の“在”と同様に出来事
の存在場所を示す成分が後続することを証明する。従って、如何なる場合に“在”の目的語
が省略され、逆に如何なる場合に“在”の目的語が生起するのかを論じることとなる。そ
こで考察の便宜を図り、[進行]の意を示す“在”が生起した文を以下の三つに分けること
にしたい。

- ① 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文
- ② 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文
- ③ 目的語が生起した“在”構文⁵

次節では「①出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文」に
ついて検討する。

2.1 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文

まず例の一つ挙げよう。

- (1) 这样每一天都在乞讨，这就是我心中永远无法抹去的梦魇！（テレビドラマ《夏家三千
金》第27話）

（このようにして毎日物乞いをしていたのよ、これがずっと抜けきれないトラウマ
よ！）

この“这样每一天都在乞讨”は“在”の目的語として意味上“街边”が含まれていると
考える。それは(1)の文脈を広げて考察するとその原因が判然とする。(2)を見られたい。

⁴ 本章は青木(2013a)の『現代中国語の統語成分“在”の用法と意味』を基に再考したものである。

⁵ 前置詞の“在”が生起した文も[進行]の意を示しえると判断した理由は以下の研究者による見解を基に
した。

まず、丁声树等(2009(1961):111)は“我在床上看书”(私はベッドで読書をしている)という文は「人が
ベッドに存在し、読書をするもベッドに存在する」と述べている。故に“我在床上看书”には二つの意を
含んでいると理解できる。次に李华偉(2010:92-93)は“我在教室读书”(私は教室で勉強をしている)に対
して以下のような見解を有している。「我在教室」と“我在读书”は合併して“我在教室读书”となる。
“我在教室”と“我在读书”の“在”は同じ様な意味を有するので、合併後の文ではただ一つの“在”を
用いればよい。」また、李华偉(2010:95)では“我在教室读书”(私は教室で勉強をしている)という文は「ち
ょうど[進行]しているという時態を表わすが、同時に存在の意味も有している。」と指摘した。

更に范继淹(1982:75)と张斌主编(2001:684)では、“在”は副詞と前置詞の二役を担っていることを主張
している。そこで张斌主编(2001:684)における記述を代表として挙げると、「“他在(副詞)在(前置詞)
黑板上写字”(彼は黑板に字を書いている)という時、二つの“在”は合わさって一つになり“他在黑板上
写字”という。」と述べている。

また、第一章で言及したように、张斌主编(2001:684)は副詞“在”の用例として“吉普车在公路上颠簸
着，急驶着”(ジープ車は道路において揺れながら疾走している)という文を、そして马真(2004:160)は“以
后，我在跟人家说话时，你最好别插嘴。”(今後私が人と話をしているときは、無駄口を挟まないくださ
い。)という文を挙げている。通常これらの“在”はともに前置詞として見なされるが、この二つの文にお
ける動詞はいずれも[持続]の意味特徴を保持しており、文全体は確かに[進行]の意を表していると思
える。よって、前置詞の“在”が生起した文も[進行]の意味を示すことができると理解できる。

(2) 那都是因为我的过去！亮亮，你是唯一一个知道我身世的人，我真的已经穷怕了，我的爸妈又穷又贫，被债主逼得双双死亡，我也被债主抓到，差一点就被卖了，最后，还是被逼得在街边乞讨，我就这样，每天抬着头，看着别人的鞋子，这样每一天都在乞讨，这就是我心中永远无法抹去的梦魇！（テレビドラマ《夏家三千金》第27話）

まず上から三行目の“还是被逼得在街边乞讨”（けっきょく借金取りに追い詰められて道端で物乞いをするはめになった）に注意されたい。ここでは“在”の後に“街边”が生起し“乞讨”が行われる場所を明確に理解することができる。従って、この“在”は品詞でいうと前置詞である。そこでその後の“这样每一天都在乞讨”を見ると、ここでは“在”の後方に目的語が生起していないので、“在”の品詞は副詞である。しかし上述の如く、三行目の“还是被逼得在街边乞讨”では、“在”が前置詞として、“街边”という場所を示す目的語を導いている。よって、“每一天都在乞讨”の出来事地点も“街边”であると推測することができる。つまり、三行目の“还是被逼得在街边乞讨”で既に“街边”が使われたので、その後の“这样每一天都在乞讨”では“街边”が既知の情報として省略されたと考えるのである。

このような考察は他の研究者による見解とも整合性を有する。例えば沈家煊(1999:99)は“我在做饭”という文に対して、

「料理をする」という行為は、一般的に特定の場所，即ち台所と関係し，台所は前提的に分かる情報である」

と述べた。この記述から“在”の目的語が既知の情報である場合、省略が可能であるということが分かる。

朱德熙(1982:176)では「いくつかの前置詞の目的語は省略することができる。」と述べて、三つの例を列挙した。

- (3) 他给()修好了(彼は修理してくれた)
- (4) 小偷儿被()抓走了(泥棒は逮捕されていった)
- (5) 他们在()说你呐(彼らはあなたのことを言っているのですよ)

更に、朱德熙(1982:178)では前置詞“被”、“给”について以下のように述べ、同時に二つの例を挙げた。

「“被”と“给”の後方には時に目的語を伴わない。それは、動作主が分からない場合，或いは、言う必要がないことがあるからである。」

- (6) 他被逮捕了(彼は逮捕された)
- (7) 衣服全给淋湿了(服はすっかりびしょぬれになった)

また、Chao(2011(1968):758)も前置詞“在”、“被”、“给”の目的語は省略しえると見なしている。

以上により前置詞“在”、“被”、“给”は時として目的語の省略が可能であることを確認することができた。しかし、上記の研究者は、なぜ前置詞の目的語が省略されて副詞的な用法となったのかを、多くの事例や前後の文脈を含ませながら詳述してはいない。そこで

“在”、“被”、“给”の目的語省略現象についてももう少し論じることしたい。まず“被”から検討する。次の(8)の用例は(2)の中から重要な表現だけを取り上げた文である。

- (8) 我的爸妈又穷又贫，被债主逼得双双死亡，我也被债主抓到，差一点就被卖了，最后，还是被逼得在街边乞讨，……(テレビドラマ《夏家三千金》第27話)

(私の両親はそろって貧しく、借金取りに追い詰められてともに他界したわ。私もその借金取りに捉まって、危うく売られるところだった。最後には、けっきょく追い詰められて道端で物乞いをするはめになったの、……)

この例では前置詞の“被”が立て続けに四度も使われている。即ち、“被债主逼得双双死亡”、“我也被债主抓到”、“差一点就被卖了”、“还是被逼得在街边乞讨”である。注目されたいのは、一番目と二番目の“被”の後方には「動作主」である“債主”が目的語として生起しているが、三、四番目の“被”の後ろには目的語が生起していない、ということである。その原因は、一、二番目の表現によって、既に「動作主」が“債主”であることが明確となったので、三、四番目では“被”の目的語である“債主”を省略したと解しえる。しかし、一、二番目の“被”構文と同様に、三、四番目の“被”構文においても、意味上は「動作主」である“債主”が存在していると見なすことができる。

そこで一つ疑問が浮かぶ。それは、なぜ一番目と二番目の“被”構文における「動作主」の“債主”は省略されず、三番目と四番目の“被”構文の「動作主」である“債主”は省略されたのか、ということである。その理由は、(8)の文脈が示すように、一番目の“被”構文の「受け手」と二、三、四番目の“被”構文の「受け手」が異なるからである。つまり、一番目の文における「受け手」は“我的爸妈”であり、二番目の「受け手」は“我”である。しかし、三、四番目の“被”構文における「受け手」は二番目に続きいずれも“我”である。故に、三、四番目の“被”に後続しえる「動作主」の“債主”は既知の情報として省略されたのである。

もう一つ“被”の目的語が省略された文を挙げよう。

- (9) A: 玲子，你这要去哪儿啊？

B: 大少爷被抓了。

A: 他怎么了？

B: 他在烟馆里被日本人抓了。(テレビドラマ《范府大院》第30話)

(A: 「玲子、どこに行くの?」)

(B: 「若旦那が捕まっちゃいました。」)

(A: 「どうしたの?」)

(B: 「アヘン館で日本人に捕まっちゃいました。」)

ここでは“大少爷被抓了”における“被”の後には目的語が省略されているが、“他在烟馆里被日本人抓了”における“被”の後には目的語が生起している。というのは、“玲子，你这要去哪儿啊？”と質問された時点では、発話者の“玲子”は若旦那が捕まったことのみが重要で、誰によって捕まっちゃったのかを明示する必要がない、と判断したため

あるといえる。“大少爷被抓了”は望ましい出来事ではないからである。しかし“玲子”は更に相手に“他怎么了?”と質問されたため、仕方がなく“他在烟馆儿里被日本人抓了”と返答したのである。

次に前置詞“给”の目的語が省略された例を見られたい。

(10) 下月五号,你必须,必须给我怀上!你要是不给怀上,你就别来见我!(テレビドラマ《咱们结婚吧》第35話)

(来月の五日、あなたは必ず、必ず私のために妊娠するのよ!もしそうじゃなかったら、もう会いに来るんじゃないよ!)

(11) 我的伤口是她给看的。(テレビドラマ《夜幕下的哈尔滨》第5話)

(私の傷は彼女が見てくれたんです。)

(10)の“你要是不给怀上”における“给”の目的語は“我”であると考えることができる。なぜなら“你要是不给怀上”の前には“给”の後方に“我”という目的語を伴った“必须给我怀上”という文が生起しているからである。

そして(11)の“我的伤口是她给看的”では、“给看”の間に目的語が省略されたと見なす。なぜなら、“给看”の前方には“我的伤口”が生起しているため、意味上“我”という目的語が“给”に後続すると推論しえるからである。

そこで、松村(2005)の見解を基に、命題論理(propositional logic)と述語論理(predicate logic)を併用した論理式による解析を行い、意味上、前置詞の後方に存在する目的語、および、各成分の間の意味関係を厳密に表記することにしよう。

再度(10)の“给怀上”の部分を見られたい。この文に含まれている意味を厳密に抽出すると「あなたが、私のために、あなたが子どもをつくったということをする」という意を示すと考えられるので、ここでの“给”は[授与]の意を表していると解しえる。朱德熙(1980:153)は[授与]について以下の三つの定義を行った。

- ① 授与者と取得者がある。
- ② 授与者が与えて取得者が受け取る事物がある。
- ③ 授与者が自発的に事物を授与者から取得者へ到らせる。

この定義を参考に(10)の“给怀上”に当てはめて分かりやすく解釈すると、

- ①' 授与者である“你”と取得者である“我”がある。
- ②' 授与者である“你”が取得者である“我”に与える出来事“怀上孩子”がある。
- ③' 授与者である“你”が行う“怀上孩子”という出来事が、取得者の“我”に到る。

と考えることができる。そこで以上の①'、②'、③'を命題論理と述語論理を用いて厳密に形式化することにしたい。つまり以下のように考える。

まず Chao(2011(1968):353)や朱德熙(1982:160)が述べるように“给”を述連構造の一番目の動詞であると見なし、“给”の意味的な作用域(scope)は“怀上”よりも広いと考える。そして、“给怀上”における[授与]の意は“给”が核となって生成されると理解する。従って、①'「授与者である“你”と取得者である“我”がある。」の定義に基づくと以下のよ

うな式を作ることができる。⁶

(12) 給' (你, 我,)
スル ~ガ ~ニ ~ヲ

この式は「授与者である“你”が、取得者である“我”に、ある出来事をする」という意を表している。即ち“給”は、“你”と“我”とある出来事(ここでは“你怀上孩子”)の関係を指定する役割を果たしている。“給”の右に置かれたプライム“'”は論理式において“給”が述語であることを表している。なお、式には日本語のカタカナを付記したが、これは意味注釈と呼び、論理式に対する解釈の理解を補佐している。そして、②'の「授与者である“你”が取得者である“我”に与える出来事“怀上孩子”がある。」を論理式で示すと、

(13) 怀上' (你, 孩子)
ツクッタ ~ガ ~ヲ

となる。この式は“怀上' (你, 孩子)”が「あなたが子供をつくった」という意を示している。⁷故にこの(13)の式を(12)に当てはめると(14)ができる。

(14) ツクッタ ~ガ ~ヲ
給' {你, 我, 怀上' (你, 孩子)}
スル ~ガ ~ニ ~トイウコトヲ

この論理式は「あなたが、私に、あなたが子どもをつくったということをする」という意味を表している。⁸そして③'の「授与者である“你”が行う“怀上孩子”という出来事が、取得者の“我”に到る。」という定義を論理式で表現すると、

(15) 到' (怀上' (你, 孩子), 我)
到ル ~ガ ~ニ

となり、「それ(あなたが子どもをつくった)が私に到る」という意を表している。最後に(14)

⁶ Chao (2011 (1968):353-358)では「V1 - V2の低位意味はV1で決定される」と述べ、多くの用例を挙げている。その内、“在”、“从”、“到”、“打”、“离”、“往”、“对”、“向”、“给”、“替”、“为”、“跟”、“比”、“叫”等がV1として生起している。そのため、これらの成分は、述連構造全体から見ると、V1の役割を担い、かつ、V2の意味を支配していると考えられる。故に、本論文で、V1を担う前置詞“给”、“被”、“在”の作用域がV2の作用域よりも広いと考えて論理表記を行うことは妥当な分析であると言える。

また、朱德熙(1982:160)は「中国語の前置詞は多くが動詞の性質を有している。従って、前置詞は述詞とは見なさないが、“前置詞+目的語+述語性成分”の形式は、述詞によって構成される述連構造の性質にきわめて近い。故に、述連構造の一種であると見なしてよい。」と述べている。重要なことは、前置詞単独ではなく、“前置詞+目的語+述語性成分”という構造全体から見た際に、その前置詞は述連構造のV1と同様の役割を果たす、と推測しえることである。

⁷ ここでの“怀上”は“怀”と“上”を分けてより厳密に“怀' (你, 孩子)&有' {怀' (你, 孩子), 上}”と分析できるが、煩雑になり論点がずれるので簡略表記した。以下の論考で表す論理式(第三章から第七章までを含む)の分析においても、論点に影響が生じない場合、便宜を図り簡略表記を行うこととする。

⁸ 本章の論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”の四つを使用する。そして“()”が最も作用域(scope)が狭く、【 】が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭いことを表している。

と(15)の式を組み合わせると、(10)の“給怀上”に含まれている意味が全て表されることになる。(16)を見られたい。

- (16) ツクッタ ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
給' [你,我,怀上' (你,孩子) & 到' {怀上' (你,孩子),我}]
スル ～ガ ～ニ ～トイウコトヲ

この式全体は「あなたが私のために子供をつくってあげた」という意を示している。この式の内部を見ると、まず“怀上' (你,孩子)”が「あなたが子どもをつかった」という意を示している。次に“你怀上”という出来事が“我”に到ったことを表す“到' {怀上' (你,孩子),我}”が「それ(あなたが子どもをつかった)が私に到る」という意を示している。“&”は連言(conjunction)の意を示している。要するに“怀上' (你,孩子)”と“到' {怀上' (你,孩子),我}”という命題が同時に成立していることを意味する。そして(16)の論理式全体である“給' [你,我,怀上' (你,孩子)&到' {怀上' (你,孩子),我}]”は「あなたが、私に、あなたが子どもをつくり、かつそれ(あなたが子どもをつかった)が私に到るということをする」と読む。⁹

以上の論理式による解析によって、“給”に後続する目的語、及び“给怀上”に含まれている意味を厳密に明示することができた。

さて、今度は上記の“给”構文の分析を基に、(8)における“被卖了”の部分も論理表記してみよう。この文は以下の三つの意味が含まれていると考えられる。

- ① 取得者である“我”と授与者である“债主”がある。
- ② 授与者である“债主”が取得者である“我”に対して行う出来事“卖了”がある。
- ③ 授与者である“债主”が行う“卖了”という出来事が、取得者である“我”に到る。

従って論理式は下記ようになる。

- (17) 売ッタ ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
被' [我,债主,卖了' (债主,我)&到' {卖了' (债主,我),我}]
被ル ～ガ ～カラ ～トイウコトヲ

“卖了' (债主,我)”は「借金取りが私を売った」という意を示し、“到' {卖了' (债主,我),我}”は「それ(借金取りが私を売った)が私に到る」という意を示している。そして式全体の“被' [我,债主,卖了' (债主,我)&到' {卖了' (债主,我),我}]”は「私が、借金取りから、借金取りが私を売り、かつそれ(借金取りが私を売った)が私に到るということ being 被る」と読む。この論理式によって“被”に後続する目的語を明示し、かつ、“被卖了”に内在する意味を詳細に記述することができた。

以上の解析に倣い、(1)の“在乞讨”に含まれる意味も論理式で分析してみよう。この文の“在”は以下のような意味が含まれていると判断する。

- ① 動作主である“我”と動作主の存在場所である“街边”がある。
- ② 動作主である“我”が行う出来事“乞讨”がある。

⁹ 論理式の生成原理については第三章でより詳しく論じる。

③ 動作主である“我”が行う“乞討”という出来事が，“街边”という場所に存在する。そのため論理式は以下のような表記となる。

- (18) 物乞イヲスル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [我, 街边, 乞讨’ (我)] & 在’ [乞讨’ (我), 街边]]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は“乞讨’ (我)”が「私が物乞いをする」という意を、次に“在’ [乞讨’ (我), 街边]”が「それ(私が物乞いをする)が道端に存在する」という意を、そして式全体である“在’ [我, 街边, 乞讨’ (我)] & 在’ [乞讨’ (我), 街边]”が「私が、道端において、私が物乞いをし、かつそれ(私が物乞いをする)が道端に存在するという様態にある」と読む。

以上の論理式において重要なことは、前置詞“給”、“被”、“在”は述語として、三つの個体の関係を定める役割を果たすということである。この個体とは、厳密にいうと、ある特定の属性を持つ個体である。指摘しておきたいことは、論理式では、出来事も個体と見なすことである。要するに「ある動作行為を行う集合の中の個体」と考えることによって、出来事が名詞性成分の個体と一緒に演算されるのである。

そこで“給”、“被”、“在”がそれぞれ伴う三つの個体を“ α ”と“ β ”と“ γ ”を用いて、以下のように抽象化してみたい。

- (a) 給’ / 被’ / 在’ (α, β, γ)

つまり“給’ / 被’ / 在’”は函数(function)として“ α ”と“ β ”と“ γ ”といった項(argument)をとる、と考える。そこで上記の“给怀上”の論理式である(16)、“被卖了”の論理式である(17)、“在乞讨”の論理式である(18)を例として考えてみると、まず、(16)の“给”が中心となって構成される論理式は、“ α ”に[動作主]が生起し、“ β ”に[受け手]が生起し、“ γ ”に[授与]の内容を示す出来事が生起すると見なしえる。次に(17)の“被”は、“ α ”に[受け手]が、“ β ”に[動作主]が、“ γ ”に[取得]の内容を表す出来事が置かれると考えられる。そして(18)の“在”においては、“ α ”は[動作主]が、“ β ”は出来事の[存在場所]が、“ γ ”は[進行]という[様態]を示す出来事が配置すると解しえる。

以上の考察により、前置詞“给”、“被”、“在”は時として目的語が生起せず副詞的な用法となるものの、意味上は前置詞の構造を保持し、目的語の意味内容が包摂されている、ということが理解できた。さて、これらの考察を頼りにし、再び“在”について論じる。次の(19)は“家里”によって“在等你”の出来事地点を見出すことができる例である。

- (19) 妈妈跟姥姥做了一桌子好吃的, 我是自告奋勇来接你的。走! 家里就缺你这个小公主了, 都在等你呢! (テレビドラマ《天真遇到现实》第33話)

(ママとおばあちゃんは沢山のごちそうを作ったんだ、お父さんは危険を承知で迎えにきたんだよ。行こう! 家にはお姫様だけが足りないんだ、君を待っているよ!)

この“都在等你呢”には“在”の後ろに目的語が生起していない。しかしこの文の前方の“家里就缺你这个小公主了”には“家里”が生起していることから、“等你”という出来事が“家里”において起こっていると解釈することができる。従って“在等你”の部分は

「彼女らが、家において、彼女らが君を待っている」という命題内容を含んでいると理解できるので以下のような論理式を書くことができる。

- (20) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [她们, 家里, 等' (她们, 你) & 在' {等' (她们, 你), 家里}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“等”(她们, 你)”が「彼女らが君を待つ」という意を表し, “在”(等'(她们, 你), 家里)”が「それ(彼女らが君を待つ)が家に存在する」という意を表し, “在'[她们, 家里, 等'(她们, 你)&在'(等'(她们, 你), 家里)]”が「彼女らが, 家において, 彼女らが君を待ち, かつそれ(彼女らが君を待つ)が家に存在するという様態にある」という意味を表している。

次の(21)の“钱少奶奶在洗衣服”における“在”の目的語は“院中”が後続していると考える。

- (21) 乘着钱先生闭上了眼, 瑞宣轻轻的走出来。在院中, 他看见钱少奶奶在洗衣服。(小説《四世同堂》310頁)

(钱氏が目を閉じた隙に瑞宣はそっと部屋を抜け出すと、中庭で钱氏の若奥さんが衣服を洗っている姿を目にした。)

“钱少奶奶在洗衣服”では“在”と動詞との間には目的語が出現しておらず、故に, “钱少奶奶在洗衣服”という出来事が何処で行われているのかが判然としない。ところが, “钱少奶奶在洗衣服”の前方には場所を示す“在院中”が生起しているので, “钱少奶奶在洗衣服”における“在”の後方には意味上“院中”が省略されていると考えられる。よって論理式は,

- (22) 洗ウ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [钱少奶奶, 院中, 洗' (钱少奶奶, 衣服)&在' {洗' (钱少奶奶, 衣服), 院中}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

となる。“洗”(钱少奶奶, 衣服)”が「钱氏の若奥さんが衣服を洗う」という意を, “在”(洗'(钱少奶奶, 衣服), 院中)”が「それ(钱氏の若奥さんが衣服を洗う)が中庭に存在する」という意を, そして“在'[钱少奶奶, 院中, 洗'(钱少奶奶, 衣服)&在'(洗'(钱少奶奶, 衣服), 院中)]”が「钱氏の若奥さんが, 中庭において, 钱氏の若奥さんが衣服を洗い, かつそれ(钱氏の若奥さんが衣服を洗う)が中庭に存在するという様態にある」という意を表している。

以上の二例からも“在”の目的語の省略現象を理解することができた。念のため, 似た例を幾つか追加しておきたい。

- (23) 那是一个寂静的下午, 内文学馆中只有婉儿一个女孩在看书。(小説《上官婉儿》30頁)

(あれは静寂なる午後だった、内文学館ではただ婉儿だけが読書をしていた。)

- (24) 高登在修理场, 他在装新的锅炉。(テレビドラマ《托马斯&朋友》第21話)

(機関車のゴードンは修理場にいた、彼は新しいボイラーを装着しているところだ。)

- (25) 阮先生是在里面, 不过他还在昏迷, 我们还在观察中。(テレビドラマ《佳期如梦》第16話)

(阮さんは中にいます。ただ相変わらず昏睡しておりまして、私たちはまだ容態を窺っているところです。)

(23)の“婉儿一个女孩在看书”における“在”の目的語は“内文学館”であると見なしえる。というのは“婉儿一个女孩在看书”の前に“内文学館”という場所を表す成分が生起しているからである。ここでも論理式による分析を行うことにする。

- (26) 見ル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [婉儿, 内文学館, 看’ (婉儿, 书) & 在’ {看’ (婉儿, 书), 内文学館}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は“看’ (婉儿, 书)”が「婉儿が本を読む」という意味を表し, “在’ {看’ (婉儿, 书), 内文学館}”が「それ(婉儿が本を読む)が内文学館に存在する」という意味を表し, “在’ [婉儿, 内文学館, 看’ (婉儿, 书)&在’ {看’ (婉儿, 书), 内文学館}]”が「婉儿が, 内文学館において, 婉儿が本を読み、かつそれ(婉儿が本を読む)が内文学館に存在するという様態にある」という意を示している。

次に(24)の“他在装新的锅炉”における“在”の目的語は, 前に生起した“修理場”であると理解できる。故にこの文の論理式は,

- (27) 装着スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [他, 修理場, 装’ (他, 新的锅炉)&在’ {装’ (他, 新的锅炉), 修理场}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

と表記できる。この式は“装’ (他, 新的锅炉)”が「彼が新しいボイラーを装着する」という意味を, “在’ {装’ (他, 新的锅炉), 修理场}”が「それ(彼が新しいボイラーを装着する)が修理場に存在する」という意味を, そして式全体の“在’ [他, 修理場, 装’ (他, 新的锅炉)&在’ {装’ (他, 新的锅炉), 修理场}]”は「彼が, 修理場において, 彼が新しいボイラーを装着し、かつそれ(彼が新しいボイラーを装着する)が修理場に存在するという様態にある」という意を表している。

(25)の“不过他还在昏迷”における“在”の目的語は, 前の“阮先生是在里面”における“里面”であると解しえる。この文も論理表記しておこう。

- (28) 昏睡スル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [他, 里面, 昏迷’ (他) & 在’ {昏迷’ (他), 里面}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

“昏迷’ (他)”が「彼が昏睡する」という意味を表し, “在’ {昏迷’ (他), 里面}”が「それ(彼が昏睡する)が中に存在する」という意味を表し, “在’ [他, 里面, 昏迷’ (他)&在’ {昏迷’ (他), 里面}]”が「彼が, 中において, 彼が昏睡し、かつそれ(彼が昏睡する)が中に存在するという様態にある」という意を表している。

以下の二例も上記と同じような解釈が可能である。

(29) A: 太太呢?

B: 在客厅, 和几位杭州来的茶商在说话。(テレビドラマ《京华烟云》第 26 話)

(A: 「うちの妻は?」)

(B: 「奥様は客間にいます、杭州から来た茶商の方々と話をしているところです。」)

(30) 昨天在洗手间, 说玩儿游戏, 根本就不是玩游戏, 明明就是在打电话, 是不是跟西风打电话哪? (テレビドラマ《咱们结婚吧》第 42 話)

(昨日洗面所でゲームをしていると言っただけ、全くもって嘘じゃない、間違いなく電話をしていたわ、西風と電話をしていたの?)

(29) の“和几位杭州来的茶商在说话”における“在”の目的語は前方に生じた“客厅”であると理解できる。この文もこれまでと同様に論理表記しておこう。

(31) スル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

在' [太太, 客厅, 说' (太太, 话) & 在' {说' (太太, 话), 客厅}]

アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

この式は“说' (太太, 话)”が「奥様が話をする」という意味を表している。そして“在' {说' (太太, 话), 客厅}”が「それ(奥様が話をする)が客間に存在する」という意を表している。式全体である“在' [太太, 客厅, 说' (太太, 话)&在' {说' (太太, 话), 客厅}]”は「奥様が、客間において、奥様が話をし、かつそれ(奥様が話をする)が客間に存在するという状態にある」という意を表現している。

(30) では、最初に“昨天在洗手间”が生起しているの、後方にある“明明就是在打电话”の“在”には、意味上、“洗手间”という目的語が後続すると判断できる。

従って“在打电话”の部分論理式にして表すと、

(32) スル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

在' [你, 洗手间, 打' (你, 电话) & 在' {打' (你, 电话), 洗手间}]

アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

と書ける。この式は“打' (你, 电话)”が「あなたが電話をする」という意味を表し、“在' {打' (你, 电话), 洗手间}”が「それ(あなたが電話をする)がトイレに存在する」という意味を表し、“在' [你, 洗手间, 打' (你, 电话)&在' {打' (你, 电话), 洗手间}]”が「あなたが、トイレにおいて、あなたが電話をし、かつそれ(あなたが電話をする)がトイレに存在するという状態にある」という意を表している。

以上の解析方法に倣うと、“正在”が生起する文についても同様に解釈しえることに気付く。例えば、

(33) 还有一天, 一个最放肆的年青的站了起来, 二话不说就走进秀莲的卧室, 秀莲还正在睡觉。(小説《鼓书艺人》55 頁)

(更にある日、一番放蕩な青年が起立し、一目散に秀蓮の寝室へと入っていった。秀蓮はまだ睡眠をとっているところだった。)

(34) 乔莉答应了。她站起身，走到休息间，想拿杯酸奶，却看见云海正在吃面包，云海打招呼说：“嗨，安妮，早啊。”（小説《浮沉2》11頁）

（乔莉は承諾をし、立ち上がると、休憩室へと足を運ばせた。そしてヨーグルトを手にとろうとすると、云海がちょうどパンをほうばっているのを目にした。彼は「ハイ、安妮、おはよう」と挨拶をした。）

(35) 喂，一帆，你妈妈生病了，现在在医院呢。没什么大事，就是有点发烧，正在打点滴呢。（テレビドラマ《蚁族的奋斗》第15話）

（もしもし、一帆、あなたのお母さんが体調を崩してね、いま病院にいるの。大したことはないわ、ただちょっと熱があるの、ちょうど点滴をしているところよ。）

(33)の“秀莲还正在睡觉”における“在”の目的語は“秀莲的卧室”であると考えることができる。なぜなら“秀莲还正在睡觉”の前に“秀莲的卧室”という場所を表す成分が生起しているからである。では“在”と直接連関する成分のみを抽出して論理表記しよう。

(36) トル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [秀莲, 秀莲的卧室, 睡' (秀莲, 觉) & 在' {睡' (秀莲, 觉), 秀莲的卧室}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“睡' (秀莲, 觉)”が「秀莲が睡眠をとる」という意味を，“在' {睡' (秀莲, 觉), 秀莲的卧室}”が「それ(秀莲が睡眠をとる)が秀莲の寝室に存在する」という意味を、そして“在' [秀莲, 秀莲的卧室, 睡' (秀莲, 觉)]&在' {睡' (秀莲, 觉), 秀莲的卧室}”が「秀莲が、秀莲の寝室において、秀莲が睡眠をとり、かつそれ(秀莲が睡眠をとる)が秀莲の寝室に存在するという様態にある」という意を示している。

次に(34)の“却看见云海正在吃面包”における“在”の目的語について考えてみると、ここでは前に“走到休息间”があるので、“云海正在吃面包”の出来事地点は“休息间”であると見なすことが可能である。そのため論理式は以下のようになる。

(37) 食ベル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [云海, 休息间, 吃' (云海, 面包) & 在' {吃' (云海, 面包), 休息间}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

“吃' (云海, 面包)”が「云海がパンを食べる」という意味を，“在' {吃' (云海, 面包), 休息间}”が「それ(云海がパンを食べる)が休憩室に存在する」という意味を，“在' [云海, 休息间, 吃' (云海, 面包)]&在' {吃' (云海, 面包), 休息间}”が「云海が、休憩室において、云海がパンを食べ、かつそれ(云海がパンを食べる)が休憩室に存在するという様態にある」という意を表している。

そして(35)の“正在打点滴”における“在”の目的語は、この文の前方にある“现在在医院呢”の“医院”であると理解できるので、

(38) スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [你妈妈, 医院, 打' (你妈妈, 点滴) & 在' {打' (你妈妈, 点滴), 医院}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった論理式を構成することになる。この式は“打’（你妈妈, 点滴）”が「あなたのお母さんが点滴をする」という意味を表し, “在’ [打’（你妈妈, 点滴), 医院]”が「それ(あなたのお母さんが点滴をする)が病院に存在する」という意味を表し, “在’ [你妈妈, 医院, 打’（你妈妈, 点滴)&在’ [打’（你妈妈, 点滴), 医院]]”が「あなたのお母さんが, 病院において, あなたのお母さんが点滴をし, かつそれ(あなたのお母さんが点滴をする)が病院に存在するという様態にある」という意を表している。

あと二つ似た例を挙げておこう。

- (39) 今天经过珠宝店的时候, 看到你正在卖这条项链, 我就知道你一定是在为皓天凑医药费呢。(テレビドラマ《夏家三千金》第34話)

(今日、宝石店を通りかかったときに、あなたが丁度このネックレスを売っているのを見たの。知っているわ、皓天のために医療費を集めているんでしょう。)

- (40) A: 这屋子里在干什么呢?

B: 范伯伯, 我爸正在打光汉呢。(テレビドラマ《范府大院》第25話)

(A: 「その部屋の中で何をやっているんだ?」)

(B: 「范さん、僕の父が光汉をお仕置きしているのです。」)

(39)の“你正在卖这条项链”は“在”の目的語が生起していないが、前に“今天经过珠宝店的时候”という命題表現があるので、“在”の目的語は“珠宝店”である、という判断を下しえる。故に論理式は下記の如く表記できる。

- (41) 売ル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ
在’ [你, 珠宝店, 卖’ (你, 这条项链)&在’ {卖’ (你, 这条项链), 珠宝店}]
アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

この論理式は“卖’ (你, 这条项链)”が「あなたがこのネックレスを売る」という意味を示し, “在’ {卖’ (你, 这条项链), 珠宝店}”が「それ(あなたがこのネックレスを売る)が宝石店に存在する」という意味を示している。そして式全体である“在’ [你, 珠宝店, 卖’ (你, 这条项链)&在’ {卖’ (你, 这条项链), 珠宝店}]”は「あなたが, 宝石店において, あなたがこのネックレスを売り, かつそれ(あなたがこのネックレスを売る)が宝石店に存在するという様態にある」という意を表している。

(40)の文は、最初に“这屋子里在干什么呢”という文があるので、この文の回答である“范伯伯, 我爸正在打光汉呢”の“我爸打光汉”という出来事は“屋子”において行われていると推測することができる。そのため論理式は次のようになる。

- (42) 才仕置キスル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ
在’ [我爸, 屋子里, 打’ (我爸, 光汉) & 在’ [打’ (我爸, 光汉), 屋子里]]
アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

(42)は“打’ (我爸, 光汉)”が「僕の父が光汉をお仕置きする」という意味を表し, “在’ [打’ (我爸, 光汉), 屋子里]”が「それ(僕の父が光汉をお仕置きする)が部屋に存在する」という意味を表し, “在’ [我爸, 屋子里, 打’ (我爸, 光汉)&在’ [打’ (我爸, 光汉),

屋子里]」が「僕の父が、部屋において、僕の父が光汉をお仕置きし、かつそれ(僕の父が光汉をお仕置きする)が部屋に存在するという状態にある」という意を表している。

そこで、以下の用例を見たときに疑問が生じるかと思われる。

(43) 我在打车! (テレビドラマ《张小五の春天》第2話)

(私はタクシーを拾っているのよ!)

(44) A: 在等我?

B: 嗯, 刚才吃夜宵的时候, 看到你们科定的饭盒上有你的名字, 所以就稍微多等了一小会儿。(テレビドラマ《再婚进行时》第14話)

(A: 「あなた私を待っているの?」)

(B: 「うん、さっき夜食をとるときにあなた達が注文した弁当ケースにあなたの名前があったのを見たの、だから、ちょっとだけ長めに待っていたのよ。」)

(45) 喂, 莫愁啊, 我是姐姐, 我看到了那个报纸了, 我想跟你说两句, 喂, 喂, 在听吗?

(テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(もしもし、莫愁、お姉ちゃんよ、あの新聞を見たわ、ちょっと話があるんだけど、もしもし、聞いているかしら?)

(43)、(44)、(45)はいずれも“在”の後方に目的語が生起しておらず。しかも前後の文脈からも出来事の発生地点を推測することができない。しかし、(43)の例は、引用先であるテレビドラマ《张小五の春天》によると、この場面は酒に酔った発話者が一人でタクシーを拾っている所である。故に“我在打车”の出来事地点は、発話者が存在している一つの場所に限定されるので、既知の情報として“在”の目的語が省略されたと解釈できる。よって論理式に示すと下記のように分析できる。

(46) 拾ウ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [我, 这儿, 打' (我, 车) & 在' {打' (我, 车), 这儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ状態ニ

この式は、まず“打' (我, 车)”が「私がタクシーを拾う」という意味を表している。次に“在' {打' (我, 车), 这儿}”が「それ(私がタクシーを拾う)がここに存在する」という意味を表している。そして式全体となる“在' [我, 这儿, 打' (我, 车)&在' {打' (我, 车), 这儿}]”が「私が、ここにおいて、私がタクシーを拾い、かつそれ(私がタクシーを拾う)がここに存在するという状態にある」という意を表している。

また(44)の“在等我?”では、一見“等”がどこで生じているのかが不明だが、《再婚进行时》を見ると、発話時点の一所で行われていることが分かるが故、既知の情報として“在”の目的語が省略されたと理解できる。故に“在等我”は「あなたが、ここにおいて、私を待っている」という意を包摂していると解しうるので、

(47) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [你, 这儿, 等' (你, 我) & 在' {等' (你, 我), 这儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ状態ニ

といった論理式が完成する。つまり“等’(你,我)”が「あなたが私を待つ」という意味を表し,“在’{等’(你,我),这儿}”が「それ(あなたが私を待つ)がここに存在する」という意味を表し,“在’[你,这儿,等’(你,我)&在’{等’(你,我),这儿}]”が「あなたが,ここにおいて,あなたが私を待ち,かつそれ(あなたが私を待つ)がここに存在するという様態にある」という意を表している。

そして,(45)の“在听吗”は《京华烟云》を見ると,発話者はすでに相手がどこで電話をしているのかを理解している,ということが看取できるので,特定の一つ所で“听”をしていることが分かる。故に“在”の後方の目的語を省略することができたと解しえる。これも論理式を使って記してみよう。

- (48) スル ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ
 在’【你,那儿,听’{你,说’(我,话)}&在’[听’{你,说’(我,话)},那儿]】
 キク ~ガ ~ヲ
 アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

“说’(我,话)”が「私が話をする」という意味を,“听’{你,说’(我,话)}”が「あなたがそれ(私が話をする)を聞く」という意を,そして“在’[听’{你,说’(我,话)},那儿]”が「それ(あなたが私が話をするのを聞く)があそこに存在する」という意味を表している。最後に式全体である“在’【你,那儿,听’{你,说’(我,话)}&在’[听’{你,说’(我,话)},那儿]】”の読みは「あなたが,あそこにおいて,あなたが私が話をするのを聞き,かつそれ(あなたが私が話をするのを聞く)があそこに存在するという様態にある」となる。

次節では,出来事地点が複数に及ぶことにより,出来事の発生地点を特定化することができず,目的語が省略された“在”構文について検討したい。

2.2 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文

まず以下の例について考えてみよう。

- (49) A: 红玉,我记得我出国留学前,你就在看红楼梦,现在还在看呀?
 B: 我百看不厌,我最喜欢林黛玉了。(テレビドラマ《京华烟云》第17話)
 (A:「红玉,僕が海外留学する前から,君は红楼梦を読んでいたと思うんだけど,今もまだ読んでいるのかい?」)
 (B:「何度読んでも飽きないわ。林黛玉が一番好きなの。」)

ここでの考察対象は“现在还在看呀”における“在”である。この文の発話者 A は“是非”である。なお“在”に焦点を当てた論考にするため,便宜を図って“现在还在看呀”を“红玉在看红楼梦”という命題表現に変換して考察を進めることにする。この“红玉在看红楼梦”は複数の地点で何度も行われ,出来事地点を一つに限定させる必要がなくなったが故,“在”の後の目的語が省略されたと考えられる。その根拠は以下の四つである。

第一に,ドラマ《京华烟云》を見ると,(49)の場面において,“红玉”は実際に“红楼梦”を手にとって読むという行為を行っていないからある。

第二としては、“我记得我出国留学前，你就在看红楼梦”や“现在还在看呀”における副詞の“还”，更には“我百看不厌”などの表現から，“红玉在看红楼梦”が繰り返して行われていることが分かるためである。

そして三つ目の根拠は、ドラマ《京华烟云》には、(49)のシーン以外においても“红玉在看红楼梦”の多発性を看取できる文が発話されるからである。以下それらの例をあげよう。まず(50)を見られたい。

(50) A: 红玉身子这么淡薄，是不是病了？

B: 每年的春秋两季呢，她都会病上几回，去年春天啊，她在床上躺了一个多月，可她都不肯休息，整夜整夜地看红楼梦。(テレビドラマ《京华烟云》第16話)

(A: 「红玉の身体があんなにも細いのは病気だからかな?」)

(B: 「毎年春と秋に何度か体を壊して、去年の春、彼女は床で一カ月余りも横たわっていたの。でも、決して休もうとはせずに、毎晩のように红楼梦を読んでいたわ。」)

(50)における“整夜整夜地看红楼梦”は、「毎晩のように红楼梦を読む」という意である。故に、“红玉”が飽きることなく何度も“红楼梦”を見ていたと理解することができる。なお、ここでの発話者Aは“迪非”であるため、この時“迪非”は、“红玉”が红楼梦を幾度となく読んでいることを知ることができた、と理解しうる。続けて(51)の例も見られたい。この場面からも“红玉”が如何に“红楼梦”を愛読しているのかが窺える。

(51) A: 红玉，这红楼梦你看过多少遍了？

B: 不多，也就二十几遍吧。可我每一次看完，都有不同的感受。(テレビドラマ《京华烟云》第16話)

(A: 「红玉、この红楼梦の本、どのくらい見たの?」)

(B: 「多くはないわ、せいぜい二十回くらいかしら。でも毎回読み終えるたびに違った感銘を受けるの。」)

(51)では発話者Bが“红玉”であり、“不多，也就二十几遍吧。可我每一次看完，都有不同的感受”と答えていることから、彼女の“红楼梦”に対する熱狂ぶりが察しえる。また、発話者Aが“这红楼梦你看过多少遍了?”といった質問をしていることから、“红玉”が“红楼梦”を飽きることなく何度も読み続けていることを推測しえる。なお、この場面でも“迪非”は登場しているので、“迪非”が、“红玉”が“红楼梦”を愛読しているのを知ったことの証拠となりえる。

従って(50)、(51)の二例からも“红玉在看红楼梦”という出来事が幾度となく発生していることが明晰となった。

さて、“红玉在看红楼梦”があらゆる場所において何度も行われていることを示す第四の根拠は、ドラマ《京华烟云》の第30話から看取しえる。この場面においても“红玉”は“红楼梦”を読み、かつそれを大邸宅の庭園において、泰然と歩きながら行っている。従って“红玉在看红楼梦”の出来事地点が一つの場所に限定されていない、ということを改

めて理解することができる。

以上の四つの理由により，“紅玉在看紅樓夢”が様々な所で発生していることが判然とした。故に“現在还在看呀”における“在”の目的語は出来事の発生地点を指定することができず省略されたと見なしうる。では“紅玉在看紅樓夢”を論理式で表してみよう。

- (52) 読ム ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [紅玉, φ, 看’ (紅玉, 紅樓夢)&在’ {看’ (紅玉, 紅樓夢), φ}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は、まず“看’ (紅玉, 紅樓夢)”が「紅玉が紅樓夢を読む」という意味を表している。次に“在’ {看’ (紅玉, 紅樓夢), φ}”が「それ(紅玉が紅樓夢を読む)がある場所に存在する」という意味を表している。“φ”は「ファイ」と読み、不確定の場所を指示している。そして(52)全体の“在’ [紅玉, φ, 看’ (紅玉, 紅樓夢)&在’ {看’ (紅玉, 紅樓夢), φ}]”は「紅玉が、ある場所において、紅玉が紅樓夢を読み、かつそれ(紅玉が紅樓夢を読む)がある場所に存在するという様態にある」という意を表している。

留意されたいことは、ある対象の特定化が行えず目的語が生起しない現象は他の構文においても存在する、ということである。そこで“被”構文が生起した文を二例見られたい。

- (53) A: 静宜, 好点儿了吗?
 B: 好多了, 谢谢你。
 A: 到底怎么回事儿啊?
 B: 我被关到电梯里了。(テレビドラマ《女人的颜色》第 67 話)
 (A: 「静宜、少しは良くなった?」)
 (B: 「だいぶ良くなったわ、ありがとう。」)
 (A: 「一体どうしたの?」)
 (B: 「誰かのせいでエレベーターに閉じ込められたの。」)

“我被关到电梯里了”における“被”の後には目的語が生起していない。それは何故だろうか。というのは、発話者 B である“静宜”は誰によって“关在电梯里”ということをやったのかが分からなかったからである。これは(53)の例の引用先であるドラマ《女人的颜色》を見ると判然とする。この場面は、発話者 B の“静宜”が閉塞症であることを知る友人が、愛人を奪われた恨みを果たすため、ひそかに発話者 B の“静宜”を特別な操作によってエレベーターの中に閉じ込めてしまう。だが幸いにも“静宜”は病院に運ばれ一命を取りとめるのである。従って、“被”の後方に生起するはずの目的語が特定化できず、省略されたと理解できるので、以下のような論理式が連想しうる。

- (54) 閉ジ込メル ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
 被’ {我, φ, 关’ (φ, 我) & 到’ (我, 电梯里)}
 被ル ～ガ ～カラ ～トイウコトヲ

(54)の論理式は“关’ (φ, 我)”が「誰かが私を閉じ込める」という意味を表し、

“到’（我，电梯里）”が「私がエレベーターに到る」という意味を表し，“被’{我，φ，关’（φ，我）&到’（我，电梯里）}”が「私が，誰かから，誰かが私を閉じ込め，かつ私がエレベーターに到るということを被る」という意を表している。

- (55) 她一定在学声乐的，她的才能是不会被埋没的。（テレビドラマ《花非花雾非雾》第22話）

（彼女はきっと声楽を学んでいるはずよ、彼女の才能は埋もれるはずがないわ。）

ドラマ《花非花雾非雾》によると，この文は“她”を長年探し続けている妹が発話したものである。しかし姉の消息はほとんど得られずにいた。故に，姉の才能を潰した人物を表現することは不可能であり，かつ必要のないことなので，“被”の後方の目的語が省略されたと解しうる。よってこの文の論理式は，

(56) 埋メル ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
被’ [她的才能，φ，埋没’（φ，她的才能）&到’ {埋没’（φ，她的才能），她的才能}]
被ル ～ガ ～カラ ～トイウコトヲ

となる。“埋没’（φ，她的才能）”が「誰かが彼女の才能を埋める」という意味を，“到’ {埋没’（φ，她的才能），她的才能}”が「それ（誰かが彼女の才能を埋める）が彼女の才能に到る」という意味を，“被’ [她的才能，φ，埋没’（φ，她的才能）&到’ {埋没’（φ，她的才能），她的才能}]”が「彼女の才能が，誰かから，誰かが彼女の才能を埋め，かつそれ（誰かが彼女の才能を埋める）が彼女の才能に到るということを被る」という意を表している。

さて，再び，出来事地点が複数に及ぶため“在”の目的語が省略された例を挙げることにする。それは以下の三例である。

- (57) 现在他们到处在抓我。（テレビドラマ《范府大院》第22話）

（いま彼らはあちこちで俺を捕まえようとしている。）

- (58) 这是世界上现在最风靡的一个舞蹈，全世界人都在跳。（テレビドラマ《咱们结婚吧》第20話）

（これはいま世界で一番旋風を巻き起こしているダンスなんだ、世界中の人がみな踊っているんだ。）

- (59) 他倾耳细听，街上没有一点声音。那最常听到的电车铃声，与小贩的呼声，今天都一律停止。北平是在悲泣！（小説《四世同堂》45頁）

（彼が耳を澄ませると，街道は静寂しきっている。あのいちばん耳馴染みなトロリーバスの鈴の音と物売りの掛け声は，いま全てピツリと止んでいる。北平が慟哭しているのだ！）

(57)では“他们”と“到处”が生起しているが故，“抓我”があらゆる場所において行われていることが想像できる。よって，“他们在抓我”の出来事地点を特定化することができず，“在”の後方の目的語が省略されたと推測することができる。念のためここでも論理式を運用して解析する。

- (60) 捕マエル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [他们, 到处, 抓' (他们, 我) & 在' {抓' (他们, 我), 到处}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は、まず“抓' (他们, 我)”が「彼らが俺を捕まえる」という意味を表し、次に“在' [抓' (他们, 我), 到处]”が「それ(彼らが俺を捕まえる)があちこちに存在する」という意味を示している。そして式全体である“在' [他们, 到处, 抓' (他们, 我)& 在' {抓' (他们, 我), 到处}]”の意味は「彼らが、あちこちにおいて、彼らが俺を捕まえ、かつそれ(彼らが俺を捕まえる)があちこちに存在するという様態にある」と読む。

(58)の“全世界人都在跳”では、“全世界人都”によって、“跳”という出来事が複数存在していることが保証されるので、特別“跳”の発生地点を定める必要がなくなり、“在”の目的語が省略されたと判断しえる。そのため論理式で表すと下記の(61)のようになる。

- (61) 踊ル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [全世界人, φ, 跳' (全世界人)&在' {跳' (全世界人), φ}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

“跳' (全世界人)”が「世界中の人が踊る」という意を、“在' {跳' (全世界人), φ}”が「それ(世界中の人が踊る)がある場所に存在する」という意を、そして“在' [全世界人, φ, 跳' (全世界人)&在' {跳' (全世界人), φ}]”が「世界中の人が、ある場所において、世界中の人が踊り、かつそれ(世界中の人が踊る)がある場所に存在するという様態にある」という意を表現している。

さて、(59)の“北平是在悲泣”においては、“北平”に含まれる複数の場所概念によって、目的語が“在”に後続していないと考えられる。そこで“那最常听到的电车铃声, 与小贩的呼声,”に留意されたい。これは北平の本来のあるべき平和な情景を描写している。しかし、“今天都一律停止”により、この時、その普段のあるべき北平の活気が全て失われていることが分かる。即ち、“北平”に存在するさまざまなものから感じ取れる活気のなさが“北平是在悲泣”を意味しているのである。そのため、“悲泣”の出来事地点をわざわざ一つずつ表現する必要はなく、“在”の目的語が省略されたと理解できる。よって論理式を用いると、

- (62) 働哭スル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [北平, φ, 哭泣' (北平)&在' {哭泣' (北平), φ}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

となる。この式は、“哭泣' (北平)”が「北平が働哭する」という意味を表し、“在' {哭泣' (北平), φ}”が「それ(北平が働哭する)がある場所に存在する」という意味を表し、“在' [北平, φ, 哭泣' (北平)&在' {哭泣' (北平), φ}]”が「北平が、ある場所において、北平が働哭し、かつそれ(北平が働哭する)がある場所に存在するという様態にある」という意を表している。

以上から、“在”に後続して出来事の存在場所を示す成分は、出来事の発生地点が複数に

及ぶと、出来事の発生日の特定化が困難となるが故、省略されることが分かった。

次の節では目的語が生じた“在”構文について論じることにした。

2.3 目的語が生じた“在”構文

ここでは如何なる場合に“在”の目的語が生じるのかを考えてみたい。以下四つの例を挙げる。まず(63)の例を見られたい。

(63) 快点儿收拾啊，我在楼下等你。(テレビドラマ《等待绽放》第30話)

(早く片付けてね、下で待っているわ。)

ここでは“在”の後に“楼下”が生起している。なぜなら、引用先のドラマ《等待绽放》から看取できるように、発話者は、いま居る場所とは異なった所、つまり“楼下”で“等你”という出来事が存在することを相手に伝えようとしたからである。従って論理式を用いると、

(64) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [我, 楼下, 等' (我, 你) & 在' {等' (我, 你), 楼下}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

と解析できる。この式は“等' (我, 你)”が「私があなたを待つ」という意を、“在' {等' (我, 你), 楼下}”が「それ(私があなたを待つ)が下に存在する」という意を、“在' [我, 楼下, 等' (我, 你)]&在' {等' (我, 你), 楼下}”が「私が、下において、私があなたを待ち、かつそれ(私があなたを待つ)が下に存在するという様態にある」という意を表している。

逆に出来事の存在場所を発話の地点に固定させたい場合には次のような表現をする必要がある。

(65) “你等一下，我去跟冯超讲一下。”她转身向大厅里跑，跑了两步，又回过头叮嘱他，“你在这等我啊，不要跑了，我去跟他讲一下就回来。”她看见他点头了，才放心地向大厅跑去。(小説《致命的温柔》95頁)

(「ちょっと待っていて、冯超と話をしにいつてくるから。」彼女は身翻して大広間へと駆けた。ところが、数歩足を進めると、再度振り返って彼に言い聞かせた。

「ここで待っていてね。いなくならないですよ、彼とちょっと話しをしたらすぐ戻って来るから。」そして彼が頷く姿を確認すると、安心した様子で大広間へと駆けて行った。)

二行目の“你在这等我啊”における“在”の後ろには近方を指示する“这”が目的語として生起している。というのは、この場面は“回过头叮嘱他”、“不要跑了，我去跟他讲一下就回来”、“她看见他点头了，才放心地向大厅跑去”という命題表現から看取できるように、“你在这等我啊”と発話した人物は、相手に対して、発話地点に留まって自分のことを待っていて欲しい、と強く望んでいるのである。これも論理式で表現しておきたい。

- (66) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [你, 这, 等' (你, 我) & 在' {等' (你, 我), 这}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この式は“等' (你, 我)”が「あなたが私を待つ」という意を表し, “在' (等' (你, 我), 这)”が「それ(あなたが私を待つ)がここに存在する」という意を表し, “在' [你, 这, 等' (你, 我)&在' {等' (你, 我), 这}]”が「あなたが, ここにおいて, あなたが私を待ち, かつそれ(あなたが私を待つ)がここに存在するという様態にある」という意味を表している。

また, “这儿”とは反対に, 遠くで存在している出来事を指示する場合には“那儿”を用いて,

(67) 就是因为不贵啊, 我们才买了这些东西回来。很多人都在那儿排队啊, 我们也排了很久, 所以啊, 更要多买点儿回来。(テレビドラマ《来不及说我爱你》第19話)
 といった文を作ることができる。“很多人都在那儿排队啊”(たくさんの人があそこで並んでいます)は“在”の後方に“那儿”が生起しているので, “排队”が発話者から遠方において存在していると推測することができる。実際に, ドラマ《来不及说我爱你》を確認するとその距離を感じとることができる。故にこの文を論理式で示すと以下のように表記する必要がある。

- (68) 並ブ ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [很多人, 那儿, 排队' (很多人)&在' {排队' (很多人), 那儿}]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“排队' (很多人)”が「たくさんの人が並ぶ」という意味を表している。次に“在' {排队' (很多人), 那儿}”は「それ(たくさんの人が並ぶ)があそこに存在する」という意味を表している。式全体である“在' [很多人, 那儿, 排队' (很多人)&在' {排队' (很多人), 那儿}]”は「たくさんの人が, あそこにおいて, たくさんの人が並び, かつそれ(たくさんの人が並ぶ)があそこに存在するという様態にある」といった意を示している。

そこで興味深いことは, たとえ発話者の傍で出来事が[進行]していても, 発話者が疎遠に感じる場合は“这儿”を使わず“那儿”を使って,

- (69) 丁香, 你知道吗, 世界上最遥远的距离, 不是你在天涯我在海角, 而是我站在你旁边, 你却在那儿玩手机。(テレビドラマ《北京青年》第8話)

(丁香, 知っているかい, 世界で最も遠い距離って, 君が天にいて僕が海にいるようなものじゃないんだ。それは僕が君の横で立っているのに君が携帯をいじっていることなんだ。)

とすることができることである。ここでの“那儿”は発話者と出来事の間における空間的な距離を指示しているわけではない, と考えられる。それは, ドラマ《北京青年》における展開と“世界上最遥远的距离, 不是你在天涯我在海角, 而是我站在你旁边, 你却在那儿玩手机”という命題表現に秘密が隠されている。つまり, 発話者は聞き手である“丁香”

に対して酷く好意を抱いていたが、一向に受け入れられずにいた。故に、発話者は、この時“丁香”と身体的距離が近いにも関わらず、心的距離は依然として天地の差があったと感じたのである。換言すると、発話者は、“丁香”は発話者とはかけ離れた所において“玩儿手机”という行為を行っているという感覚に見廻れたのである。それが故、発話者は、“你玩儿手机”が発話者の真横で行われているにもかかわらず“那儿”を用いたと解しえる。従って論理式を使用すると、

(70) 弄ル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在’ [你, 那儿, 玩’ (你, 手机) & 在’ {玩’ (你, 手机), 那儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった表記となる。この式は“玩’ (你, 手机)”が「君が携帯を弄る」という意を表し、“在’ {玩’ (你, 手机), 那儿)”が「それ(君が携帯を弄る)があそこ存在する」という意を表し、“在’ [你, 那儿, 玩’ (你, 手机)&在’ {玩’ (你, 手机), 那儿}]”が「君が、あそこにおいて、君が携帯を弄り、かつそれ(君が携帯を弄る)があそこ存在するという状態にある」という意味を表している。

2.4 第二章の結び

本章は[進行]の意味を表す“在”構文を、

- ① 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文
- ② 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文
- ③ 目的語が生じた“在”構文

の三つに分けて論じ、副詞の“在”は、意味上、前置詞の機能を兼ね備えていることを多くの実例と論理式によって証明した。

また、前置詞“被”、“给”、および“正在”が生じた文も後続成分が省略された例として考察を行い“在”の目的語省略現象の傍証とした。

第三章 “在” 構文の生成過程¹⁰

3.0 はじめに

第二章では[進行]の意味を表す“在”構文を命題論理と述語論理を併用した論理式によって解析した。本章では論理式の整合性の向上を図るため、[進行]の意を示す“在”が生じた“你在这等我”(小説《致命的温柔》95頁)の部分をオートマトン(automaton)、状態遷移図(state transition diagram)、論理回路(logical circuit)、タイプ理論(type theory)に当てはめて考察する。そして最後には談話概念から論理式の生成過程を検討する。次節ではオートマトンを用いた解析を行う。

3.1 オートマトンによる解析

オートマトンとは何かを簡潔に紹介するために、まずオートマトンについて適切な解説が見られる小倉(1996)の記述を引用する。

「オートマトン(automaton, 複数形は automata)は、情報科学では抽象的な有限状態の順序機械であるが、もともとの意味は、オルゴールとともにヨーロッパで発達してきた華麗な自動人形である。オートマトンはさまざまなものが提案されている。当初は人工知能の研究対象として考えられてきた。さまざまな知的な振舞いをする抽象的な自動機械のモデルとして考えられていたのである。ここで対象としているオートマトンは、記号処理システムとしてのコンピュータのモデルになっており、より抽象化された意味で言語を対象とする機械である。」(小倉 1996:83)

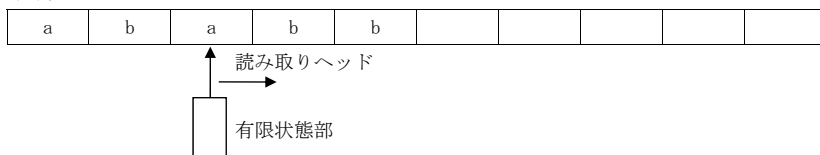
また、小倉(1996)は以下のようにも述べている。

「オートマトンの分野は理論としては形式言語理論から計算理論まで広範にわたるが、実際の応用としてもプログラミングやシステムの設計など広い範囲で、知識の表現方法としてもさまざまに使われている。」(小倉 1996:83)

そして小倉(1996:89)はオートマトンのモデルを次の(1)のように図示した。

(1)

入力テープ



この図について説明しよう。メモリ状の長方形は「入力テープ」という。入力テープはマスによって分けられており、このマスの中に文字が入力されることになる。その際、文字は一マスにおいて一つしか入力することができない。なお、本章では“你在这等我”を

¹⁰ 本章は青木(2013c)の『時態成分“在”の生成過程』に対して大幅に加筆、修正を行ったものである。

解析するので、“你”を入力の開始地点であると仮定する。

縦に延長している矢印は「読み取りヘッド」という。これは文字を読み取る役割を果たすので、入力テープの最も左側のマスから読み取っていくことになる。従って、横に伸びる矢印は読み取りヘッドの移動方向を示している。つまり、左から文字の読み取りが開始すると、右へと一マスずつヘッドが移行し、一つずつ文字を読み取っていくのである。故に、読み取った文字を保管する場所が必要となる。それは縦に伸びる長方形がその役割を果たしている。これを「有限状態部」と呼ぶ。有限状態部は入力データを受け取ると、そのデータを保管して情報を処理する機能を果たす。従って、文字を読み取ると有限状態部にはその文字のデータが蓄積されることになる。

以上からオートマトンは言語の解析にも応用することができると考えられる。そこで(1)をヒントにして“你在这等我”(あなたがここで私を待っている)を実際にオートマトンに当て嵌めてみることにしよう。(2)を見られたい。

(2)

入力テープ

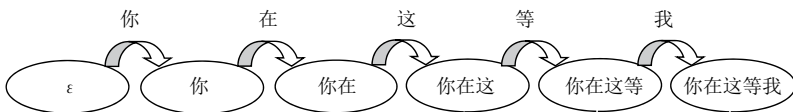


この図から“你在这等我”は“你”から読み取りが始まって、その後、“在”、“这”、“等”、“我”と読み込まれていくことが想像できる。それに伴って、有限状態部はその文字の情報をすべて受け取ることになる。つまり、“你”が“你在”、“你在这”、“你在这等”、“你在这等我”と次第にデータが蓄積されていくのである。そして読み取りが“我”まで到達すると“你在这等我”が完成し、かつ、その文字が全て有限状態部に蓄積されていることになる。ところがここで一つの疑問が生じる。それは、有限状態部では如何なる操作が行われているのか、ということである。つまり、オートマトンの運用によって“你在这等我”をひとつずつ読み取っていくことは分かったが、そのプロセスにおいて生じたデータ処理が如何なるものかについては明らかではない。そこで新たなモデルとして、次節では状態遷移図を運用してみることにしたい。

3.2 状態遷移図による解析

状態遷移図を用いると“你在这等我”は以下の(3)のように示すことができる。

(3)



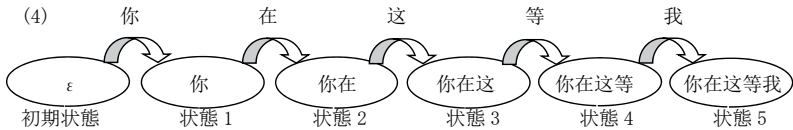
この図から“你在这等我”の生起プロセスをより詳しく理解することができる。“你”から読み取りが始まり，“在”、“这”、“等”、“我”が順番に加わって、最終的には“你在这等我”が完成することになる。オートマトンと異なるのは、文字が読み取られたときに、蓄積されたデータがその度にはっきりと図示されているということである。これは内部記憶(internal memory)によって実現される。実際に我々が一つの文を発話する際にも、脳内においてこれと同じような情報処理を行っているといえる。つまり、論理上、前に発話した文字のデータを記憶することができなければ、一つのセンテンスを造ることができないのである。従って、状態遷移図は文の生起プロセスを分析するモデルとしてとても有効であるといえる。

なお、この状態遷移図において用いられる記号にはすべて読み方がある。(3)における五つのアーチ形の矢印は「有向辺」という。その各矢印の上にある文字(“你”、“在”、“这”、“等”、“我”)は状態遷移する成分である。従って、有向辺は状態遷移する成分の遷移方向を指示する役割を担っていることが分かる。

また、六つの大きな楕円は「節点(node)」という。そして、この円の中にある成分を「状態」と呼ぶ。つまり、この中に読み取った情報が反映されるのである。また、ギリシャ文字のエプシロン“ ϵ ”は「ラベル」と呼び、初期状態の始点であることを意味している。即ち「空記号」の役割を果たしている。

では、これらの読み方を念頭に置きながら、改めて“你在这等我”の生起プロセスを辿ってみよう。“你在这等我”の生起プロセスは“你”、“你在”、“你在这”、“你在这等”、“你在这等我”である。故に、“你在这等我”は五回状態が遷移するということが分かる。すると、遷移の回数に比例して節点の中にある状態も五つ存在することになる。

そこで、“你”を状態 1，“你在”を状態 2，“你在这”を状態 3，“你在这等”を状態 4、そして“你在这等我”を状態 5 と称し、以下(4)の図を用いて詳しく検討していくことにしたい。



まず ϵ が初期状態に存在する。そして“你”という情報が読み取られると、この初期の状態にある ϵ が“你”と結びつき一つの節点に遷移して“你”という状態が完成する。これが状態 1 である。

次に、この状態 1 である“你”に“在”が加わって、次の節点へと遷移すると、“你在”という状態ができ上がる。これが状態 2 である。

そして、状態 2 の“你在”に“这”が加わると、更に右の節点へと状態が遷移して状態 3 が形成される。即ち、“你在这”という状態が成立する。

更に、“你在这”である状態 3 に“等”が追加されると、次の節点へと状態が遷移して

“你在这等”という状態が構成される。これが状態4ということになる。

最後には、この“你在这等”という状態4に“你”が加わり次の節点へとその状態が遷移すると、“你在这等我”となり状態5が完成する。

上記の分析から“你在这等我”という文を状態遷移図に基づいて詳しく解釈することができた。なお、このように情報を一つずつ処理していく手法は「カーリー化」(currying)に倣っていると見なすことができる。では、以上を踏まえて、次節ではより厳密なる解析に迫ることにしよう。つまり、論理回路の運用へと到ることになる。

3.3 論理回路と論理式による解析

本節では“你在这等我”の生起過程を下記の(5)と(6)のモデルを通じて考えることにしたい。(5)は“你在这等我”の論理回路、(6)は論理回路に基づく論理式である。

(5)

你
你在
你在这
你在这等
你在这等我
①②③④⑤

(6)

- ①' 你
②' 在' (你,
③' 在' (你, 这
④' 在' (你, 这, 等' (你,)&在' (等' (你,), 这)
⑤' 在' (你, 这, 等' (你, 我)&在' (等' (你, 我), 这)

この二つのモデルによって、“你在这等我”が生成されるまでの過程を論理的に解釈することができる。つまり、“你”から“我”に到るまでの過程において、発話者の脳内において如何なる言語的演算が行われていたのかを表しているのである。以下、(5)と(6)を対比させながら“你在这等我”の生成プロセスを確認していくことにしよう。

まず論理回路を示す(5)の①を見られたい。この(5)の①は発話者が“你”と発話することによって、“你”が現れたと考える。従って、(6)の①'は“①' 你”となる。この時点での論理式は“你”という個体の出現を示すだけであり、具体的な意味は読みとれない。

そこで次に、(5)の②が示すように、“你”の後に続けて“在”が話されると、“你”に続いて“在”の意味が蓄積される。従って、「“你”がある場所に存在する」という意味が生じる。つまり、“在”が現れたということは、「存在する」という様態にある人物とその人

物が存在する場所が導き出されることになる。そこで論理式では(6)の“②’ 在’ (你, ”のように記述される。しかし、この段階では“你”が存在する場所がまだ分からないので、「あなたがある場所において存在する」という解釈に止まっている。なお、(6)の“②’ 在’ (你, ”において、“在”は述語となるので、その記しとして“在”の右上にプライム“ ’ ”を付記することにする。

そして、“在”は述語として、“你”という個体とその“你”が存在する場所との関係を規定させる役割を果たすので、数学的にいうと、“在”は関数、“你”は定項といえる。故に、“你”と“在”は、半小括弧“(”を使って、“在”と“你”を区別する。また同時に、“②’ 在’ (你, ”では、“在”が生じたことにより、“你”の存在場所が必要となるので、“在’ (你”の後にカンマ“ , ”を記し、この後で“在’ (你, ”の後方には場所を表す成分が伴うことを表示している。

次に、(5)の③を見られたい。“这”が発話されると“你在这”に“这”という情報が加わって“你在这”となる。これによって前段階において不明瞭であった“你”の存在場所が定まったことが分かる。よって、(6)における③’の論理式は“在’ (你, 这”となる。ここで確認しておきたいことは、この時点の論理式は“在’ (你, 这”なので、その命題表現は“你在这”である。故に、ここでの“在”は品詞でいうと動詞であることが分かる。

さて、今度は(5)における④のように、“你在这”に“等”が加わると、(6)における④’の論理式が完成する。ここが重要な箇所である。つまり、“你在这”に“等”「待つ」という動詞の意味が追加されると、それに伴って“等”という行為を行う対象が想定されて、“等’ (你,)”が出来上がる。また、“等”は述語であるため、プライム“ ’ ”と半小括弧“(”が“等”の右横に添えられる。そして、既述したように、この“等”という動作行為は“这”で行われていることが分かるので、④’では“在’ (等’ (你,), 这)”という論理式も同時に表示される。故に、“等’ (你,)&在’ (等’ (你,), 这)”が形成される。この際、連言(conjunction)を示す“&”を用いて、“等’ (你,)”と“在’ (等’ (你,), 这)”が、論理上、同時に成立していることを表わす。留意されたいのは、連言は前件と後件を自由に入れ替えることができるので、“等’ (你,)”と“在’ (等’ (你,), 这)”は前後を入れ替えて“在’ (等’ (你,), 这)&等’ (你,)”と記述することもできる。しかし、“等’ (你,)”は“在’ (等’ (你,), 这)”の第一項に置かれ連鎖関係を構築している。言い換えると、両命題は演繹モデルを形成し、“在’ (等’ (你,), 这)”は“等’ (你,)”を下位範疇化(subcategorization)したものである。故に“等’ (你,)”は意図的に“在’ (等’ (你,), 这)”の前に置くことにする。

さて、次に、“等”は他動詞なので必ず“等”の対象物を表わす成分が必要である。従って、“你”の右横にコンマ“ , ”と小括弧“(”を付記し、“等”の対象物となる成分の生起が必須であることを表わしている。しかし、この地点では、“你”が“这”という地点において、“你”が何に対して“等”という行為を行っているのかが分からない。そこで、(5)の⑤が示すように、発話者は空かさず“我”を発話するに到る。故に、“你在这等我”とい

う命題表現が形成される。

そこで再度(6)における⑤’の論理式を見られたい。この論理式は四つの述語が生起しているのに気づく。即ち、

- (a) “在’(你,这,等’(你,我)&在’(等’(你,我),这))”の一番左にある“在”。
- (b) “在’(你,这,等’(你,我)&在’(等’(你,我),这))”の中に埋め込まれている“在’(等’(你,我),这)”の“在”。
- (c) “在’(你,这,等’(你,我)&在’(等’(你,我),这))”の中に埋め込まれている“等’(你,我)”の“等”。
- (d) “在’(你,这,等’(你,我)&在’(等’(你,我),这))”の中に埋め込まれ、更にその中の“在’(等’(你,我),这)”に埋め込まれている“等’(你,我)”の“等”。

である。これら四つの命題において各述語(“在’”、“在’”、“等’”、“等’”)が制御する作用域(scope)はそれぞれ異なっている。最も広い作用域を持つ述語は(a)において述語となっている“在’”である。二番目は、(b)において述語の役割を担っている“在’”である。そして、最も小さい作用域を持つ述語は、(c)と(d)における“等’”である。従って、各命題の述語が発揮する作用域の違いを明示するために、括弧の種類を変えて以下のように論理式を修正することにした。¹¹

- (7) 待ツ ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ
 在’ [你, 这, 等’ (你, 我) & 在’ {等’ (你, 我), 这}]
 アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

これで“你在这等我”の生起プロセスを論理回路と論理式を用いて厳密に解釈することができた。

3.4 タイプ理論による解析

本節ではタイプ理論を運用して“你在这等我”を分析してみることにする。これまでのオートマトン、状態遷移図、そして論理回路と論理式を用いた解析は、いずれも“你在这等我”を“你”からひとつずつ順番に読み込んで、“你在这等我”に含まれる命題内容をひとつずつ処理しながら、“你在这等我”の生成過程を明示した。しかし、タイプ理論では、文頭からの生起プロセスのみならず、反対に、完成した一つの文がひと文字ずつ解体されていく過程も見ることができる。

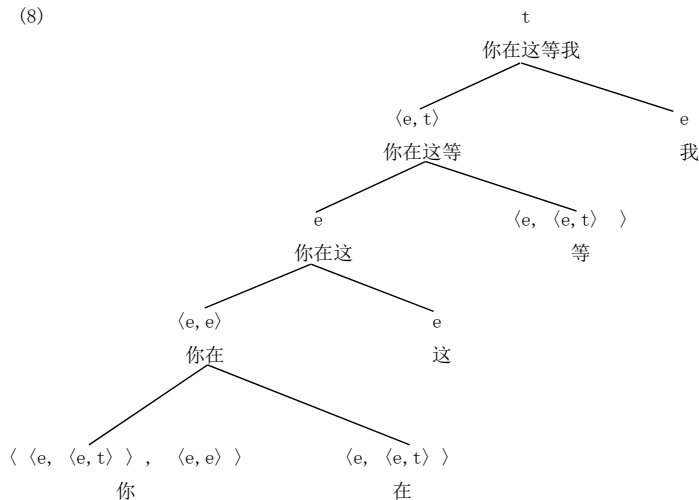
そこで“你在这等我”をタイプ理論によって表記すると以下のように分析することができる。(8)を見られたい。

¹¹ 本章の論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”の三つを使用する。そして“()”が最も作用域が狭く、“[]”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < []

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭いことを表している。

(8)



この式は(8)の一番上から俯瞰すると、“你在这等我”がタイプ理論の規定に基づいて、“你在这等我”の末にある“我”から順に一つずつ分離していく様子が見て取れる。一方、(8)を下から見ていくと、“你”から“你在这等我”が完成するまでの過程を観察することができる。その過程を詳しく解説すると以下のとおりになる。

まず、“你”が“在”と結合すると“你在”となる。これは即ち“在”を表す式である“<e, <e, t>”が“你”を表す“<e, <e, t> >, <e, e>”に入力されると、“你在”を表す“<e, e>”が完成するということである。

次に、“你在”が“这”と結合すると“你在这”となる。つまりこれは、“这”を表す“e”が“你在”を表す“<e, e>”に入力されると、“你在这”を表す“e”が完成するということである。

そして、“你在这”が“等”と結合すると“你在这等”となる。即ち、“等”を表す“<e, <e, t>”が“你在这”を表す“e”に入力されると“你在这等”を表す“<e, t>”が形成されるということである。

最後に“你在这等”が“我”と結びつき“你在这等我”が出来上がる。つまり、“我”を表す“e”が“你在这等”を表す“<e, t>”に入力されると、“你在这等我”を表す“t”となる。

以上のように(8)を下の“你”からボトムアップ的に見ていくと、正にオートマトン、状態遷移図、論理回路のように、読み取りと内部記憶によって文字を蓄積しながら“你在这等我”の生成過程をひとつずつ辿ることになる。つまり、“你”が“在”と結合して“你在”となり、次にその“你在”が“这”と結合して“你在这”となる。そして“你在这”が“等”と結合して“你在这等”となり、最後には“你在这等”が“我”と結びついて“你

在这等我”が完成するといったプロセスを踏んでいる。なお、当然ながら、以上の(8)のように分析することができたのは任意的なものではなく、タイプ理論の規定に基づいている。

そこで(8)の式がそれぞれ何を意味するのかを説明しよう。

方立(2000:94-95)の解説に基づくと、名詞と代名詞は“e”で表し、他動詞は“⟨e, ⟨e, t⟩”によって表される。そして、“e”は個体定項を表わし、“t”は式、即ち文全体を示している。また、方立(2000:90)によると、全ての山括弧“⟨ ⟩”を伴う派生タイプは一定の内部結合を有しており、順序付きペア(ordered pair)となる。よって“⟨e, t⟩”は“⟨t, e⟩”と等しくないことが分かる。つまり、全ての派生タイプは以下のように解釈される。

(9) 派生タイプ = ⟨インプットタイプ, アウトプットタイプ⟩

括弧されたものを派生タイプ、或いは複合タイプ(complex type)という。“⟨e, t⟩”の“e”はインプットタイプ(input type)、“t”をアウトプットタイプ(output type)という。

故に、方立(2000:89)は以下のように定義した。

- (10) a. eは論理タイプである。
 b. tは論理タイプである。
 c. もしaが論理タイプで、bも論理タイプなら、⟨a, b⟩は論理タイプである。
 d. 上記のa、b、cによって生成する論理タイプ以外、他はすべて論理タイプではない。

次は、タイプ論理において用いられる一項述語、二項述語、三項述語について説明しよう。ここで述べる述語は、論理式における述語とは異なるので注意が必要である。

まず、一項述語は“⟨e, t⟩”によって表される。この一項述語である“⟨e, t⟩”は個体定項の“e”と結合して式“t”を生成する。

次に、二項述語は“⟨e, ⟨e, t⟩⟩”によって表される。この二項述語である“⟨e, ⟨e, t⟩⟩”は個体定項の“e”と結合して一項述語“⟨e, t⟩”を生成することができる。そして、その一項述語“⟨e, t⟩”は更に個体定項“e”と結合して式“t”が生成される。

三項述語は“⟨e, ⟨e, ⟨e, t⟩⟩⟩”によって示される。この三項述語である“⟨e, ⟨e, ⟨e, t⟩⟩⟩”は、まず、個体定項“e”と結合して二項述語“⟨e, ⟨e, t⟩⟩”を生成する。次に、その二項述語の“⟨e, ⟨e, t⟩⟩”は、更に個体定項“e”と結合して一項述語“⟨e, t⟩”を生成する。最後にその一項述語である“⟨e, t⟩”は個体定項“e”と結合して式“t”を生成する、といった過程を経る。

方立(2000:90)は「インプットタイプとアウトプットタイプはいずれも派生タイプである可能性があり、派生タイプの内部構造が如何に複雑であっても、常に二項関係を保つ」と述べている。これはタイプ理論が見せる強力な理論である。これによって、一つの文を常に二分割して解析することが可能となるのである。要するに、この二分割の操作は本章で運用したオートマトン、状態遷移図、論理回路における解析を多角的に肯定し、同時に論理式の整合性を証明していると見なしえる。

3.5 談話概念を導入した論理式の生成過程

第二章で命題論理と述語論理を併用した論理式による分析を試みたが、これは前置詞“給”、“被”、“在”が、意味上、文の核を成す述語として、三つの個体の関係を定めている、と考えたものである。つまり、これらの前置詞は“ α ”、“ β ”、“ γ ”という三つの項をとる関数であるとした。そこで本節では新たな視点から論理式の生成過程を提案したい。即ち、まず“ γ ”の部分が先に完成し、その後、“ α ”、“ β ”が生成される、と考えるのである。そこで再度“你在这等我”の文を例として用いる。この文には如何なる意味が含まれているだろうか。まず直観的に一つ挙げるとすれば、“等”によって構成される“你等我”「あなたが私を待つ」を選ぶのが妥当であると言える。従ってこれを論理表記すると、

(11) 等' (你 , 我)

待ツ ~ガ ~ヲ

となる。“等'(你,我)”は「あなたが私を待つ」という意味を表している。そして、統語上、“你在这等我”における“等”の前方には“在这”が生起しているので、(11)の式に“在这”の意味情報を加えると、以下のような式となる。

(12) 等' (你,我) & 在' {等' (你,我),这}

待ツ ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

“等'(你,我)”は「あなたが私を待つ」という意味を表し、“在'{等'(你,我),这}”は「それ(あなたが私を待つ)がここに存在する」の意を示している。

そして(12)の式に談話概念が加わると以下のような論理式が考えられる。

(13) 待ツ ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

在' [你,这,等' (你,我) & 在' {等' (你,我),这}]

アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

(13)と(12)の違いは“等'(你,我)&在'{等'(你,我),这}”の式に“在”、“你”、“这”といった三つの成分が加わっていることである。そこで次に、考察の便宜を図り、(13)の式を四つ(A、B、C、D)に区分する。つまり“在”と“你”と“这”と“等'(你,我)&在'{等'(你,我),这}”である。より分かりやすくさせるため、以下のように示そう。

(14) 在' [你,这,等' (你,我)&在' {等' (你,我),这}]

A B C D

“A”は“在'”を指し、“B”は“你”を指している。そして、“C”は“这”を指し、“D”は“等'(你,我)&在'{等'(你,我),这}”を指示している。

そして、(14)で“A”の“在'”と“B”の“你”、そして“C”の“这”が現れているのは談話概念によるものだと考える。

まず“A”の“在'”は述連構造における一番目の動詞として“D”における“等'”よりも広い作用域を有していると理解するが、これは“D”において“在'”が一度生起したが故、“A”の位置で再び使われた、と考える。“A”で“在'”が使用された理由は、“B”の“你”

と、“C”の“这”と、“D”の“等’(你,我)&在’(等’(你,我),这)”の関係を規定するためである。そこで“B”と“C”が何故用いられることになったのかを説明する必要がある。それは、“你在这等我”では“你”が主要話題を、“这”が副話題を表しえると判断したからである。即ち、(13)の式は、(12)の式(即ちDの式)に談話概念が導入されたことを意味するので、“你”が“B”へ、“这”が“C”へ生起しえるのは、“B”の“你”と“C”の“这”が共に“D”において既に使用されたからである、と考えられる。¹²

以上が談話概念の視点から見た“你在这等我”の論理式の生成過程である。

3.6 第三章の結び

本章は[進行]の意味を示す“在”によって構成された“你在这等我”の論理式の整合性を高めるため、オートマトン、状態遷移図、論理回路、更にはタイプ理論を運用して解析した。最後には談話概念の視点から論理式の生成プロセスを検討した。

¹² 徐烈炯(2002)は文頭の位置に生起する成分は“主話題”、そして主語と動詞の間に生起する成分を“次話題”と主張した。例えば、徐烈炯(2002:404)で挙げられた“烈性酒老张不喝。”(きつい酒は張さんは飲まない。)における“烈性酒”は“主話題”であり、一方、“老张烈性酒不喝。”(張さんはきつい酒は飲まない。)における“烈性酒”は“次話題”であると見なした。従って、本稿では以上の見解を参考にして、“在”の前方に位置する成分を主要話題(“主話題”)、そして“在”の目的語、即ち、主語と動詞の間に生起してその文の出来事存在場所を表現する成分を副話題(“次話題”)と見なすことにする。

第四章 [現場進行]における副詞“在”と[非現場進行]における副詞“在”¹³

4.0 はじめに

第一章で言及したように、王还主编(1997:1103)は副詞“在”を二つに区分した。一つは、「動作の持続が絶えず進行していることを表わす。」である。いま一つは、「ある範囲において活動していることを強調する。しかしそれは動作が進行の状態にあることを記述しているわけではない」である。そこで本章では、この王还主编(1997:1103)の見解をヒントに、副詞の“在”が生起する文を[現場進行]と[非現場進行]の二タイプに区分して考察を行う。

要点は以下の三点である。

第一に、[現場進行]の文は、出来事が発話時間において存在している点に注目が置かれた[進行]であり、一方[非現場進行]は、発話時間に制限されず、出来事が複数存在している点に着眼した[進行]である。

第二に、[現場進行]の文の出来事地点は発話者が把握した特定の地点であり、[非現場進行]の文の出来事地点は複数に及び、一つの出来事地点を明示できないということである。

第三としては、[現場進行]の文は出来事の多発を保証する成分が生起しないが、[非現場進行]の文には出来事の多発を保証する“最近”、“現在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”といった成分が生起するということである。

4.1 [現場進行]を表す“在”

まず[現場進行]を表すと見なしえる“在”の例を五つあげて解析を行う。[現場進行]とは発話時間における[進行]である。つまり、発話時間において出来事が特定の場所において存在している、ということである。まず(1)の例を見られたい。

(1) 我的手机在响, 手机在楼上包里呢。(テレビドラマ《溫柔的背叛》第27話)

(俺の携帯が鳴っている。携帯は二階の鞆の中だ。)

この文の“我的手机在响”における“在”は[現場進行]の意を表わすと考えられる。まずこの用例がいかなる場面において発話されたのかを簡潔に述べることにしよう。このシーンは、ある晩、豪邸に住む主人と妻がリビングで寛いでいると、突如携帯電話が鳴り出す。すると主人は、自分の携帯が二階で鳴っているのに気が付き、“我的手机在响, 手机在楼上包里呢”と発話して急いで二階へと向かうことになる。そこで注目されたいのは、“我的手机在响”の後に生起する“手机在楼上包里呢”である。これによって、“我的手机在响”は“楼上包里”において生じていると理解できる。つまり、発話者が携帯電話の着信音を聴くことによって、“我的手机响”という出来事が“楼上包里”において存在していると知覚したのである。故に、ここでの“在”は[現場進行]であると見なしえる。これはドラマ

¹³ 本章は青木(2014c)の『時態副詞“在”が表す二つの進行の論理意味分析』に対して加筆、修正を行ったものである。

《溫柔の背叛》を見ると“我的手机响”という出来事の臨場性を鮮明に感じとることができる。

重要なことは、“我的手机在响”の動詞“响”は[持続]の意味特徴を有し、かつ“我的手机在响”には“响”の[持続]を[終息]させる成分が生起していないということである。従って、“我的手机在响”における動詞“响”の[持続]の意味特徴が[進行]の表現を導いていると理解できる。¹⁴

また、この“我的手机在响”において生起する“在”は場所を示す目的語を伴っていないが、(1)を見ると、“我的手机在响”の後方には“手机在楼上包里”という命題表現があるので、“我的手机在响”の出来事地点は“楼上包里”であると見なしえる。故に、“我的手机在响”に含まれている意味は、「私の携帯が、二階の鞆の中において、私の携帯が鳴っている」となる。そこで以上の考察を踏まえて、“我的手机在响”に含まれている意味を命題論理と述語論理によって表記してみることにしよう。¹⁵

(1a) 鳴ル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [我的手机, 楼上包里, 响' (我的手机)&在' {响' (我的手机), 楼上包里}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“响' (我的手机)”が「俺の携帯が鳴る」という意味を表し、“在' {响' (我的手机), 楼上包里}”が「それ(俺の携帯が鳴る)が二階の鞆の中に存在する」という意味を表し、“在' [我, 楼上包里, 响' (我的手机)&在' {响' (我的手机), 楼上包里}]”が「俺の携帯が、二階の鞆の中において、俺の携帯が鳴り、かつそれ(俺の携帯が鳴る)が二階の鞆の中に存在するという様態にある」という意を表している。

次は(2)の“我打车”という文における“在”が[現場進行]であることを証明する。

(2) 我在打车! (テレビドラマ《张小五的春天》第2話)

(私はタクシーを拾っているのよ!)

¹⁴ もし“在”構文における出来事(event)が既に[終息]し、複数の出来事存在といった概念を表現することができないと非文になる。龔千炎(1995:95)では成立しえない“在”構文を挙げている。

(56)*他在看一眼。

(57)*他在跑两趟。

(58)*他一天在查一次。

(59)*你在等一会儿。

(60)*他在躺一个晚上。

(61)*我只在站10分钟。

龔千炎(1995:95)はこれらの文について以下のように説明している。

「“在”+動詞の後方には、時間量や動作量を表す成分を伴うことができない。というのは、“在”は動作行為の進行や過程の延長を表わすが、時間量と動作量は過程の[終息]を表わすので、“在”とこれらの成分は意味上排斥し合うからである。」

¹⁵ 論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”、“《 》”の五つを使用する。そして“()”が最も作用域が狭く、“《 》”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】 < 《 》

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭く、“【 】”は“《 》”より作用域が狭いことを表している。

この(2)の引用先であるテレビドラマ《張小五の春天》によると、この場面は酒に酔った発話者が一人でタクシーを拾っている所である。よって、“我在打车”における“在”は[現場進行]を表すと考えられる。この文における動詞の“打”は論理的な観点からいうと、[終息]することなく[持続]する特徴を有している。そして“我在打车”における“車”は具体的な数量情報が含まれておらず、“打”の動作量を[終息]させることができないので、“打”が表わす[持続]の意味特徴が[進行]の概念を可能にさせていると考えられる。

また、ドラマ《張小五の春天》を確認すると、この(2)の場面における“我打车”という行為は、発話者が存在している一つの場所に限られて行われているので、“在”の目的語は“这儿”であると考えられる。従って、“我在打车”が表す意味は「私が、ここにおいて、私がタクシーを拾っている」と解釈すると、

(2a) 拾ウ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [我, 这儿, 打’ (我, 车) & 在’ [打’ (我, 车), 这儿]]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

といった式となる。この論理式は“打’ (我, 车)”が「私がタクシーを拾う」という意味を表し、“在’ [打’ (我, 车), 这儿]”が「それ(私がタクシーを拾う)がここに存在する」という意味を表し、“在’ [我, 这儿, 打’ (我, 车)&在’ [打’ (我, 车), 这儿]]”が「私が、ここにおいて、私がタクシーを拾い、かつそれ(私がタクシーを拾う)がここに存在するという様態にある」という意を表している。

今度は(3)の“我知道你在听着”(僕は君が話を聞き続けていることを知っている)における“在”が[現場進行]であることを明瞭にさせよう。

(3) 我知道你在听着, 而且都听进去了。好妹妹, 你连死都不怕, 难道还怕挺起胸膛活着?
 (テレビドラマ《京华烟云》第32話)

ここでは“你在听着”に焦点を当てて論じる。この“你在听着”の“在”は[現場進行]を表している。ドラマ《京华烟云》を視聴すると、実際に“你听着”が一カ所で起こっていることが分かる。従って“你听着”の出来事地点は“这儿”であるとし、“你在听着”に含まれている命題内容は「あなたが、ここにおいて、あなたが僕の話の聞き続けている」と解釈しえる。

また、“听”という動詞は[持続]の意味特徴を有し、かつ、この後方には[持続]の意を表す時態助詞“着”が生起しているので、“听”の[持続性]が確実に保証されている。よって[進行]の概念が生じえたと見なしうる。

以上の解析を踏まえて“你在听着”を論理式で表現することにしよう。(3a)を見られたい。¹⁶

¹⁶ 論理式に対する意味注釈が多く煩雑な時は、読みやすくするために、ある一部の意味注釈を斜線で表記する。以下の論考における意味注釈も同様とする。

(3a) 話ス ～ガ ～ヲ アル ～ガ ～トイウ様態ニ
 在' 《你, 这儿, 听' {你, 说' (我, 话)} & 有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着]
 聞ク ～ガ ～ヲ
 アル ～ガ ～ニオイテ

存在スル ～ガ ～ニ
 &在' 【有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着], 这儿】》
 ～トイウ様態ニ

この論理式は、まず“说' (我, 话)”が「僕が話しをする」という意味を表し、次に、“听' {你, 说' (我, 话)}”が「君がそれ(僕が話しをする)を聞く」という意味を表し、“有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着]”が「それ(君が僕の話しを聞く)が[持続]という様態にある」という意味を表している。そして、“在' 【有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着], 这儿】”は「それ(君が僕が話しをするのを聞き続ける)がここに存在する」という意味を表し、“在' 《你, 这儿, 听' {你, 说' (我, 话)}&有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着]&在' 【有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着], 这儿】》”が「君が、ここにおいて、君が僕が話しをするのを聞き続け、かつそれ(君が僕が話しをするのを聞き続ける)がここに存在するという様態にある」という意を表している。¹⁷

次の考察は(4)における“既然你们在工作”の一節を中心に進めていくことにしたい。

(4) 既然你们在工作, 我就不打扰了, 你们继续吧。(テレビドラマ《夫妻那些事》第 13 話)

“你们在工作”(あなたがたが仕事をしている)の文における“在”は[現場進行]の意を表わしている。これはドラマ《夫妻那些事》における会話のやりとりを見ると、この場面において“你们工作”が行われていることをはっきりと看取することができる。

次に動詞“工作”の意味特徴について考えると、“你们在工作”には“工作”という持続動詞を[終息]させる成分が生起していないので、“工作”に内在する無限の[持続]によって[進行]の表現が保証されていると考えられる。

¹⁷ “有' [听' {你, 说' (我, 话)}, 着]”において“有”が用いられているが、これは『論理哲学論考』(ウイットゲンシュタイン著、野矢茂樹訳:184)における記述を拠り所としている。野矢は論理形式について次のような注釈を与えている。

「ある対象の論理形式とは、その対象がどのような事態のうちに現れうるか、その論理的可能性の形式のことである。たとえばある対象 a が赤い色をしていたとしよう。対象 a にとって赤いという色は外的性質であり、他の色をもつこともありえた。つまり、(a は青い) (a は黄色い) 等の事態も可能である。このことを、「対象 a は色という論理形式をもつ」と言う。……」

故に、以下の論理式において“有”を用いた場合には、以上の「論理形式」の概念に基づいて使用したとする。

なお“你们在工作”における“在”の目的語について気になるところだが、これはドラマ《夫妻那些事》によると、“工作”は発話者の目の前において生じている[現場進行]なので、“工作”の出来事地点は“这儿”であると判断することができる。よって、論理的に“你们在工作”は「あなたたちが、ここにおいて、あなたたちが仕事をしている」という命題内容を導くことができる。従って論理式を用いると、

(4a) 仕事ヲスル ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ

在’ [你们, 这儿, 工作’ (你们) & 在’ {工作’ (你们), 这儿}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

と表記できる。この式は“工作’ (你们)”が「あなたたちが仕事をする」という意味を表し、“在’ {工作’ (你们), 这儿)”が「それ(あなたたちが仕事をする)がここに存在する」という意味を表し、“在’ [你们, 这儿, 工作’ (你们)&在’ {工作’ (你们), 这儿}]”が「あなたたちが、ここにおいて、あなたたちが仕事をし、かつそれ(あなたたちが仕事をする)がここに存在するという状態にある」という意を表している。

次の(5)では“和几位杭州来的茶商在说话”における“在”について考えたい。ここでの“在”も[現場進行]の意を表している。

(5) A: 书房里木兰和莫愁还在不在?

B: 都在。

A: 太太呢?

B: 在客厅, 和几位杭州来的茶商在说话。(テレビドラマ《京华烟云》第26話)

(A: 「書齋には木兰と莫愁がまだいるか?」)

(B: 「います。」)

(A: 「うちの妻は?」)

(B: 「奥様は客間にいます、杭州から来た茶商の方々と話をしているところです。」)

問題となる箇所は“在客厅, 和几位杭州来的茶商在说话”である。この文は[現場進行]であると見なす。即ち、(5)の場面において発話者Aと発話者Bが会話を行っているときに“和几位杭州来的茶商在说话”が“客厅”において行われているのである。この(5)におけるやり取りは、実際に《京华烟云》を確認すると、発話者Bが“和几位杭州来的茶商在说话”という出来事が行われている“客厅”へと指を向けているので、確かに“和几位杭州来的茶商在说话”の現場性を感じることができる。また“和几位杭州来的茶商在说话”の前には既に“客厅”が生起しているため“和几位杭州来的茶商在说话”の“在”の後の“客厅”は既知の情報として省略されたと考えられる。しかし、意味上は“和几位杭州来的茶商在说话”における“在说话”は「奥様が、客間で、奥様が話をしている」という意味を含んでいると解すべきである。

また、ここでの“说”という動詞は、“话”が後続して「話しをする」という意味を表わすが、“说话”は具体的な動作量が定まっていない。即ち“和几位杭州来的茶商在说话”

の文には“説”が有する[持続]を[終息]させる成分が存在しない。よって，“説”自体に備わる無限の[持続]により，[進行]の意を表す“在”の生起条件が充足されたと考えることができる。

では“在說話”の部分に着眼した論理表記を行うことにしよう。

(5a) スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

在' [太太, 客厅, 説' (太太, 話) & 在' {説' (太太, 話), 客厅}]

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

この論理式は“説' (太太, 話)”が「奥様が話をする」という意味を表し，“在' {説' (太太, 話), 客厅}”が「それ(奥様が話をする)が客間に存在する」という意味を表し，“在' [我, 客厅, 説' (太太, 話)&在' {説' (太太, 話), 客厅}]”が「奥様が，客間において，奥様が話をし，かつそれ(奥様が話しをする)が客間に存在するという様態にある」という意を表している。

以上(1)から(5)までの用例を全て考察した。本節の終わりに改めて[現場進行]の特徴を確認しておくことにしよう。それは次の二点である。

一つは，[現場進行]は発話時間において生じている[進行]のことを指すということである。いま一つは，[現場進行]は発話時間において生じているので，その出来事は発話者が把握した一つの場所において行われているということである。

4.2 [非現場進行]を表す“在”

ここでは[非現場進行]を表す“在”について詳述する。[非現場進行]とは，発話時間に影響されない[進行]のことを指す。故に，出来事が，比較的長期にわたって存在していることを表現することができる。用例は全部で七つある。まず(6)の“我最近在減肥”の箇所における“在”が[非現場進行]であることを証明しよう。

(6) A: 好香哦!

B: 要不要来点, 我老姐做的。

A: 不了, 我最近在減肥。(テレビドラマ《愛情公寓 第一季》第14話)

(A: いいにおい!)

(B: 「ちょっと食べてみない? 姉ちゃんがつくったんだよ!」)

(A: 「止めとくよ, 最近ダイエットしているんだ。」)

ここでは“在”が生起する“我最近在減肥”の一文について集中的に論じる。この文における“在”は[非現場進行]に当てはまる。その理由は二つある。一つは，“最近”が複数の出来事存在を可能にさせているためである。というのは，“最近”は《現代汉语词典(第6版)》(2012:1741)によると、「発話の前後の遠くない日を指す。」といった記述がなされているためである。つまり“最近”の生起により，一定の時間幅が提供されるので，“我減肥”という出来事が複数存在していると考えられるのである。

が幾つも存在していることを表現する点に注目が置かれていると見なす。また、この場面はドラマ《夏家三千金》によると、実際に失恋している瞬間ではないことを確認しえる点からも[非現場進行]と解釈するのが妥当であるといえる。

なお“失恋”は「失恋をする」という意であり、論理的な観点からいうと[瞬間的]な意味特徴を持つ。しかし、“失恋”が何度も発生することによって、[進行]の意味を形成しえると考えられる。つまり、概念上、複数の“失恋”という出来事が存在していると連想しえる。¹⁸

更にこの文の“在”の目的語についても考えよう。“一天到晚都在失恋”では“在”に出来事存在場所を示す成分が後続していない。これは“我经常失恋”、“一天到晚”、“失恋已经成为我的习惯，我失恋很有经验，而且我失恋失得驾轻就熟”といった表現からも判然とするように、ここでの“失恋”は常に起こるべき習慣的な出来事であり、ある特定の出来事地点にはもはや関心がむけられないのである。そのため“一天到晚都在失恋”は「(朝から晩までという範囲において)私が、ある場所において、私が失恋をしている」といった意味を含んでいると解釈できる。従って論理式は、

$$(10a) \quad \text{スル} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \text{ 存在スル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{ニ}$$

$$\text{有' } \left[\text{在' } \left[\text{我, } \phi, \text{失' } \left(\text{我, 恋} \right) \right] \& \text{在' } \left\{ \text{失' } \left(\text{我, 恋} \right), \phi \right\} \right], \text{一天到晚} \right]$$

$$\text{アル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{ニオイテ} \quad \quad \quad \sim \text{トイウ様態ニ}$$

$$\text{アル} \quad \quad \quad \sim \text{ガ} \quad \quad \quad \sim \text{トイウ範囲ニ}$$

となる。この式にある命題を一つずつ見ていくと、まず、“失’(我, 恋)”は「私が失恋をする」という意味を表している。次に“在’{失’(我, 恋), φ}”は「それ(私が失恋をする)がある場所に存在する」という意味を表している。そして、“在’[我, φ, 失’(我, 恋)&在’{失’(我, 恋), φ}]”は「私が、ある場所において、私が失恋をし、かつそれ(私が失恋をする)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表している。最後に式全体である“有’【在’[我, φ, 失’(我, 恋)&在’{失’(我, 恋), φ}], 一天到晚】”は「私がある場所において失恋をしているが、朝から晩までという範囲にある」という意を表している。

次は(11)の“我一直都在听你们的话对不对!”(俺はずっとあなたたちの言うことをきいてきただろう!)の箇所焦點を置いて解析する。

(11) 我一直都在听你们的话对不对! 你们让我干什么我就干什么对不对! 我都乖乖地按照你们的要求活了整整三十年了, 我现在就想发一回疯, 我就想按照我自己的想法, 自己的想法我好好活我后辈子!(テレビドラマ《独生子女的婆婆妈妈》第23話)

この用例では“我一直都在听你们的话”における“在”が[非現場進行]であることを論証したい。その根拠は以下の二点である。

¹⁸ ここでの見解は龔千炎(1995:27)の注釈を参照した。即ち、龔千炎は[進行]の意を示す“在”についての論考で、多くの同類の個体が、絶えず同じ動作行為をしたり、変化している場合、“在”を用いることができる、といった見解を述べている。

第一に、《独生子女的婆婆妈妈》によると、“我一直在听你们的话”という出来事がそのシーンにおいて存在していないためである。

第二に、“我一直在听你们的话”には“一直”が生起しているの、“我听你们的话”という出来事が以前からこの(11)における発話時までの間に何度も存在していたと推論することができるからである。

次に“我一直在听你们的话”における“在”の目的語について考えることにしたい。この文では“在”の後に場所を示す目的語が現れていない。というのは、上記で明瞭となったように、“我听你们的话”が何度も発生しているの、一つ一つの“我听你们的话”が何処で生じたのかについては注目しえないのである。従って、“我一直在听你们的话”に含まれる意味は、「(ずっとという範囲において)私が、ある場所において、私があなたたちの言うことを聞いている」と解釈することができる。

また、“我一直在听你们的话”の動詞である“听”は[持続]の意味特徴を保持しているため、[進行]の意の成立に大きく貢献していると思える。

では“我一直在听你们的话”を論理表記しておこう。

(11a) キク ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

有’【在’[我, φ, 听’(我, 你们的话)& 在’{听’(我, 你们的话), φ}], 一直】

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

アル ～ガ ～トイウ様態ニ

この式は“听’(我, 你们的话)”が「俺があなたたちの言うことをきく」という意味を表し、“在’{听’(我, 你们的话), φ)”が「それ(俺があなたたちの言うことをきく)がある場所に存在する」という意味を表し、“在’[我, φ, 听’(我, 你们的话)& 在’{听’(我, 你们的话), φ}]”が「俺が、ある場所において、俺があなたたちの言うことをきき、かつそれ(俺があなたたちの言うことをきく)がある場所に存在するという様態にある」という意を表し、“有’【在’[我, φ, 听’(我, 你们的话)& 在’{听’(我, 你们的话), φ}], 一直】”が「俺がある場所においてあなたたちの言うことをきいているが、ずっとという様態にある」という意を表している。

以下の(12)における“她六年都在骗我”では“六年”が[非現場進行]の概念を導くカギとなる。

(12) 我跟我的前女友谈了八年的恋爱, 她六年都在骗我! (テレビドラマ《爱情公寓 第三季》第19話)

(俺は以前彼女と八年付き合ったけど、そのうち六年も俺を騙していたんだ!)

ここでは“她六年都在骗我”について詳しく検討していくことにしたい。まず、この文は“六年”が生起していることによって、[非現場進行]を理解することができる。要するに、“她骗我”という出来事が六年間で幾度となく生じているのである。そして、この文にはさらに“都”が生起している点に留意されたい。これにより、その六年の間に何度も“她骗我”が行われていたことをより明確に理解することができる。従って、“她六年都在骗我”

は、(12)の発話時間において、六年の間に生じた複数の“她骗我”を様態的に一纏めで表現した文であるということが分かる。

また、この文は[非現場進行]なので、“她骗我”の存在場所を明瞭にさせることは困難である。そのため“她六年都在骗我”の“在”の後方には出来事存在場所を示す成分が生起していない。というのも、数年間にも渡って“骗”を被り続けてきた発話者にとって、その出来事地点が毎回どこであったのかを記憶しているはずがないからである。

なお、“她六年都在骗我”における“骗”は[終息]することなく、概念上、際限なく[持続]を保持する動詞である。よって、この“骗”に内在する[持続]の意味特徴により、幾つもの“她骗我”という出来事存在、即ち[進行]を表現することが可能となる。

以上の考察から、“她六年都在骗我”の中から「(六年という範囲において)彼女が、ある場所において、彼女が俺を騙している」という命題内容を抽出することができるので、

(12a) 騙ス ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 有'【在' [她, φ, 骗' (她, 我) & 在' {骗' (她, 我), φ}], 六年】
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ
 アル ～ガ ～ニトイウ範囲ニ

と分析できる。この式は“骗’(她, 我)”が「彼女が私を騙す」という意味を表し、“在’ {骗’ (她, 我), φ}”が「それ(彼女が私を騙す)がある場所に存在する」という意味を表し、“在’ [她, φ, 骗’ (她, 我)]&在’ {骗’ (她, 我), φ}”が「彼女が、ある場所において、彼女が私を騙し、かつそれ(彼女が私を騙す)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し、“有’【在’ [她, φ, 骗’ (她, 我)]&在’ {骗’ (她, 我), φ}], 六年】”が「彼女がある場所において私を騙しているが、六年という範囲にある」という意を表している。

以上、副詞“在”が[非現場進行]の意を示す例を全て論じた。最後に[非現場進行]の特徴を総括することにした。それは以下の三つである。

第一に、[非現場進行]は、発話時間に左右されず、複数の出来事を様態的に抽出する点に表現の重点が置かれた[進行]であるということである。

第二に、[非現場進行]は、出来事地点が複数に及び、一つ一つの出来事地点には注目されないということである。

そして第三に、[非現場進行]は、複数の出来事を保証する“最近”、“現在”、“毎日”、“一天到晚”、“一直”、“六年”といった成分が生起する傾向にあるということである。

4.3 第四章の結び

本章は論理的な観点から副詞“在”を[現場進行]と[非現場進行]の二タイプに区分して考察を行った。また、各用例に対して、命題論理と述語論理を併用した論理式による解析を行った。そこで、“在”が示す二つの[進行]の特徴を以下のように示す。同時に本章で考察した例文の中の重要な個所を抜き出して列挙させておこう。

表一[“在”が示す二つの[進行]の特徴]

[現場進行]	[非現場進行]
(1) 我的手机 <u>在</u> 响 (2) 我 <u>在</u> 打车 (3) 我知道你 <u>在</u> 听着 (4) 既然你们 <u>在</u> 工作，我就不打扰了 (5) 和几位杭州来的茶商 <u>在</u> 说话	(6) 我 <u>最近</u> 在减肥 (7) 我 <u>现在</u> 在念书 (8) 她 <u>现在</u> 在跟欧阳在交往 (9) 我们那口子 <u>现在</u> 每天在吃素食啊 (10) 我经常失恋， <u>一天到晚</u> 都在失恋 (11) 我 <u>一直都在</u> 听你们的话 (12) 我跟我的前女友谈了八年的恋爱，她 <u>六年</u> 都在骗我
1. 発話時間における[進行]。	1. 発話時間に制限されない[進行]。
2. 出来事地点が一つ。	2. 出来事地点が複数に及ぶ。
3. 時間幅を提供する成分が生起していない。	3. 時間幅を提供する成分(“最近”、“现在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”)が生起。

即ち表一の要点は以下の三つである。

まず，[現場進行]は，発話時間においてのみ出来事が[進行]していることが分かる。一方，[非現場進行]は，発話時間に制限されない[進行]を指すということが看取しえる。

また，[現場進行]の出来事地点は一か所であり，[非現場進行]の出来事地点は複数に及ぶということである。

そして，[現場進行]は出来事の高発を証明する成分が生起せず，[非現場進行]は出来事の高発を証明する“最近”、“现在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”といった成分が生起するということである。

第五章 副詞“在”が表す[複数の出来事存在]

5.0 はじめに

これまで多くの論考において副詞の“在”は[進行]の意を表すと見なされてきた。しかし管見の及ぶ限りでは、この副詞“在”が表す[進行]の概念を論理的な視点から厳密に追及した論考は見当たらない。そこで、本章では“在”が表す[進行]の概念が論理的に如何なるしくみによって成立しているのかを明らかにする。主たる考察方法は副詞“在”が生起する文を五つのタイプに分けて分析し、“在”が示す[進行]とは厳密に[複数の出来事存在]の意であることを証明する。そして、この[複数の出来事存在]は、“在”に後続する動詞が保持する[持続]の意味特徴や、文中の他の成分や前後の文脈により、出来事が「数量化」することによって成立していることを提示する。

5.1 複数の出来事存在を表す“在”

考察の便宜を図り、副詞“在”が生起した文を以下の五つに分ける。

- ① 複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例
- ② 複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例
- ③ 複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例
- ④ 複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例
- ⑤ 他の文脈から[進行]を明確に判断できる例

これらは“在”が表す[複数の出来事存在]の意の理解に最も貢献する成分の特徴に基づいて区分した。一つ指摘しておきたいことは、論理上“在”の[進行]概念は、他の成分や前後の文脈がなくても、動詞が[持続]の意味特徴を保持することで成立しえる、ということだが、これに関しては本論文の第四章における論考によってすでに明らかとなっている。そこで、本章では、動詞に内在する[持続]の意味特徴に加えて、他の成分や前後の文脈にも注目し、“在”が示す[進行]とは[複数の出来事存在]であることを証明したい。故に、本章では、第四章で提示した[現場進行]と[非現場進行]の概念を、一律に[複数の出来事存在]の意として解釈することとなる。

まず複数の時間概念が[進行]、即ち[複数の出来事存在]を明示させる例について考察する。

5.1.1 複数の時間概念から[進行]を明確に判断できる例

用例は全部で三つある。(1)は“时时刻刻”に含まれる複数の時間概念によって[複数の出来事存在]の意味を明確に把握することができる例である。

- (1) 妈，您不知道啊，我跟您说，就比如说璐璐吧，她 80 斤，我呢，110 斤，我要比她多背 30 斤的面口袋吧，我上学背着，我吃饭也背着，我上体育课也背着，我睡觉也背着，我时时刻刻都在背着它，您说，我能不补充点儿卡路里吗？（テレビドラマ《家有儿女

第四部) 第 55 話)

(お母さん、あのね、例えば璐璐の体重は 40 キロで、僕はというと 55 キロだから、15 キロも多くての負荷を背負わなければならないんだよ。僕は登校の時に背負っていて、ご飯の時も背負っていて、体育の授業でも背負っていて、寝る時にも背負っていて、どんな時でもずっと背負っているんだ。だからカロリーを摂らないなんてことができると思う?)

ここでは“我时时刻刻都在背着它”における“在”を中心に詳述する。この文の目的語である“它”は(1)の二行目にある“面口袋”を指示している。この“面口袋”は本来「小麦の袋」の意であるが、ここでは肥満気味の発話者(“小雨”)の体重を指している。まず“背着”の箇所注目されたい。論理的な角度からいうと、“背”は一度背負うとその動作は[終息]するため、背負うという動作がそれ以上[持続]することがない。しかし、背負った後の結果は[持続]しえるので、時態助詞の“着”を伴って、“小雨”が太って体に贅肉がついた後の結果を[持続]させることができる。従って、このように“背着”が[持続]の出来事を保持することによって、“背着”が、“在”の[複数の出来事]の意を生じさせるための重要な基礎を造っていると見なしえる。

さて、次は“我上学背着，我吃饭也背着，我上体育课也背着，我睡觉也背着”に留意されたい。これらを見ると、全てに“背着”という出来事があることに気づく。故に“背着它”という出来事が変化せず存在していると理解できる。そのため、“我时时刻刻都在背着它”の“在”の前方には副詞“都”が生起し、“时时刻刻”において、例外なく“背着它”という出来事が存在していると見なしえる。要するに、“我时时刻刻都在背着它”は、“我上学背着”、“我吃饭也背着”、“我上体育课也背着”、“我睡觉也背着”といった四つの出来事の意味を包括しているのである。

注目に値することは、この“我时时刻刻都在背着它”は、“时时刻刻”によって[進行]の流れを感じとることができるが、“在”自身は、出来事の内容を様態的に表現するだけで、動態的ではない、即ち、時間概念と直接関係を持たないのである。これは第一章で紹介した杉村(1994:104)の“在”は時間の流れを感じさせる行為や状況の継続・進行を表すことが多く、……”という記述からもその妥当性を感じ取ることができる。

そこで以上の考察を踏まえて、“我时时刻刻都在背着它”に含まれている意味を次のように図示する。

(1a)	○	○	○	○
	上学	吃饭	上体育课	睡觉
上学	→	小雨背着它		
吃饭	→	小雨背着它		
上体育课	→	小雨背着它		
睡觉	→	小雨背着它		

(1a)は、“小雨背着它”という出来事が，“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”という四つの出来事において、変化することなく存在している有り様を示している。つまり、丸の記号である“○”は“小雨背着它”を示している。従って，“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”という四つの出来事が行われている時にも，“小雨背着它”が存在していると看取できる。ここで指摘しておきたいのは、(1a)には時間軸のようなものが用いられていないことである。これは、“在”自体は時間概念を表わさないことを意味している。故に，“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”という四つの出来事を列挙した順番は、(1)の発話者である“小雨”の朝から順番に行われる習慣的な行為に基づいて配列しただけであり、“在”自体は、この四つの出来事が動的に移動していることまでは表現していない、と考える。よって、“我时时刻刻都在背着它”の“在”は[複数の出来事存在]を表すといえる。

今度は(2)の“无时无刻都在想着梅芬”(ずっと梅芬のことを思い続けている)における“在”について論じよう。ここでは“无时无刻”によって[複数の出来事存在]の意をはっきりと理解することができる。

(2) 其实我脑中，无时无刻都在想着梅芬。可一觉醒来，我面对的却是一个陌生的女人，怎么会这样，我才二十多岁，我的人生才刚刚开始。三弟，我不甘心，我不甘心，我不甘心啊！（テレビドラマ《家》第3話）

“无时无刻都在想着梅芬”において“在”が[複数の出来事存在]を表わす原因は以下の二点から明白となる。第一に，“无时无刻”の生起によって“在”の[複数の出来事存在]の意をはっきりと認識しえることである。つまり，“无时无刻”が生起したということは，“想着梅芬”という出来事がどんな時でも存在している、と解釈できるので，“想着梅芬”を幾つも捉えることができる。そのため“在”の前には副詞“都”が生起している。

忘れてはならないことは、持続動詞の“想”と[持続]を示す時態助詞“着”が[複数の出来事存在]、即ち[進行]の成立を補佐していることである。

次は(3)を見られたい。ここでは“除了上课，其他时间”がポイントとなる。

(3) 刚好排球队下半年也有一个全市比赛，这下静秋就忙了，除了上课，其他时间都在打球。（小説《山楂树之恋》127頁）

（ちょうどバレー部は後期も市大会が行われるので、こうなると静秋はたちまち忙しくなる。授業以外の時間はすべて練習である。）

この(3)では“除了上课，其他时间都在打球”に焦点を当てて論じる。この文において[複数の出来事存在]の意を明晰にしているのは“除了上课，其他时间”である。これにより“打球”という出来事が複数存在していることが保証され、出来事が「数量化」するため、副詞“都”が“在”の前に生起している。

また、動詞“打”の意味特徴も[複数の出来事存在]を表現するための重要な成分である。即ち、“打”は論理的な観点からいうと、[持続]の意味特徴を保持しているので、“打”が有する[持続]の意味特徴が複数の出来事存在を成立させる条件を与えていると考えられる。

次は複数の場所の概念によって“在”の[複数の出来事]の意をはっきりと認識できる例を挙げる。

5.1.2 複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例

用例は全部で四つある。まず(4)の“网上都在传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”では“网上”に注目しながら考察を行う。

- (4) 网上都在传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭。(テレビドラマ《女人的颜色》第27話)
 (ネット上ではどこでも姚倩倩が浮気女として他人の家庭をめちゃくちゃにしている噂が流れている。)

“网上都在传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”の“网上”に注目されたい。ここでの“网上”は総称的な概念であり、幾つもの場所を含んでいる。そのため、副詞の“都”が生起しており、“网上”の到るところで“传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”という出来事が存在していることが分かる。よって、“传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”という出来事に「数量」概念が生じていることになる。

また、動詞の“传”も[複数の出来事]の成立に大きく貢献している。つまり“传”は論理的な観点から言うと、永遠に[持続]していく意味特徴を有している。従って“传”は“传姚倩倩当小三儿破坏别人家庭”という出来事が変化することなく幾つも存在する可能性を与えていると考えられる。

次は“书里的每个字都在跳动、变化”の部分について詳述する。

- (5) 这个漫长夜里，只有这本书可以和我作伴，书里的每个字都在跳动、变化，我本来耳熟能详的，现在却读不成句，因为这本书里好像只写了三个字，孔立夫。(テレビドラマ《京华烟云》第9話)

(この悠久なる長い夜に、ただこの本だけが私と一緒にいる。本の中の文字は躍動し、変化している。本来ならば熟知しきれるものが、いまそれが読み進められない。なぜならこの本にはたった三文字しか書かれていないようであるからだ。孔立夫と。)

“书里的每个字都在跳动、变化”には“跳动”と“变化”といった二つの動詞が並列しているが、両者はいずれも持続動詞であり、かつ、“书里的每个字都在跳动、变化”には“书里的每个字”が生起しているため、“字”が複数存在していると判断できる。自明の如く、本は数多くの字によって成り立っているからである。故に“跳动、变化”が複数存在していると推論しえる。

今度の(6)は“北平”に複数の場所概念が包摂されていることにより[進行]、つまり[複数の出来事]の意をはっきりと捉えることができる例である。

- (6) 他倾耳细听，街上没有一点声音。那最常听到的电车铃声，与小贩的呼声，今天都一律停止。北平是在悲泣！(小説《四世同堂》45頁)

(彼が耳を澄ませると、街道は静寂しきっている。あのいちばん耳馴染みなトローリーの鈴の音と物売りの掛け声は、いま全てピッタリと止んでいる。北平が慟哭し

ているのだ！)

この文では“北平是在悲泣”について詳述する。ここでは“北平”に含まれる複数の場所概念によって“在”が表す[複数の出来事存在]の意をはっきりと捉えることができる。そこで“那最常听到的电车铃声，与小贩的呼声”に留意されたい。これらは北平の本来のあるべき平和な情景である。しかし“今天都一律停止”により、この時、その普段のあるべき北平の活気が全て失われていることが分かる。即ち、“北平”に存在するさまざまなものから感じ取れる活気のなさが“北平是在悲泣”を意味しているのである。

また、“悲泣”という動詞は[持続]の意味特徴を保持していることから、意味上、“悲泣”という出来事が際限なく存在することができる。つまり、持続動詞である“悲泣”の生起が“在”の[複数の出来事存在]の概念を生み出す基盤となっているのである。

以上の考察から、“北平”に内在する複数の場所概念と動詞“悲泣”に内在する[持続]の意味特徴によって、“北平悲泣”という出来事が「数量化」していると解釈できる。

さて、次に挙げる(7)は“整个世界”が示す意味によって[複数の出来事存在]の意を容易に理解しえる例である。

(7) 我觉得所有的东西都是我的，整个世界都在对我笑！（テレビドラマ《艾米加油》第13話）

（何もかも全部わたしの物みたい、世界中がわたしに向かって笑っているわ！）

ここでは“整个世界都在对我笑”を考察対象とする。この文において“在”が[複数の出来事存在]を表すことを保証する成分は以下の二つである。一つは、“笑”に内在する[持続]の意味特徴である。これによって、“对我笑”という出来事存在が不変的に保たれる。

いま一つは“整个世界”の生起である。つまり、“整个世界”によって、発話者が、世界のどこで何を見ても“对我笑”という出来事存在を知覚しえるのである。そう感じるのも無理はない、用例の引用先である《艾米加油》によると、この時、発話者はひどく恋に溺れているのである。

以上の分析により、“对我笑”という出来事は“整个世界”といった「複数の場所」と“对我笑”が保持する[持続性]によって「数量化」され、[複数の出来事存在]の概念が生じていることが判然とした。

5.1.3 複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例

ここでは、動作主に複数の概念が内在されていることで[複数の出来事存在]を明瞭に把握できる文を取り扱う。全部で三つの例がある。まず(8)の例について考えてみよう。

(8) 银花，我在路上想了很多，想来想去，我越来越觉得，我们从山里头走出来这一步是对的，你看啊，你现在开始赚钱了，我也赚钱了，连那小麦狗他也想办法要去赚钱了，这一家三口都在赚钱，那用不了好长时间，你看着吧，我们家就会有一个翻天覆地的变化！（テレビドラマ《温州一家人》第3話）

(8)では三行目の“这一家三口都在赚钱”(一家三人はみな金を稼いでいる)における“在”が[複数の出来事]の意を示していることを証明する。最初に注目すべきは“这一家三口”である。これによって“赚钱”という出来事が複数存在していることが分かる。そのため、“在”の前方には副詞“都”が生起している。また、“这一家三口都在赚钱”の前には“你已经开始赚钱了”、“我也赚钱了”、“连那小麦狗, 他也想办法要去赚钱了”といった命題表現が生起している。この中には“赚钱”を行う動作主が三人生起している。つまり“你”、“我”、“他(麦狗)”である。従って、“这一家三口都在赚钱”を発話したということは、概念上、“赚钱”を共通の出来事とし、“你赚钱”、“我赚钱”、“他赚钱”をすべて纏めて様態的に存在させた、と考えることができる。

これに関連して“这一家三口都在赚钱”における動詞の“赚”も[複数の出来事]を表現する上で見逃せない成分である。要するに“赚”は、意味上、際限なく[持続]する意味特徴を有している。故に、“赚钱”という出来事を複数存在させることが可能となるのである。

次の(9)における“我们全班同学都在编”では、“全班同学”が[複数の出来事]の意を導くための大きな助けとなっている。

(9) A: 老师一看我那作文, 就说我这是编的。

B: 啊?

A: 当然了, 也不只是我一个人编, 我们全班同学都在编! (テレビドラマ《家有儿女 第一部》第46話)

(「A: 先生は私の宿題を一目みると、誤魔化していると言ったわ。」)

(「B: え?」)

(「A: もちろん、私だけじゃなくて、クラスみんなが誤魔化しているのよ!」)

この文は“全班同学”によって[複数の出来事]を明瞭に認識することができる。また、動詞“编”は「(宿題の内容を)誤魔化す」という意を表しているが、この動詞は[持続]の意味特徴を保持しているため、[複数の出来事]、即ち[進行]の成立を支持していると見なしえる。

今度は(10)の“好几个人”に留意されたい。

(10) 有了些眉目, 好几个人都在帮忙, 总有一个能帮成。(小説《云中珠》289頁)

(手がかりをいくつか得て、たくさんの人が助けてくれているから、一人は功を奏してくれるだろう。)

ここでの“好几个人都在帮忙”は“好几个人”によって[複数の出来事]の概念が明晰となる。要するに、“好几个人”に含まれるすべての人が“帮忙”を行っているのである。そのため、“好几个人”の後には副詞“都”が生起し、“好几个人”における人々が例外なく“帮忙”を行っているとして理解できる。

また、“好几个人都在帮忙”における“帮忙”が保持する[持続]の意味特徴も[複数の出来事]という概念を成立させるための重要な前提条件である。つまり、“帮忙”が[終

息]せず、概念上、[持続]を維持することによって、[複数の出来事存在]といった[進行]概念を生み出すことが可能になるのである。

次の 5.1.4 では動作の対象が複数に及ぶことで[進行]、つまり[複数の出来事存在]の意を導くことができる文について述べる。

5.1.4 複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例

ここでは動作の対象が複数に及ぶことで出来事が「数量化」し、[複数の出来事存在]の概念が明確となる文について検討する。二つの例を挙げる。一つ目の例は“公司所有的事情”が[複数の出来事存在]を理解するための鍵となる。

(11) 现在公司所有的事情都是王进在主持！（テレビドラマ《女人的颜色》第 25 話）

（いま会社のすべてのことはみな王进が掌っているのよ！）

“现在公司所有的事情都是王进在主持”において“在”が[複数の出来事存在]の意を表すことをはっきりと理解するためには“公司所有的事情”に着目する必要がある。つまり、“公司所有的事情”は、会社における業務が一つに止まらずたくさんあることを意味するので、“王进”が行う“主持”という行為の対象が複数であることが容易に想像できる。従って“王进主持公司的事情”という出来事が何度も存在、言い換えると、[進行]していると見なしえる。

また、“现在公司所有的事情都是王进在主持”における動詞の“主持”にも留意されたい。論理的な観点から考えると、ここでの“主持”は[持続]の意味特徴を保持している。これにより、“王进主持公司的事情”という出来事が変化することなく存在しえるので、持続動詞の“主持”は[複数の出来事存在]の意の成立に貢献していると考えられる。

続けて(12)の例の分析も行おう。

(12) 这家里的活儿都是我在干。（テレビドラマ《女人的颜色》第 44 話）

（この家の家事はすべて私がやっている。）

ここでは“这家里的活儿”によって[複数の出来事存在]が生じる所以が明白となる。それは要するに、“这家里的活儿”によって、複数の“干活儿”という出来事を連想しえるのである。つまりここでの“这家里的活儿”は、ある特定の一つの作業を指示しているのではなく、多くの作業内容を含んでいるのである。そのため、この“这家里的活儿都是我在干”には副詞の“都”が生起している。

また、“这家里的活儿都是我在干”における持続動詞の“干”は論理的に[終息]することがないので、[複数の出来事存在]、即ち[進行]の成立を支えていると解しえる。

以上から、“这家里的活儿都是我在干”では、“这家里的活儿”と持続動詞“干”によって出来事が「数量化」し、“在”が示す[複数の出来事存在]の意を明確に理解することができた。

さて、次の 5.1.5 では他の文脈を観察することで[複数の出来事存在]の意をはっきりと捉えることのできる例を挙げる。

5.1.5 他の文脈から[進行]を明確に判断できる例

ここでは他の文脈によって[複数の出来事]の概念を明晰に把握しえる文について検討する。用例は全部で三つある。まず(13)の例を見られたい。この文では“孙七, 李四妈, 瑞宣, 李四爷, 前后脚的来到钱家”という文脈によって“在”が示す[複数の出来事]の意が判然とする。

(13) 孙七, 李四妈, 瑞宣, 李四爷, 前后脚的来到钱家。事情很简单! 钱孟石病故, 他的母亲与太太在哭。(小説《四世同堂》166頁)

(孫七、李四叔母さん、瑞宣、李四伯父さんが相次いでに錢家に行って来た。言うまでもない、錢孟石が病で夭折し、彼の母と奥さんが泣いているのである。)

“他的母亲与太太在哭”における“在”が[複数の出来事]の意を表わすことを知る手がかりは二つある。一つは、動詞の“哭”が有する[持続]の意味特徴である。“哭”という動詞は[持続]の意味特徴を有し、かつ、この文には“哭”の[持続]を[終息]させる成分がほかに存在しない。故に、[複数の出来事]の概念を導くことができると考えられる。

第二の手がかりは、“孙七, 李四妈, 瑞宣, 李四爷, 前后脚的来到钱家”という表現にある。つまり、“他的母亲与太太在哭”という出来事は、“孙七”が来た時に存在し、また“李四妈”が来た時に、そして“瑞宣”が来た時に、更には“李四爷”が来た時においても変化することなく行われている、と見なすことができる。

次に(14)の例について考えよう。

(14) A: 曼妮, 你这样老待在屋子里不出去, 久而久之, 会郁闷成病的。

B: 我还能去哪儿呢。

A: 我带你去看电影吧。

B: 看电影! ? 电影这东西, 我倒是听说过, 但是没有看过, 我听说, 好像是很多人, 在一块白布上走来走去, 那怎么可能呢!

A: 不是真人在走, 是那个放出来的相片, 它一张张的相片吧, 把它连在一块放, 就好像人在走一样。(テレビドラマ《京华烟云》第12話)

この場面は発話者 A の“木兰”と発話者 B の“曼妮”の二人によって演じられている。なお、この(14)の引用先である《京华烟云》は清朝末から抗日戦争までを舞台としたテレビドラマである。発話者 B の“曼妮”は結婚式を挙げた夜に旦那に死なれたが、その後まったく外出せず日々隠遁的な生活を送っていた。“木兰”はその愁いの様子を黙って見ていたが、とうとう居た堪れなくなり、映画鑑賞を勧めようと思いつくに至る。当時、北平においても映画は上演されつつあったが、中国の古典的教養を受けている“曼妮”にとっては理解し難い娯楽であったといえる。(14)における二人の会話はこのような背景を以て展開され、“曼妮”が映画に対して抱く素朴な疑問に対して、博学聡明の“木兰”が行った映画の説明はととても明解で、適材適所たる“在”の運用であると感じさせる対話となっている。

さて、最初に注目されたい箇所は、四行目からの“我听说，好像是很多人，在一块白布上走来走去，那怎么可能呢”（話によると、たくさんの人が白い布の上で行ったり来たりしているそうだけど、そんなことありえないわよ）である。その内“走来走去”は（行ったり来たり）という意であり、“走”という動作が“白布”において何度も行われている様子が連想できる。“曼妮”はこのような疑問を口にすると、“木兰”はすぐに続けて“不是真人在走”と答える。ここで注目すべきは、動詞“走”は[持続]の意味特徴を有している、ということである。従って、六行目にある“不是真人在走”の“在”は[複数の出来事存在]の意味を表していると思しえる。

そして、六行目からの“它一张张的相片吧，把它连在一块放，就好像人在走一样。”（その一枚一枚をね、一つにつなげて映し出すの、そうすると人が歩いているのと同じ様に見えるのよ。）における“就好像人在走一样”にも[複数の出来事存在]の意を示す“在”が生起している。この文から理解できることは、動画として知覚する映画というのは、複数の静止画の一つに繋ぎ合わせることであり、あたかも人が動いているかのように見える、ということである。この点からも“在”の[進行]を厳密に[複数の出来事存在]と理解することの重要性を改めて感じとることができる。

次は(15)の用例の考察に移ることにする。ここでは“我知道你在听着”の“在”がなぜ[複数の出来事存在]の意を示すのかを考える。

(15) 我知道你在听着，而且都听进去了。好妹妹，你连死都不怕，难道还怕挺起胸膛活着？
（テレビドラマ《京华烟云》第32話）

（君が僕の話の聞いているのをわかっているよ、しかも全て理解したことも。良き妹よ、死ぬのも怖くないのなら、胸を張って生きるのが怖いというのかい？）

“我知道你在听着”において、“在”が[複数の出来事存在]を表わす根拠は以下の二つである。

第一に、“我知道你在听着”の後方にある“而且都听进去了”には“都”が生起していることである。この“都”は、発話者がこの場面で話す全ての内容を聞き手が聴覚によって例外なく捉えたことを意味する。従って“你听着”の変化なき存在、つまり“你听着”を複数の出来事と見なすことができる。

第二に、“听着”が示す[持続性]である。これにより“你听”という出来事存在が保持されていることが明瞭となる。要するに、持続動詞“听”に[持続]を示す“着”が後続し、“你听”の様態がより安定して保たれるのである。これは、(15)の引用元であるドラマ《京华烟云》が示すように、発話者が、生きる希望を失った友人に対して必死に何度も説得を行っている姿によってより判然とする。¹⁹

5.2 第五章の結び

本章は、副詞“在”が表す[進行]の概念とは厳密に[複数の出来事存在]であることを明らかにした。即ち、[進行]を表す“在”の生起は、概念上、複数の出来事を様態的に一度に配列させる、といった操作を行ったと見なすのである。その根拠として、副詞“在”が生起した文の出来事は、“在”に後続する動詞が保持する[持続]の意味特徴や、文中の他の成分や前後の文脈によって「数量化」している、ということを示した。

¹⁹ “在”と“听”が共起する際に、もし親密に耳を傾けない場合には“着”が生起しないことが多いと思われる。たとえば次の例がそれにあたる。

(a) A: 喂

B: 喂, 小曼, 是你吗?

A: 我在听。

B: 你真决定了? 咱们非离不可呀?

A: 对。(テレビドラマ《独生子女的婆婆妈妈》第40話)

(a)の文が生じた背景を説明すると、この場面は離婚の手続きに関する相談のために旦那が妻に電話をかけたところである。そこで旦那が“小曼, 是你吗?”(曼ちゃん、君だよ?)と口を開くと、妻は厳粛な顔つきで“我在听”(聞いているわ)の一文を吐き出す。このような場面では“着”を用いて熱心に相手の話を聞いていることを伝える必要がないため“着”が生起していないと考えることができる。もう一つ例を挙げよう。

(b) 喂, 莫愁啊, 我是姐姐, 我看到了那个报纸了, 我想跟你说两句, 喂, 喂, 在听吗? (テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(もしもし、莫愁、お姉ちゃんよ、あの新聞を見たわ、ちょっと話があるんだけど、もしもし、聞いてるかしら?)

これは姉が妹の“莫愁”に電話を掛けたシーンである。ここでは発話者である姉は相手に意識的に耳を傾けてもらうことを欲しているわけではなく、それ以前に自分の声が相手に届いているか否かを当否疑問文によって聞いている段階である。従って、特別“着”を用いて“听”という行為のあり様を詳細に表現せず、“在”のみを生起させるまでに留まったと考えられる。

第六章 副詞“在”の文における時制構造²⁰

6.0 はじめに

本章は論理的な観点から、副詞の“在”と時制の関係を考察する。そこで、副詞の“在”は時態成分として[進行]の意味を表すという考えに基づいて考察を進める。具体的な考察方法は、絶対時間と相対時間の二つの角度から、時態副詞の“在”が生起する文における出来事を考察する。論点は以下の三つである。

第一に、絶対時間の角度から考察すると、発話時間(speech time)と時態副詞“在”の文における出来事時間(event time)の関係は三つのタイプがあると見なす。つまり、[過去]における[進行]、[現在]における[進行]、或いは[未来]における[進行]である。

第二に、参照時間(reference time)の視点から考察すると、参照時間と時態副詞“在”の文における出来事時間は、[簡単]の関係を構成するということである。

第三としては、集合論(set theory)を用いて副詞“在”が生起した文の生起過程を検討する。その結果、時間体系から見た“在”構文の成立は、時相表現から時態表現、そして時態表現から時制表現という過程を踏むことを提示する。

6.1 絶対時間と相対時間

本章は副詞“在”と時制の関係に着目した考察を行う。その前提として“在”を[進行]の意を表す時態副詞であると見なす。考察を進める上で重要となるのは絶対時間と相対時間の概念である。本章ではこの二つによって時制が構成されていると考える。即ち、絶対時間は、発話時間から“在”が生起する文(即ち出来事時間)を観察するということである。一方、相対時間は、参照時間から“在”が生起する文(即ち出来事時間)を観察するということである。そこで本論に入る前に現代中国語の時制について明解な記述を残している龔千炎(1995)の中から例を取り挙げて、絶対時間と相対時間について確認しておくことにしたい。龔千炎(1995:32)はまず絶対時間の例として以下の三つを挙げている。

- (1) 他昨天走的。
(彼は昨日行った。)
- (2) 我现在休息。
(私はいま休憩している。)
- (3) 他明天才走。
(彼は明日になってから行く。)

最初に(1)の“他昨天走的”の例について説明しよう。この(1)における“他昨天走的”には“昨天”が生起している。従って、発話時間から見ると、“他走”という出来事は[過去]の時制であると見なすことができる。

²⁰ 本章は青木(2013b)の『時態成分“在”の時制構造における意味と論理』に加筆、修正を行ったものである。

次に(2)の“我现在休息”の例を見られたい。ここでは、“現在”が生起している。よって、発話時間から考えると、“我休息”という出来事は[現在]の時制であるということが分かる。

そして(3)の“他明天才走”においては、“明天”が生起している。故に、発話時間の視点から言うと、“他走”という出来事は[未来]において発生すると考えることができる。

以上の三例はいずれも発話時間の角度、つまり絶対時間から出来事を捉えた分析である。次は相対時間の角度から考えてみることにしよう。即ち参照時間から出来事を観察するということである。これも同様に三つの例を用いてそれらに対し解説を加える。下記の三例は龔千炎(1995:33-34)からの引用である。

(4) 昨天我到他家时，他离开家好几天了。

(昨日私が彼の家に着いた時、彼は家を出て何日もたっていた。)

(5) 明天我到他家时，他可能在家里等候。

(明日私が彼の家に着いた時、彼はおそらく家で待っているだろう。)

(6) 明天你来我家时，我恐怕还没动身呢。

(明日君が私の家に来た時、私はおそらくまだ出発していません。)

まず、(4)の例から説明しよう。ここでは“昨天我到他家时”が参照時間である。従って、“昨天我到他家时”から“他离开家好几天了”という出来事を見ると、“昨天我到他家时”の時点で“他离开家好几天了”は既に起こっている。故に、両者の時間関係は[已然]と呼ぶことができる。

次に、(5)の文について考えると、参照時間となる“明天我到他家时”と“他在家里等候”という出来事は同じ時間帯に生起したと判断できるので[简单]と呼ぶことができる。

そして、(6)の文における参照時間の“明天你来我家时”から見ると、“我动身”という出来事はまだ発生していない。故に、両者の時間関係は[未然]と称することができる。

また、龔千炎(1995:34)は、上の(4)、(5)、(6)の文は絶対時間による判断も可能であるとした。

(4a) 昨天我到他家时，他离开家好几天了。

(昨日私が彼の家に着いた時、彼は家を出て何日もたっていた。)

(5a) 明天我到他家时，他可能在家里等候。

(明日私が彼の家に着いた時、彼はおそらく家で待っているだろう。)

(6a) 明天你来我家时，我恐怕还没动身呢。

(明日君が私の家に来た時、私はおそらくまだ出発していません。)

(4a)は発話時間の角度からいうと、“昨天”が生起しているので“他离开家好几天了”という出来事は[過去]の時制であると見なしえる。(5a)は“明天”が生起していることから、“他在家里等候”という出来事は[未来]の時制であると考えられる。同様に(6a)においても、発話時間から考えると、“明天”が用いられているが故、“我动身”という出来事は[未来]の時制であると解すことができる。

以上から、時制は絶対時間と相対時間を織り交ぜての解釈が可能であるということが分かった。以下、実際に[進行]の意味を表す副詞“在”が生起する例を用いて“在”と時制構造の関係を論じることにしよう。

6.2 副詞“在”における時制構造

以下実例を挙げながら時態副詞の“在”がどのような時制構造を形成するのかを明らかにする。用例は全部で六つある。まず6.2.1の(1)の文について考えよう。

6.2.1 [過去]-[簡単]における“在”構文

- (1) 你知道吗, 我跟茜茜第一次见面就在这里, 当时她在找《简·爱》, 我呢, 在看《悲惨世界》, 莫名其妙我们两个人就撞在一起了。(テレビドラマ《儿女情更长》第2話)
(知っている、僕が茜茜と初めて会ったのはここなんだ。あの時彼女は《簡愛》を探していて、僕は《悲惨世界》を読んでいたんだ。すると不思議にも知りあってしまったんだ。)

ここでは“我跟茜茜第一次见面就在这里, 当时她在找《简·爱》”の部分における時制について検討する。絶対時間の視点, 即ち発話時間から“她在找《简·爱》”という出来事を観察すると, ここでは“当时”が生起しているので, “她在找《简·爱》”は[過去]において行われた出来事であるということが分かる。つまり, “在”は[過去]における[進行]を示していると見なす。

一方, 相対時間の視点から言うと, 参照時間の“当时”と“她在找《简·爱》”は[簡単]の関係にあると見なしえる。要するに, “当时”という時間帯において, “她在找《简·爱》”が同時に存在していると解釈することができる。

さて, 次は“在”がなぜ[進行]の意味として成立したのかについて考える。それは, 動詞の“找”が[持続]の意味特徴を有しているからである。つまり“找”は「探す」という意味を表し, 探したものが見つかるまで, 或いは, 諦めるまで永遠に[持続]し続ける行為である。従って, “她找《简·爱》”という出来事が論理上[終息]することなく存在することが可能となり, [複数の出来事存在], つまり, [進行]の表現が成立すると解釈できる。

また, “在”に後続する目的語の省略についても注目されたい。この“她在找《简·爱》”という文では, “在”の後ろに場所を表す目的語が生起していない。しかし“她在找《简·爱》”の前方における“我跟茜茜第一次见面就在这里”では“这里”が生起している。故に, “她在找《简·爱》”の出来事地点は“这里”であると推測しえる。即ち, “这里”は“我跟茜茜第一次见面就在这里”において既に生起したので, “她在找《简·爱》”では既知の情報として省略された, と考えることができる。よって, “她在找《简·爱》”に含まれる意味は厳密にいうと「彼女が, ここにおいて, 彼女が《简·爱》を探している」と見なしえる。そして, この“她在找《简·爱》”には[過去]の時制を定める“当时”が生起して

いるので、以下の(1a)のような論理式を造ることができる。²¹

- (1a) 探ス ～ガ ～ヲ
 有'【在' [她, 这里, 找' (她, 《简・爱》)&
 アル ～ガ ～ニオイテ
 アル ～ガ
- 存在スル ～ガ ～ニ
 在' [找' (她, 《简・爱》), 这里], 当时】
 ～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

この式全体は「彼女がここで《简・爱》を探しているが、[過去] (当時) の時制にある」という意味を表している。つまり、[過去] の時制を指定する“当时”の意味は“她在找《简・爱》”全体に影響を与えていると考えるのである。そして式の内部にある“找’ (她, 《简・爱》)”は「彼女が《简・爱》を探す」という意味を表わし、“在’ [找’ (她, 《简・爱》), 这里]”は「それ(彼女が《简・爱》を探す)がここに存在する」という意味を表わし、“在’ [她, 这里, 找’ (她, 《简・爱》)&在’ [找’ (她, 《简・爱》), 这里]”は「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探し、かつそれ(彼女が《简・爱》を探す)がここに存在するという様態にある」という意を表わしている。次の(2)では“前两天”が[過去]の時制を決定づける役割を果たしている。

- (2) 我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》。(テレビドラマ《爱情公寓 第三季》第20話)

(私、数日前に道端で誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売っているのを見たわ。)

この文では“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の箇所が考察対象である。最初にこの文の時制について検討しよう。まず、発話時間の視点から見ると、“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”には“前两天”が生起しているのて、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”が[過去]において行われた[進行]であると見なすことになる。

一方、参照時間の角度から考察すると、“前两天”において“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”が存在していると理解できるので、両者の関係は[簡単]であると見なしえる。

次に“在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”における“卖”という動詞に留意すると、ここでの“卖”は[持続]の意味特徴を有していると考えられる。つまり、概念上

²¹ 論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”、“《 》”、“〈 〉”の六つを使用する。そして“()”が最も作用域が狭く、“〈 〉”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】 < 《 》 < 〈 〉

(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭く、“【 】”は“《 》”より作用域が狭く、“《 》”は“〈 〉”より作用域が狭いことを表している。

“売”が終わりなく続くことによって，“有人卖《海贼王大战爱情三脚猫》”という出来事
の存在，言い換えれば“有人卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の[進行]が保証されるのである。

また，“在”の後の目的語の省略に関しては，“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の前
に“街上”が既に生起していることから，概念上，“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”
における“在”の後の“街上”が既知の情報として省略されたと考えることができる。従
って，“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”に内在する意味は「誰かが，道端において，
誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売っている」となる。では，[過去]の時制を決定させ
る“前两天”の成分に注目しながら“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”を論理表記して
みよう。

(2a) 売ル ～ガ ～ヲ
有’【在’ [φ, 街上, 卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)&
アル ～ガ ～ニオイテ
アル ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ
在’ {卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}], 前两天
～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

この論理式は，まず“卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)”が「誰かが《海贼王大战爱
情三脚猫》を売る」という意味を表している。次に，“在’ {卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三
脚猫》), 街上}”が「それ(誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売る)が道端に存在する」と
いう意味を表している。そして，“在’ [φ, 街上, 卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)&
在’ {卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}”が「誰かが，道端において，誰かが《海
贼王大战爱情三脚猫》を売り，かつそれ(誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売る)が道端
に存在するという様態にある」という意味を表している。最後に(2a)の式全体である，“有’
【在’ [φ, 街上, 卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)&在’ {卖’ (φ, 《海贼王大战爱情三
脚猫》), 街上}], 前两天】”が「誰かが道端において《海贼王大战爱情三脚猫》を売って
いるが，[過去] (数日前) という時制にある」という意を示している。次の(3)は“刚才”によ
って[過去]の時制が成立する例である。

- (3) A: 你还不承认是不是? 那你刚才跟二少爷干什么呢? 你说话呀, 你刚才跟二少爷干什
么呢! ?
B: 二少爷刚才烫伤了手, 我在帮他擦酱油。(テレビドラマ《京华烟云》第24話)
(A: 「まだ認めないわけ? じゃさっき私の旦那と何をしていたの? 言ってご覧なさい,
さっきあなたは旦那と何をしていたの! ?」)
(B: 「旦那様が先ほど手にやけどを負ったので, 私が醤油を塗ってあげていました。」)

三行目の“我在帮他擦酱油”は、前の“二少爷刚才烫伤了手”において“刚才”が生起し、また、“那你刚才跟二少爷干什么呢？你说话呀，你刚才跟二少爷干什么呢！？”という表現が生起しているので、[過去]の[進行]であると考えられる。以上の判断は発話時間から観察した結果である。

そこで今度は参照時間の立場から考えると、“二少爷刚才烫伤了手”と“我在帮他擦酱油”の発生時間はほぼ同時であると見なしえるので、両者は[簡単]の関係にあると解しえる。

さて、このように“我在帮他擦酱油”の“在”が[進行]を表すことができるのは、“我在帮他擦酱油”における動詞“擦”の意味特徴に原因がある。つまり、ここでの“擦”は[持続]の意味特徴を有し、かつ、“擦”の[持続]は、“我帮他擦酱油”の文において、他の成分によって[終息]することがない。よって、“擦”は、論理上、尽きることなく[持続]の出来事を生起し、[進行]の表現を提供させていると理解できる。

また、“我在帮他擦酱油”における“在”の後には、場所を表わす目的語が生起していないが、これは発話者が“帮他擦酱油”を行った場所を知っているからである。これはドラマ《京华烟云》を確認すると“我在帮他擦酱油”が生じた時の場所をはっきりと看取できる。要するに、発話者は、発話地点である“这儿”「ここ」が“我在帮他擦酱油”の出来事地点であることをすでに把握しているため“这儿”を省略したのである。以上の考察から、“我在帮他擦酱油”は「私が、ここにおいて、私が彼に醤油を塗ってあげている」という意を包摂していると解しえるので、以下のような論理式を書くことができる。

(3a) 塗ル ～ガ ～ヲ 到ル ～ガ ～ニ
有' <在' 《我, 这里, 帮' [我, 他, 擦' (我, 酱油)&到' {擦' (我, 酱油), 他}]
スル ～ガ ～ニ ～トイウコトヲ
アル ～ガ ～ニオイテ
アル ～ガ

存在スル ～ガ ～ニ
&在' 【帮' [我, 他, 擦' (我, 酱油)&到' {擦' (我, 酱油), 他}], 这里】、刚才'
～トイウ様態ニ
～トイウ時制ニ

この論理式は“擦”（我, 酱油）が「私が醤油を塗る」という意味を表し、“到”（擦'（我, 酱油), 他）が「それ（私が醤油を塗る）が彼に到る」という意味を表し、“帮”（我, 他, 擦'（我, 酱油)&到'（擦'（我, 酱油), 他））が「私が、彼に、私が醤油を塗り、かつそれ（私が醤油を塗る）が彼に到る」という意味を表している。ここまでが“我帮他擦酱油”の意味を示す論理式である。

次に“我帮他擦酱油”に“在”の意味が加わると、“在'《我, 这里, 帮' [我, 他, 擦'（我, 酱油)&到'（擦'（我, 酱油), 他）]&在'【帮' [我, 他, 擦'（我, 酱油)&到'（擦'（我, 酱油), 他）], 这里】”となって、「私が、ここにおいて、私が彼に醤油を塗ってあげ、かつそれ（私

が彼に醤油を塗ってあげる)がここに存在するという状態にある」と解釈する。

そして最後に、“我在帮他擦酱油”に“刚才”の意味が加わったことを表現した式、つまり(3a)の論理式全体である“有’〈在’《我,这里,帮’[我,他,擦’(我,酱油)&到’{擦’(我,酱油,他)]&在’[帮’[我,他,擦’(我,酱油)&到’擦’(我,酱油,他)],这里】》,刚才”は、「私がここにおいて彼に醤油を塗ってあげているが、[過去](先ほど)という時制にある」という意を表している。

次は[現在]における“在”構文について論じる。

6.2.2 [現在]-[简单]における“在”構文

(4) A: 去把黎听叫我书房去。

B: 他, 他这会儿应该在睡觉啊。(テレビドラマ《离婚前规则》第27話)

(A: 「黎听を俺の書斎へ呼んでこさせるんだ。」)

(B: 「あの子は今きっと寝ていると思います。」)

(4)では“他这会儿应该在睡觉”の部分について詳述する。発話時間から見ると、“他这会儿应该在睡觉”は“这会儿”が生起しているので、“他这会儿应该在睡觉”は[現在]における[進行]であると見なす。また、参照時間と成りえる“这会儿”の角度から見ると、“这会儿”と“他在睡觉”は同じ時間帯において存在しているので、[简单]の関係を構成しているという解釈となる。

さて、次は“他这会儿应该在睡觉”の出来事地点について考えたい。発話者Bの視点からいうと、この“他睡觉”という出来事が[進行]する場所は“那儿”であると考え。というのは、テレビドラマ《离婚前规则》によると、この場面は、家の一階で、発話者Aと発話者Bが、息子のことについて話し合っているところである。発話者Aは父親で、発話者Bは母親である。そして、“睡觉”の動作主である“他”は発話者Aと発話者Bの息子である。よって、息子の習慣を熟知している母親の発話者Bの立場から言うと、息子が行う“睡觉”の出来事地点は二階の息子の部屋、つまり「あそこ」であることを認識しているので、発話の際には既知の情報としてこれを省略したと推論する。従って、“他在睡觉”は「彼が、あそこにおいて、彼が寝ている」という命題内容を有していると判断できる。

また、ここでの“在”が[進行]の時態を示しえるのは、“他这会儿应该在睡觉”の動詞である“睡觉”が[持続]の意味特徴を保持しているからである。故に、“睡觉”に内在する[持続]の意味特徴によって、[複数の出来事存在]、換言すると、[進行]の意を表現することができる、といえる。つまり、論理上、“他睡觉”という出来事が変化することなく存在し続けられるということである。

そこで、“他这会儿应该在睡觉”の“在”と時制にのみ注目して論理表記すると以下のようになる。

- (4a) トル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 有’【在’ [他, 那儿, 睡’ (他, 覚) & 在’ {睡’ (他, 覚), 那儿}], 这会儿】
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ
 アル ～ガ ～トイウ時制ニ

この論理式は“睡’ (他, 覚)”が「彼が睡眠をとる」という意味を表し, “在’ {睡’ (他, 覚), 那儿}”が「それ(彼が睡眠をとる)があそこに存在する」という意味を表し, “在’ [他, 那儿, 睡’ (他, 覚)&在’ {睡’ (他, 覚), 那儿}]”が「彼が, あそこにおいて, 彼が睡眠をとる、かつそれ(彼が睡眠をとる)があそこに存在するという様態にある」という意味を表し, “有’【在’ [他, 那儿, 睡’ (他, 覚)&在’ {睡’ (他, 覚), 那儿}], 这会儿】”が「彼があそこにおいて睡眠をとっているが, [現在](この時)という時制にある」という意味を表している。さて, 次に考察する(5)の文では[現在]の時制を表す成分として“現在”が生起している。

- (5) 我现在差不多在专心研究佛法。(テレビドラマ《四世同堂》第1話)
 (私は今ほとんどもっぱら仏教を研究しています。)

この(5)では“我现在差不多在专心研究佛法”が考察対象となる。そこで“在”を中心にした考察にすため, 便宜を図って“我现在差不多在专心研究佛法”を“我现在在研究佛法”という命題表現に置き換えて論じることとする。この文における時制は“現在”によって[現在]の時制であることが分かる。一方, “現在”を参照時間に当て嵌めて“我在研究佛法”との時間関係を考察すると, 両者は同時に成立していると考えることが可能である。従って, 両者は[簡単]の関係を構成していると見なしえる。

そして, この文における“在”が[進行]の時態を表しえるのは, 持続動詞の“研究”が重要な役割を果たしていることにある。即ち, “我现在在研究佛法”における動詞“研究”は[持続]の意味特徴を有しているが故, 概念上「仏教を研究する」という出来事の限度なき存在が実現するのである。

また, “我现在在研究佛法”における“在”の後方には目的語が生起していない。というのは, 発話時間以外において幾度となく“我研究佛法”という出来事が存在しているからである。このように解釈した所以は“現在”が示す意味にある。即ち“現在”は《現代汉语词典(第6版)》(2012:1416)によると, 「この時、発話の時を指す。時に発話前後の一定の時間を含む。」といった意味を表すので, “我研究佛法”という出来事の高発, 言い換えると, “我研究佛法”という出来事が複数存在していると推測しえる。これは, (5)の場面をドラマ《四世同堂》で確認すると, その場面では, 発話者である“冠晓荷”は, 実際に仏教について研究していないことから確かな判断であるといえる。²²

以上の分析によって, “我现在在研究佛法”は「私が, ある場所において, 私が仏教を研究している」という意が含まれていると考えられる。では, “在”と時制の役割を果たす“現在”に着目して以下の如く論理表記してみよう。

(5a) 研究スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 有'【在' [我, φ, 研究' (我, 佛法) & 在' {研究' (我, 佛法), φ}], 現在】
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ
 アル ～ガ ～トイウ時制ニ

この式は“研究' (我, 佛法)”が「私が仏教を研究する」という意味を表し, “在' {研究' (我, 佛法), φ)”が「それ(私が仏教を研究する)がある場所に存在する」という意味を表し, “在' [我, φ, 研究' (我, 佛法)&在' {研究' (我, 佛法), φ}]”が「私が, ある場所において, 私が仏教を研究し, かつそれ(私が仏教を研究する)がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し, “有'【在' [我, φ, 研究' (我, 佛法)&在' {研究' (我, 佛法), φ}], 現在】”が「私がある場所で仏教を研究しているが, [現在]という時制にある」という意を表している。次は統語上[現在]の時制を示す成分が生起していない例について考えよう。

(6) 喂, 莫愁啊, 我是姐姐, 我看到了那个报纸了, 我想跟你说两句, 喂, 喂, 在听吗? (テレビドラマ《京华烟云》第32話)

(もしもし、莫愁、お姉ちゃんよ、あの新聞を見たわ、ちょっと話があるんだけど、もしもし、聞いているかしら?)

“在听”には時制を決定づける成分が字面上存在しない。ところが, 张谊生(2004:175)の「時間を明示する成分がない場合, 現在の時制を表す」という記述に基づくと, “在听”は[現在]において生じたと考えられる。また, ドラマ《京华烟云》を見ると, (6)の会話がその現場, つまり“現在”において行われていることがはっきりと看取できる。一方, 参照時間から見ると, “現在”と“在听”は同時に生起しているため, 両者の関係は[簡単]であると解しえる。

次に, “在听”における動詞“听”の意味特徴について考えると, この“听”は[持続]の意味特徴を保持し, 概念上, “听”という出来事を際限なく存在させることができるが故, “在”は[進行]の時態を表すことができると解しえる。

そして, 意味上“在”に後続する目的語について考えると, “听”が行われている場所は, 文脈的に見てもそれが何処であるのかが分からない。この謎を解くには(6)の引用先であるドラマ《京华烟云》を慎重に視聴する必要がある。《京华烟云》によると, この(6)における場面は, 発話者は, 妹の“莫愁”がいる実家の固定電話に向かって電話をかけているので, 妹の“莫愁”が電話で会話をする地点は特定の一か所に限定される。従って, 発話者

22 原著《四世同堂》ではテレビドラマ《四世同堂》とは異なり, “在”の代わりに“是”が使われている。つまり, テレビドラマの“我现在差不多在专心研究佛法”における“在”が小説においては,

我现在差不多是专心研究佛法。(小説《四世同堂》29頁)
 となっている。従って, (5)の“我现在差不多在专心研究佛法”における“在”は動態的な[進行]ではなく, 静態的な[進行], 厳密に換言すると, 第五章で主張したように, “在”は[複数の出来事存在]の意を表す, と解釈することの妥当性を感じ取れる。即ち, [進行]の意を表す“在”は, 発話者が, 発話時点において, 概念上, 複数の“我研究佛法”という出来事を様態的に存在させるといった操作を行った, と考えるのである。

が出来事地点を示さずに“在听”と発話した所以は、発話者が、実家の分かり切った場所に置かれている固定電話の地点の“那儿”「あそこ」を既知の情報と見なし、省略したからである、と解しえる。故に、“在听”は「あなたが、あそこにおいて、あなたが私の話しを聞いている」という命題内容を含んでいると理解できるので、以下のように論理表記できる。

(6a)	スル	～ガ	～ヲ
	有’	《在’	【你, 那儿, 听’ {你, 说’ (我, 话)} &
		聞ク	～ガ ～ヲ
	アル	～ガ	～ニオイテ
	アル		～ガ
	存在スル	～ガ	～ニ
	在’	[听’ {你, 说’ (我, 话)}, 那儿]	, 现在》
		聞ク	～ガ ～ヲ
			～トイウ様態ニ

～トイウ時制ニ

ここでは、まず、“说’(我, 话)”が「私が話をする」という意味を表し、“听’{你, 说’(我, 话)}”が「あなたがそれ(私が話をする)を聞く」という意味を表している。次に“在’[听’{你, 说’(我, 话)}, 那儿]”が「それ(あなたが私が話をするのを聞く)があそこに存在する」という意味を表している。そして、“在’【你, 那儿, 听’{你, 说’(我, 话)} & 在’[听’{你, 说’(我, 话)}, 那儿]】”が「あなたが、あそこにおいて、あなたが私が話をするのを聞きかつ、それ(あなたが私が話をするのを聞く)があそこに存在するという様態にある」という意味を表している。(6a)の式全体である“有’《在’【你, 那儿, 听’{你, 说’(我, 话)} & 在’[听’{你, 说’(我, 话)}, 那儿]】, 现在》”が「あなたがあそこにおいて私が話をするのを聞いているが、[現在]という時制にある」という意を表している。次は[進行]の意を示す“在”構文が、[未来]の時制において生起する文について検討する。

6.2.3 [未来]-[簡単]における“在”構文

(7) 我希望能遇上爱情，为了开心，给他找个好爸爸。我也希望有一天回到家的时候，有人在等待我。(テレビドラマ《儿女情更长》第8話)

(愛にめぐり合うことが出来たらいいわ、息子の开心のためにも、よいお父さんを見つきたいの。家に帰った時に、誰かが私を待っていて欲しいとも願っているわ。)

(7)の“有人在等待我”は、前方の“我也希望有一天回到家的时候”によって、[未来]の[進行]であると見なすことができる。これは発話時間からの観察である。

一方、参照時間、つまり“我也希望有一天回到家的时候”の視点から“有人在等待我”を見ると、この二つの出来事は同時に成立していることが分かる。故に、両者は[簡単]の関係にあると見なしえる。

また、“有人在等待我”が[進行]しているのは、動詞の“等待”が[持続]の意味特徴を保持しているためである。これによって、論理上“有人等待我”という出来事が際限なく存在しえることが保証され、[進行]の時態が表現できると解しえる。

そして“有人在等待我”における“在”の後ろには出来事地点を示す目的語が生起していない。ところが、前方の“我也希望有一天回到家的时候”では“家”が生起しているので、後の“有人在等待我”の出来事地点も「家」であると推測することができる。故に、“有人在等待我”では、「家」を分かり切った情報として省略したと考えると、この文に含まれる意味は「ある人が、家において、ある人が私を待っている」と見なしうる。では、以上の考察を基に“有人在等待我”の部分論理式で表わしてみよう。

(7a) 待ツ ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ
 有' 【在' [φ, 家, 等待' (φ, 我) & 在' {等待' (φ, 我), 家}], 将来]
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ
 アル ～ガ ～トイウ時制ニ

この論理式は“等待' (φ, 我)”が「誰かが私を待つ」という意味を表し、“在' {等待' (φ, 我), 家}”が「それ(誰かが私を待つ)が家に存在する」という意味を表し、“在' [φ, 家, 等待' (φ, 我)&在' {等待' (φ, 我), 家}]”が「誰かが、家において、誰かが私を待ち、かつそれ(誰かが私を待つ)が家に存在するという様態にある」という意味を表し、“有' 【在' [φ, 家, 等待' (φ, 我)&在' {等待' (φ, 我), 家}], 将来]”が「誰かが家において私を待っているが、[未来](ある日)という時制にある」という意を表している。次に挙げる(8)では、“假若”によって、[未来]における[進行]を構成している文について論じる。

(8) 当他每天一进办公厅的时候, 他就先已把眉眼扯成像天王脚下踩着的小鬼, 狠狠的向每一个职员示威。坐下, 他假装的看公文或报纸, 而后忽然的跳起来, 扑向一个职员去, 看看职员正在干什么。假若那个职员是在写着一封私信, 或看着一本书, 马上不是记过, 便是开除。(小説《四世同堂》730 頁)

ここでの“假若那个职员是在写着一封私信”(もしあの従業員が関係のない手紙を書き続けているならば)は出来事の仮定を表わす“假若”が生起しているので、発話時間の角度から考えると、“那个职员是在写着一封私信”はまだ実際に発生していない出来事であるということが分かる。故に“那个职员是在写着一封私信”は[未来]における[進行]であると解釈できる。そして、この“假若”は出来事の仮定を表すので、これを参照時間とすると、その仮定した[未来]の時においては、“那个职员是在写着一封私信”が同時に存在していることになる。よって、参照時間と出来事時間は[簡単]の関係にあると見なしうる。

このように“那个职员是在写着一封私信”が[進行]として考えられるのも、動詞の“写

”が、概念上、果てしなく[持続]するからである。その証拠として、[持続]の様態を明示する時態助詞“着”が生起している。

なお、“假若那个职员是在写着—封私信”の“在”には、出来事存在場所を示す目的語が後続していない。しかしながら、“在”の後には意味上“办公厅”が当て嵌まると考えられる。というのは、(8)の一行目にある“当他每天一进办公厅的时候”(彼が毎日事務室に入った時)では“办公厅”が生起しているので、文脈上“那个职员是在写着—封私信”は“办公厅”において生じていると推測できるからである。従って、“那个职员是在写着—封私信”では、既知の情報として“办公厅”を省略したと判断し、“那个职员是在写着—封私信”に含まれている意味情報は、“在”を中心にして考えると「あの従業員が、事務室において、あの従業員が手紙を書き続けている」と見なしえる。そこで“在”と直接関係する成分だけを取り出して論理表記すると、

(8a) 書ク ~ガ ~ヲ
 有’ 《在’ 【那个职员, 办公厅, 写’ (那个职员, 私信)&
 アル ~ガ ~ニオイテ
 アル ~ガ
 アル ~ガ ~トイウ様態ニ
 有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}&
 存在スル ~ガ ~ニ
 在’ [有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}, 办公厅] , 将来)
 ~トイウ様態ニ

~トイウ時制ニ

となる。この論理式は、まず“写’ (那个职员, 私信)”が「あの従業員が手紙を書く」という意味を表している。次に“有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}”が「それ(あの従業員が手紙を書く)が[持続]という様態にある」という意味を表し、“在’ [有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}, 办公厅]”が「それ(あの従業員が手紙を書き続ける)が事務室に存在する」という意味を表している。

そして、“在’ 【那个职员, 办公厅, 写’ (那个职员, 私信)&有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}&在’ [有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}, 办公厅]”が「あの従業員が、事務室において、あの従業員が手紙を書き続け、かつそれ(あの従業員が手紙を書き続ける)が事務室に存在するという様態にある」という意味を表し、“有’ 《在’ 【那个职员, 办公厅, 写’ (那个职员, 私信)&有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}&在’ [有’ {写’ (那个职员, 私信), 着}, 办公厅] , 将来) ”が「あの従業員が事務室において手紙を書き続けているが、[未来]という時制にある」という意を表している。次の(9)における“你是在故意嘲笑她”は、この文の前方にあ

る文脈と助動詞の“肯定”が示す意味によって、[未来]-[簡単]の時制を構築していると考えることができる。

(9) A: 二哥, 如果你找到素云, 想过怎么办吗?

B: 离婚, 这次我一定要和她离婚!

A: 既然要离婚的话, 还登什么寻人启示呢, 你让素云看到了会怎么想? 她肯定觉得, 你是在故意嘲笑她。(テレビドラマ《京华烟云》第37話)

(A: 「襟亚兄さん、もし素云が見つかったら、どうするつもりですか?」)

(B: 「離婚だ、今回は絶対にあいつと離婚するんだ!」)

(A: 「そう思うなら、お尋ね広告なんかをしてはだめよ、素云に見られたらどう思うかしら、間違いなく兄さんが故意に嘲笑していると思うわ。」)

この文では“你是在故意嘲笑她”の箇所について詳述する。そこで“在”に重点を置いて考察するために、“你是在故意嘲笑她”を“你在嘲笑她”という命題表現に置き換えて考察を進めることにする。まず、この文における時制について考えよう。你在嘲笑她”は、前後の文脈と推量の意を示す助動詞“肯定”によって、[未来]の出来事であると判断することができる。それは、(9)の三行目から始まる“既然要离婚的话, 还登什么寻人启示呢, 你让素云看到了会怎么想? 她肯定觉得”の表現によって明らかとなる。というのも、ドラマ《京华烟云》によると、この(9)における場面は、発話者Bが、実家の悪事を擁護するが故に家出をした妻の“素云”が見つからず、頗る気をもんでいる所である。そこで旦那である発話者Aは、新聞に彼女の名前を記載して消息を得ようと提案したが、発話者Aの反駁を被ることになる。そのため、(9)のようなやりとりが行われることになり、“你在嘲笑她”は[未来]の出来事であると解すことができる。

一方で、[未来]、つまり、“登寻人启示”が成された時を参照時間とすると、これと“你在嘲笑她”は同時に成立しているのです、[簡単]の関係にあると見なしうる。

さて、次は動詞“嘲笑”について考える。この動詞は[持続]の性質を有しており、同時にこの文には“嘲笑”の[持続]を[終息]させる成分が存在していない。よって、概念上、“嘲笑”という出来事の限りなき存在が保証されるので、[進行]の時態表現が成立する。

今度は“在”が伴う目的語について考えてみたい。ここでは“在”の後には“这儿”「ここ」があると判断するのが妥当である。つまり、“你嘲笑她”という出来事が、発話者側の“这儿”に存在し、“嘲笑”の対象である“她”が“那儿”「あそこ」側である、と解すのである。よって、“你在嘲笑她”は、「あなたが、ここにおいて、あなたが彼女を嘲笑している」という意を含んでいると見なし、

(9a) 嘲笑スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ

有’ 【在’ [你, 这儿, 嘲笑’ (你, 她) & 在’ (嘲笑’ (你, 她), 这儿)], 将来】

アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ

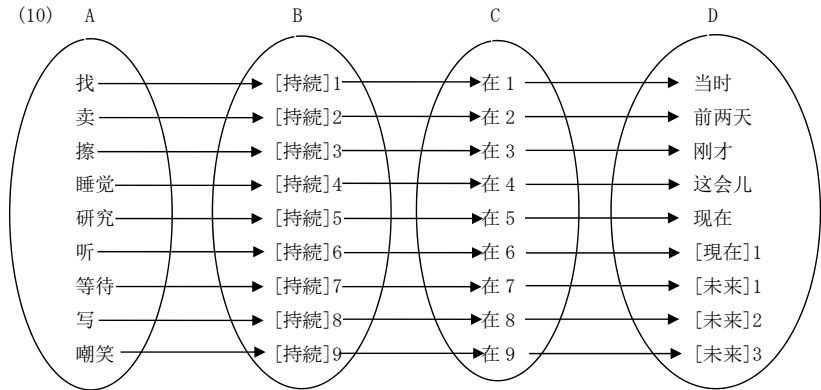
アル ～ガ ～ガ ～トイウ時制ニ

と表記できる。(9a)の式は“嘲笑’ (你, 她)”が「あなたが彼女を嘲笑する」という意を、

“在’〔嘲笑’(你,她),这儿]”が「それ(あなたが彼女を嘲笑する)がここに存在する」という意を, “在’[你,这儿,嘲笑’(你,她)&在’〔嘲笑’(你,她),这儿]]”が「あなたが, ここにおいて, あなたが彼女を嘲笑し, かつそれ(あなたが彼女を嘲笑する)がここに存在するという様態にある」という意を, “有’【在’[你,这儿,嘲笑’(你,她)&在’〔嘲笑’(你,她),这儿]],将来】”が「あなたがここにおいて彼女を嘲笑しているが, [未来]という時制にある」という意味を表している。

6.3 集合論の運用による解析

6.2.1から6.2.3において考察した文の生起過程を時間体系の観点から考えると, 以下のように図示することができる。



(10)は四つの集合によって構成されている。左から順番にA、B、C、Dと記すことにする。まず、Aを見られたい。これは本章の(1)から(9)の分析で関わった動詞が列挙している。この各動詞は、Aの集合における要素(element)である。

次にBは、動詞に内在する[持续]の意味特徴の集合を表わしている。従って、Bの全ての[持续]はBの集合における要素であるといえる。なおBの要素はどれも[持续]であるが、これは時相(phase)を充足させる役割を果たしていると考えられる。つまり、具体的な一纏まりの出来事(event)を構成させる役割を果たしているのである。龚千炎(1995:17)はこのような[持续]の意味特徴によって形成する出来事のタイプを“活动情状”(activity situation)と称した。そこで、本章ではこの“活动情状”を「無限持续タイプ」と呼ぶことにする。つまり、この「無限持续タイプ」は動詞に内在する[持续]の意味特徴によって、概念上、際限なく[持续]する出来事を構築するのである。²³

今度はCを見られたい。この集合は時態成分の“在”が配列されているので、これらの

²³ 時相についてのより詳しい考察は青木(2014d)を見られたい。

“在”は全てCの集合の要素と見なしえる。最後のDが表わすのは、時制を示す成分の要素によって構成された集合である。

さて、これら四つの集合の中の各要素は矢印によって、左から右、つまりAからB、BからC、そしてCからDへと順番に割り当てられている。これらの操作を写像(mapping)という。即ち、要素と要素の関係(relation)を指定しているのである。指摘すべき点は、このAからDまでの集合が写像していく順番は、必ずA、B、C、Dの順番で行われるということである。要するに、この四つの集合は「四つ組」(quadruples)であるということである。

方立(2000:45)は「順序付きペアにおける要素が並ぶ順番には意味がある」と述べた。つまり方立は、

$$\langle a, b \rangle \neq \langle b, a \rangle$$

と見なししている。そこでこの見解に従って、(10)のAからDまでの関係にも順番が定まっていると考えることができる。即ち、まずAはBへ写像して、次にBがCへ写像する。そして、最後にCがDへ写像することになる。

では以上の解説を基に、(10)で示した各集合の関係についてより詳しく考えてみたい。そこでAの一番上にある“找”という動詞を例にして、これがB、C、Dの集合へと順番に写像していく過程を検討しよう。この動詞は本章の6.2.1の(1)で分析した“当时她在找《简・爱》”において生じたものである。従って、以下、時間体系の観点から“当时她在找《简・爱》”の構成プロセスを検討することになる。

まず、意味上、動詞“找”が、[持続]の意味特徴を保持することによって、時相が成立する。これは(10)において、Aにおける“找”からBにおける“[持続]1”への写像によって表わされている。これにより“当时她在找《简・爱》”の文における時相が充足したことになる。次に、動詞“找”に内在する“[持続]1”という意味特徴がCにおける“在1”へ写像する。この写像は、時相表現から時態表現へ到ったことを意味している。そして、Cの時態成分の“在1”がDの時制成分である“当时”へ写像すると、時態表現から時制表現へ移行したと理解することができる。以上の写像のプロセスは論理式の表記と密接に関係している。そこで6.2.1の(1)で解析した“当时她在找《简・爱》”の論理式を再度表記しておこう。

$$(11) \quad \begin{array}{l} \text{探ス} \quad \sim\text{ガ} \quad \sim\text{ヲ} \\ \text{有' [在' [她, 这里, 找' (她, 《简・爱》)]\&} \\ \text{アル} \quad \sim\text{ガ} \quad \sim\text{ニオイテ} \\ \text{アル} \quad \quad \quad \sim\text{ガ} \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{存在スル} \quad \quad \quad \sim\text{ガ} \quad \quad \quad \sim\text{ニ} \\ \text{在' [找' (她, 《简・爱》), 这里], 当时]} \\ \quad \quad \quad \sim\text{トイウ様態ニ} \end{array}$$

$$\sim\text{トイウ時制ニ}$$

この論理式は「彼女がここで《筒・愛》を探しているが、“当時”という[過去]の時制にある」という意味を表している。

この式から、時制を示す成分の“当時”が最も広範囲に他の成分に対して意味的影響を与えていることに気づく。これは、他の研究者の見解を形式的な手法によって反映させたといえる。つまり“在”が時態成分として、概念上、[過去]、[現在]、[未来]といった時制に囚われずに生起できるのは、(11)の論理式が表わすように、時制成分が式の一番外側に位置し、時態成分の“在”によって構成する論理式全体に対して意味的影響を与えているからであると推論しえる。

また、(11)の論理式の中には時相(「無限持続タイプ」)を充足する“找’(她,《筒・愛》)&在’{找’(她,《筒・愛》),这里)”という式が埋め込まれている。故に、時態表現は時相表現を包摂していると理解できる。このように解釈した根拠は、龔千炎(1995:44)が時態について「出来事(event)のある段階における特定の状態を表わす。」と述べたことを後ろ盾にすることができる。要するに、時態は、出来事に対する様々な捉え方によって表れる様態なので、時態を表現するには、その前提として、具体的な出来事が確立していなければならないのである。つまり、時態を表現する前に時相の充足が求められるのである。

以上の考察により、時間体系から見た“当时她在找《筒・愛》”の文の生起過程は、まず動詞の“找”が持つ[持続]の意味特徴によって時相が成立し、次にその時相を[複数の出来事存在]、つまり、[進行態]として捉えることで時態が成立し、最後にはその[進行]を表わす時態が“当時”という[過去]において生じたと思なすことで時制が成立する、という過程を経ることを証明した。そしてこの過程は、集合における写像の概念と論理式で解析できるということが分かった。

6.4 第六章の結び

本章では“在”は[進行]の意味を表す時態副詞であるという仮説のもと、“在”と時制との関わりについて詳述した。主として、絶対時間と相対時間の二つの視点から副詞“在”が生起する文を考察した。その結果、絶対時間から考察すると、発話時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[過去]における[進行]、[現在]における[進行]、或いは[未来]における[進行]を表現できることが分かった。一方、相対時間から考察すると、参照時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[簡単]の関係を構成するということを明らかにした。

そして、時間体系の立場から言うと、副詞“在”が生起した文の成立は、時相表現から時態表現、そして時態表現から時制表現という過程を辿ることを集合論と論理式を運用しながら証明した。

第七章 副詞“在”と副詞“正”の意味と論理²⁴

7.0 はじめに

現代中国語における副詞“在”と“正”は、口語、書面語を問わず使用頻度の高い成分である。しかし両成分に対する解釈は各研究者によって異なり、“在”を[進行]や[持続]といった言葉を用いて解釈する一方で、“正”も[進行]や[持続]といった言葉を用いて解されることが多く、適切な定義がなされていない状況にある。²⁵しかも“在”と“正”は時として一つの文において共起するため、両成分の意味役割を明確に定めることは容易ではない。そこで本章は論理的な観点から“在”、“正”が果たす意味役割について考察し、両者の差異を判然とさせる。結果、“在”の[複数の出来事存在]の意は、通常、存在量量子(existential quantifier)によって解釈することができ、“正”の[複数の出来事包括]の意は全称量量子(universal quantifier)によって解しえることを提示する。次節では“在”について論じる。

7.1 “在”の解析

用例は全部で五つある。まず(1)の例を見られたい。

(1) A: 妈妈, 你回来了!

B: 冬冬, 你怎么这么晚还不睡啊?

A: 我在等你啊, 准备跟你说晚安。(テレビドラマ《爱的创可贴》第13話)

(A: 「ママ、おかえり!」)

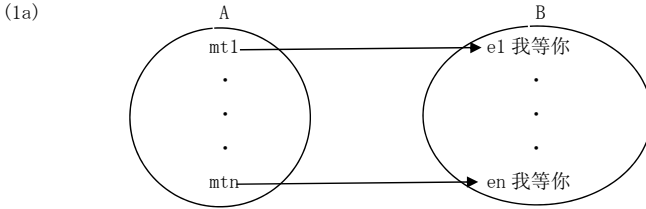
(B: 「冬冬、どうしてこんな遅いのになまだ寝ないの?」)

(A: 「ママを待っていたんだよ、お休みを言おうと思っただけ。」)

(1) では“我在等你”が問題となる箇所である。ここで生起する“在”は[複数の出来事存在]の意を示していると考えられる。それは“我等你”が[持続]の出来事を構成しているからである。そしてこの“我等你”が[持続]しえるのは、動詞“等”自体が[持続]の意味特徴を有しているためである。(1)の用例の引用先であるドラマ《爱的创可贴》によると、この場面は、息子が母親の仕事帰りを夜遅くまで待っていたところである。この事実は(1)の“你怎么这么晚还不睡啊”と“准备跟你说晚安”の文からも理解することができる。従って、“我等你”という出来事が[持続]したが故、複数の“我等你”を存在させることができる、と考えられるので、“我在等你”は次のような集合を構成することができる。

²⁴ 本章は青木(2014b)の『時態成分“在”と“正”の意味と論理』に加筆と修正を行ったものである。

²⁵ “正”がこれまでどのように解釈されていたのかについては、本稿の7.2で言及する。



(1a)は二つの集合から成る。これらの集合は複数の要素(element)によって構成されている。左の集合をA, 右の集合をBとする。Aの集合はいずれも“mt”という要素が含まれている。この“mt”はある一つの様態的な時間点を示している。従って、様態の‘manner’と時間の‘time’の頭文字として“mt”と記すことにする。次にBを見られたい。この集合には出来事(event)が要素として存在している。よって“event”の頭文字である“e”を用いて表すことにする。

今度はAからBに向かって延びる矢印について説明しよう。この矢印はAからBへの写像(mapping)を意味する。要するに、この矢印はAからBへの函数(function)である。

さてここでもう一度(1a)の図全体を見られたい。“mt”が一つ以上“我等你”へ写像されている。よって、“我等你”という出来事が複数存在していることが分かる。そこで、“我在等你”の文に対して存在量子を用いると以下のような式を作ることができる。²⁶

(1b) アル ～ガ 待ツ ～ガ ～ヲ
 $\exists x$ [mt' (x)&有' {x, 等' (我, 你)}]
 持ツ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

これは「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt'”であり、かつその“x”が“我等你”という出来事を持つ」と読むことができる。以下この式について詳しく説明しよう。

ここでの“ $\exists x$ ”は「少なくとも一つの“x”についていう」という意である。この“ $\exists x$ ”に後続する“mt' (x)”は“x”が“mt” (様態時間)である」という意を表している。そしてこの“mt' (x)”の右側にある“有' {x, 等' (我, 你)}”という式は“x”が“我等你”という出来事を持つ」という意味を示している。また、“mt' (x)”と“有' {x, 等' (我, 你)}”の間に置かれた“&”は「連言 (conjunction)を意味し、“mt' (x)”という単純命題と“有' {x, 等' (我, 你)}”という複合命題が同時に成立していることを表している。なお、“等' (我, 你)”は「僕があなたを待つ」という意味を示している。

以上、“我在等你”における“在”が[複数の出来事存在]の意を表すことを集合と存在

²⁶ 論理式における括弧“()”、“{ }”、“[]”、“【 】”は、“()”が最も作用域(scope)が狭く、“【 】”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。

(a) () < { } < [] < 【 】

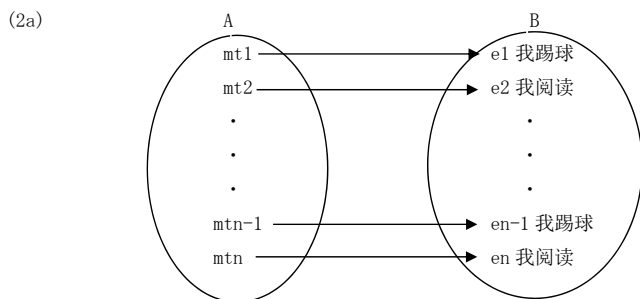
この(a)は、“()”は“{ }”より作用域が狭く、“{ }”は“[]”より作用域が狭く、“[]”は“【 】”より作用域が狭いことを表している。また、存在量子と全称量子の作用域は一律に“()”を用いて表すことにする。

量子化で解釈した。次の(2)では“我虽然一直在踢球”の“在”が問題となる箇所である。この文では“一直”と“但我从来没有放弃过阅读”という表現によって、“在”が示す[複数の出来事存在]の意の成立をはっきりと理解することができる。

(2) 要说起这个开公司啊，主要是因为我爱读书，我虽然一直在踢球，但我从来没有放弃过阅读，再加上我对图书市场又比较了解，一想，干脆开个图书公司得了。(テレビドラマ《家有儿女 第一部》第65話)

この文の発話者は元サッカー選手である。まず“在”が生起する“我虽然一直在踢球”(僕はずっとサッカーをしてきたけど)の箇所を見ると、“一直”が生起しているの、“我踢球”という出来事が以前から引退するまでの間において、毎日の如く継続して行っていたことが分かる。故に、概念上、“我踢球”という出来事を複数存在させることが可能となる。

そこで注目すべきは、“我虽然一直在踢球”の後にある“但我从来没有放弃过阅读”(だけど僕は読書を疎かにしたことがない)の箇所である。これにより、プロサッカー選手として現役時に“踢球”を行っている間においても、“阅读”を定期的に行っていたということが判然とする。従って、集合論にあてはめて考えると次のような集合を構成しえる。



(2a)の集合により、“mt”において“我踢球”という出来事が複数存在していることが理解しえる。また、“我踢球”という出来事以外に“我阅读”という出来事が存在していることが分かるので、“我踢球”という出来事が断続的に複数存在していると思なしうる。これは第一章の1.1.1における潘文娛(1980:47)の“在”が表わす持続性は離散的なものでもよい。しかし、それは日常的に行われているような動作である。」や1.1.15で朱景松主編(2007:531)が述べた「動作の状態は厳密にその時刻において生じていなくてもよい。」といった記述を形式的に反映させたといえる。

では“在踢球”の部分存在量子化によって表示してみよう。

(2b) アル ~ガ スル ~ガ ~ヲ

∃x [mt' (x)&有' {x, 踢' (我, 球)}]

持ツ ~ガ ~トイウ出来事ヲ

(2b)の式は、「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt’”であり、かつその“x”が“我踢球”という出来事を持つ」という意味を表している。そして“踢’(我, 球)”は「僕がサッカーをする」という意を表している。

さて次は(3)の“你在一天天的长大”における“在”を考察する。ここでは“一天天”が[複数の出来事存在]の成立を決定づける重要な成分である。

(3) A: 妈妈, 我觉得我一点儿都不像你。

B: 美美呀, 你越来越漂亮了, 你在一天天的长大。妈妈想, 想把这件事告诉你, 你确实不是妈妈亲生的。(テレビドラマ《鉄面歌女》第30話)

(A「ママ、私ちつともママに似ていないと思うんだけど。」)

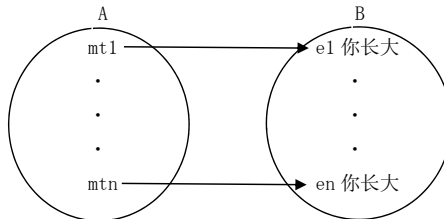
(B「美美、あなたはどんどん綺麗になって、日に日に大きくなっているわ。ママは、ママはその事について伝えたいと思うの。美美は確かにママが生んだ子供じゃないのよ。」)

この“你在一天天的长大”における“在”もやはり[複数の出来事存在]の意を表すと理解する。その証拠は“一天天”の生起にある。なぜなら、“一天天”は「日に日に」といった意を示しているので、“你长大”という出来事が何度も規則的に起こっていることが保証されるからである。つまり、発話者は(3)の場面において、“美美”がすくすくと成長する過程を静態的に表現したのである。

注目に値することは、“你在一天天的长大”において動詞の役割を担う“长”は[持続]の意味特徴を有しているため、“长”単独では永遠に[持続]を維持することになる。しかし、この文では“长”の後に形容詞の“大”が結果補語として生起しているので、“长”は限られた[持続]となる。故に、すでに出来事が[終息]した“长大”と[複数の出来事存在]の意を示す“在”の共起は論理的に矛盾するように思える。が、“你在一天天的长大”には“一天天”が生起しているので、“长大”を複数の出来事存在として確実に捉えることができる、ということである。²⁷

では以上の見解を拠所にして“你在一天天的长大”を集合にあてはめて考えることにしよう。

(3a)



²⁷ ここでの見解は龚千炎(1995:27)の注釈を参照した。即ち、龚千炎は[進行]の意を示す“在”についての論考で、多くの同類の個体が、絶えず同じ動作行為をしたり、変化している場合、“在”を用いることができる、といった見解を述べている。

集合 A の要素である“mt”が一つ以上“你长大”という出来事に向かって写像されている。従って、[複数の出来事存在]の意を表していることが分かる。つまり、この集合 A から集合 B への写像は、発話者が、我が娘と見なす“美美”が健やかに成長する過程を静止画として様態的に捉えたことを示している。以上を踏まえて存在量量子による解釈を行うことにしよう。(3b)を見られたい。

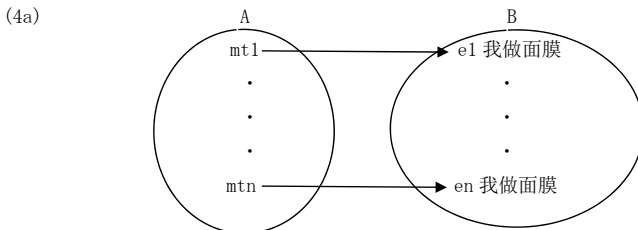
(3b) アル ~ガ 育ツ ~ガ アル ~ガ ~トイウ結果ニ
 ∃x [mt' (x)&有' [x, 长' (你) & 有' {长' (你), 大}]]
 持ツ ~ガ ~トイウ出来事ヲ

これは「少なくとも一つの“x”について、“x”が“mt'”であり、かつその“x”が“你长大”という出来事を持つ」という意味を表している。そして“长' (你)”は「あなたが育つ」という意を示し、“有' {长' (你), 大}”は「それ(あなたが育つ)が大きくなるという結果にある」という意を示している。

以上の考察により、“在”が示す[複数の出来事存在]の意味は集合と存在量量子を用いて解析しえることが分かった。そのため、“在”が生じた文の出来事は必ず複数、つまり一つ以上存在しているので、[持続の状態]の意を明示する“呢”を文末に付記させることができる。²⁸(4)の例を見られたい。

(4) 妈啊，我在做面膜呢，怎么了？(テレビドラマ《宝贝妈妈宝贝女》第4話)
 (お母さん、私パックをしているところなの、どうしたの?)

(4)の引用先であるドラマ《宝贝妈妈宝贝女》によると、この場面は発話者がフェイスパックをしているときに母親からの電話を受けたところである。ここでの「パックをする」という行為は、フェイスパックを一定の間顔に張り付けているので、概念上“我做面膜”という出来事が一定の間[持続]することになる。従って、発話者の概念では“我做面膜”という出来事をいくつも存在させることができると解しえる。故に“我在做面膜”は以下の(4a)のような集合となる。



この集合から“我做面膜”という出来事が複数存在していることが看取しえる。また、“我做面膜”という出来事は変化せずに[持続]しているので、“我做面膜”という出来事が[持続の状態]にあると解しえる。この[持続の状態]を明示する役割を果たすのが“呢”である。即ち“呢”は、ある共通の命題内容が論理的に[持続]している状態にあることを明示する

²⁸ “呢”を[持続の状態]と解釈したのは朱德熙(1982:209)を参考にした。

と考える。よって、論理的な観点からいうと、“我在做面膜”に“呢”が付記すると、複数の“我做面膜”という命題内容が「同値」(equivalence)の関係にあるということがはっきりと示されると見なす。

ではこれまでの解析に倣い“我在做面膜”も存在量量子によって記述することにした。

(4b) アル ～ガ スル ～ガ ～ヲ

∃x [mt' (x)&有' {x, 做' (我, 面膜)}]

持ツ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

この(4b)の式が表す意味は「少なくとも一つの“x”が“mt'”であり、かつその“x”が“我做面膜”という出来事を持つ」である。そして“做' (我, 面膜)”は「私がバックをする」という意を示している。

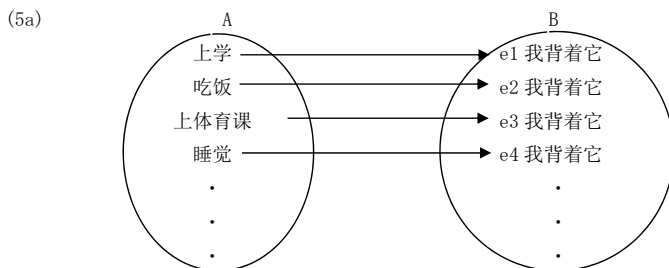
このように、“在”を[複数の出来事存在]と、そして“呢”を[持続の状態]として捉えられるのは、出来事が[持続]しているからである。従って、“我在做面膜呢”における動詞の“做”が有する[持続]の意味特徴が“在”と“呢”の成立を根底から支えていると考えるに到りえる。

次の(5)では、三行目の“我时时刻刻都在背着它”(どんな時でもずっと背負っているんだ。)と二行目からの“我上学背着, 我吃饭也背着, 我上体育课也背着, 我睡觉也背着”(僕は登校の時に背負っていて、ご飯の時も背負っていて、体育の授業でも背負っていて、寝る時にも背負っていて)の部分に注目されたい。

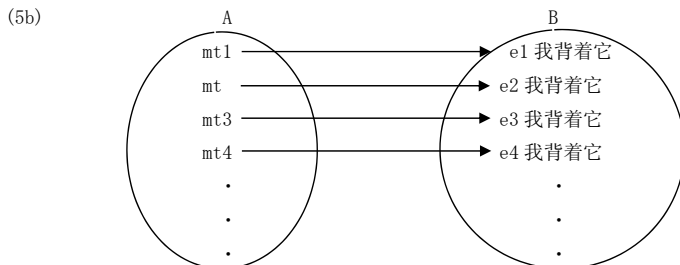
(5) 妈, 您不知道啊, 我跟您说, 就比如说璐璐吧, 她 80 斤, 我呢, 110 斤, 我要比她多背 30 斤的面口袋吧, 我上学背着, 我吃饭也背着, 我上体育课也背着, 我睡觉也背着, 我时时刻刻都在背着它, 您说, 我能不能补充点儿卡路里吗?(テレビドラマ《家有儿女第四部》第 55 話)

ここでは“我时时刻刻都在背着它”の“在”について考える。そこでこの文の前方に生起する“我上学背着, 我吃饭也背着, 我上体育课也背着, 我睡觉也背着”に留意されたい。これらを見ると、全てに“背着”が存在していることに気づく。従って、この四つのどの出来事を観察しても、“我背着它”という出来事が変化せず存在していると理解することができる。更に“我时时刻刻都在背着它”の“在”の前方には“都”が生起しているので、“我时时刻刻都在背着它”において“我背着它”という出来事が複数存在していることを容易に推論しえる。よって、“我时时刻刻都在背着它”の“在”は、“我上学背着”、“我吃饭也背着”、“我上体育课也背着”、“我睡觉也背着”といった四つの出来事が例外なく存在していることを様態的に示している、と解釈できる。

そこで(5)の“我时时刻刻都在背着它”は以下のように図示することができる。



そして(5a)の集合Aの要素を抽象化して“mt”とすると,



となる。まず(5a)におけるAの集合の要素を見ると、四つの“mt”が要素として配列されている。つまり、“上学”、“吃饭”、“上体育课”、“睡觉”である。これらはすべて、ある一つの様態的な時間点である。次にBを見られたい。この集合における要素は四つとも“我背着它”という出来事である。というのは“我背着它”が論理上、無限に[持続]しているからである。そして集合Aから集合Bに向かって延びる矢印はAからBへの写像を示すので、様態時間“mt”から“我背着它”という出来事に写像されていることが分かる。上述したように、“在”は[複数の出来事存在]の意を表わすので、Aの要素が一つ以上Bの要素へ写像されなければならない。しかしながら、(5)の“我时时刻刻都在背着它”には“时时刻刻”と“都”が生起しているため、すべての“mt”がすべての“我背着她”という出来事に対して写像、即ち全単射(bijection)する必要があると考えると、全称量子化(universal quantifier)を用いて、

$$\begin{aligned}
 (5c) \quad & \text{アル} \sim \text{ガ} \quad \text{背負ウ} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \\
 & \forall x [\text{mt}'(x) \rightarrow \text{有}'[x, \text{背}'(\text{我}, \text{它}) \& \text{有}'(\text{背}'(\text{我}, \text{它}), \text{着})]] \\
 & \text{アル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ様態ニ} \\
 & \text{持ツ} \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ出来事ヲ}
 \end{aligned}$$

と表すのが妥当である。ここでの“ $\forall x$ ”は「全ての“x”についていうと」の意味であり、

その後続く“mt'(x)”は「“x”が“mt'”である」という意を示している。“→”の後に続く“有'[x,有' {背' (我,它),着}]”という式は、「“x”が“我背着它”という出来事を持つ」という意を表す。そして、“→”は「含意」(implication)の意を表すので、“mt'(x)”が“有'[x,有' {背' (我,它),着}]”を「含意」していると見なす。

故に、(5c)の式全体は、「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならばその“x”が“我背着它”という出来事を持つ」という意を表していると理解できる。

また“背'(我,它)”は「僕がこれを背負う」という意味を、“有'(背'(我,它),着)”は「それ(僕がこれを背負う)が[持続]という様態にある」という意を示している。

注目すべきは、このように“在”が[複数の出来事存在]の意を表現しえるのは、概念上、出来事が量化してはならない、ということである。言い換えると、“我背着它”という出来事は[終息]することなく[持続]しているのである。そのため“背着”は重要な役割を果たしている。ここで“背”という動詞は、論理的な角度からいうと、一度背負うとその動作は[終息]するため、背負うという動作がそれ以上[持続]することがない。しかし、背負った後の結果は[持続]することができるので、[持続]の意を表す時態助詞の“着”を伴って、“背”の後の結果を[持続]させることができる。従って、このように“背着”が[持続]の出来事を形成することによって、概念上、幾つもの“我背着它”を観察することが可能となり、“背着”が“在”の[複数の出来事存在]の意を生じさせるための重要な基礎を造っていると見なされる。

さて、次節では“正”が[複数の出来事包括]の意を表し、かつ“正”が生じた文は一律に全称量子化によって解析できることを証明したい。

7.2 “正”の解析

本節では“正”は[複数の出来事包括]の意を示すと考えるが、重要な点は、“正”が生起するための前提条件は、出来事が[終息]せず、それを複数の概念として捉えることができる、ということである。そこで、本節と関連すると思われる“正”に対する記述を他の研究者の記述の中から取り出して、以下の如く簡潔に示すことにしたい。

表一[五名の研究者による副詞“正”の解釈]

研究者	“正”の解釈
1. 王还主编(1997:1137)	動作が <u>進行中</u> 、或いは状態が存在し続けていることを表す。
2. 侯学超编(1998:741)	動作が <u>進行中</u> であること、状態が <u>持続中</u> であることを表わす。
3. 吕叔湘主编(1999:670)	動作が <u>進行中</u> 、或いは状態が <u>持続中</u> であることを表わす。
4. 李科第(2001:666)	動作行為がちょうど <u>進行中</u> 、或いは続いている状態にあることを表わす。

5. 张斌主编(2001:716)

動作、或いは状態が持続中であることを表わす。

上の表一が示すように“正”は[持続]や[進行]といった言葉を用いて解釈されている。そして五名の研究者はいずれも[持続中]、又は[進行中]といった記述をしている。これは“正”を[複数の出来事の包括]と解釈するための助けとなる。つまり、本節で主張する[複数の出来事の包括]の「包括」は、他の研究者が言う「持続中」や「進行中」の「中」に等しいと考えるのである。というのは、“正”の生起は、複数の出来事をすべて様態的に捉えたことを意味する、と考えるからである。では、以下、実際に例を挙げて“正”が果たす意味役割を明らかにさせよう。用例は(6)から(12)までの七つである。まず(6)の文について考えたい。

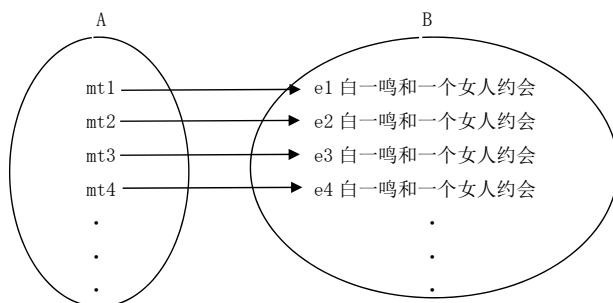
(6) 别问我谁, 也别问我是怎么知道你的电话号码的。快来鸿福酒楼, 白一鸣正和一个女人约会呢。(テレビドラマ《鉄面歌女》第17話)

(私が誰であるかを聞く必要はない。またどうしてあなたの電話番号を知っているかもね。すぐ鴻福酒楼に来なさい。白一鸣はちょうど女と会っているわ。)

この文は何者かが“白一鸣”の婦人に電話をかけて、夫の浮気を密告した場面である。従って、“白一鸣和一个女人约会”という出来事に“正”を用いることにより、“白一鸣和一个女人约会”という出来事がちょうど行われていることをはっきりと認識することができる。つまり“正”を用いて、概念上、複数の“白一鸣和一个女人约会”という[持続]の出来事をすべて纏めて捉えることにより、禁断なる浮気の行為を際立たせて表現したといえる。そこで“正”が生起するためには、“白一鸣正和一个女人约会呢”における動詞の“约会”が、論理上、際限なく[持続]する必要があることに気づく。

また、“白一鸣正和一个女人约会呢”の文は[持続の状態]の意を表す“呢”が生起しているので、(4)の“我在做面膜呢”の考察で言及したように、複数の出来事が「同値」の関係、つまり複数の“白一鸣和一个女人约会”という命題内容が変化することなく[持続]している状態にある、と理解できる。故に、“白一鸣正和一个女人约会呢”は以下のように図示することができる。

(6a)



(6a)は“mt1”、“mt2”、“mt3”、“mt4”のすべてが“白一鳴和一个女人约会”という出来事に写像されている。従って、ここでのAからBへの写像は、7.1の(5)の文で解析した“我时时刻刻都在背着它”と同様に全単射を行っていることが分かる。

そこで全称量子を用いると“白一鳴正和一个女人约会”は以下のように表記することができる。

(6b) アル ～ガ スル ～ガ
 $\forall x$ [mt' (x)→有' [x, 和' [白一鳴, 女人, 有' {约会' (白一鳴), 女人}&
 持ツ ～ガ ～ヲ
 アル ～ガ ～ト
 持ツ ～ガ
 スル ～ガ
 有' {约会' (女人), 白一鳴}]]
 持ツ ～ガ ～ヲ
 ～トイウ状態ニ
 ～トイウ出来事ヲ

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“白一鳴和一个女人约会”という出来事を持つ」と読むことができる。“约会' (白一鳴)”は「白一鳴がデートをする」という意味を、“约会' (女人)”は「女がデートをする」という意味を、そして“有' {约会' (白一鳴), 女人)”は「それ(白一鳴がデートをする)が女という対象を持つ」という意を示し、“有' {约会' (女人), 白一鳴)”は「それ(女がデートをする)が白一鳴という対象を持つ」という意を示す。更に“和' [白一鳴, 女人, 有' {约会' (白一鳴), 女人}&有' {约会' (女人), 白一鳴}]]”は「白一鳴が、女と、白一鳴が女とデートをし、かつ女が白一鳴とデートをするという状態にある」という意を表している。

この“正”の解釈で重要なことは、“正”は[持続]の一点を捉えるのではなく、[持続]の全体を捉える、ということである。従って“正”が生起する文は、発話時間の前後において複数の出来事が行われていることを許容する“最近”を用いて、

(6c) 因为我最近啊正准备换个房子, 可是还没找到。(テレビドラマ《等待绽放》第2話)
 (というのは、おれ最近さ、ちょうど住む部屋を換える準備をしているんだ。だけど、まだ引っ越し先が見つからなくてね。)

といった文を造ることができる。ドラマ《等待绽放》によると、この場面は、発話者が電話をしているところであり、“准备换个房子”という出来事とその現場において具体的に行われていない。故に、“准备换个房子”は“最近”の間において何度も行われていると考えることができる。従って“正”は[持続]の一点ではなく、複数の出来事を全て包括するといった解釈の方が妥当であると見なしうる。

また、瞬間動詞でも、出来事を複数として捉えられる際には“正”を用いることができ

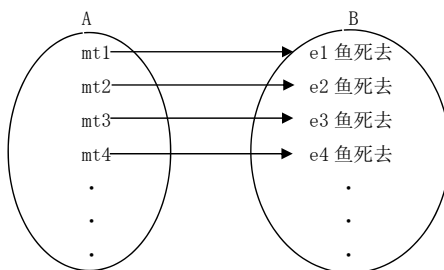
る。袁莉容等(2010:168)は動作が反復したり、或いは、動作主が集団である場合、瞬間動詞が生起する文でも“正”を生起させることができると主張した。例を一つ引用しよう。

(7) 池塘里的鱼正一条条地死去。

(池の魚が正に一匹一匹と死んでいる。)

この文における“死去”は瞬間的な意味特徴を有する動詞である。しかし“一条条”の生起により“魚”が複数存在することになるので、“魚死去”という出来事が複数であることは確かである。従って[複数の出来事の包括]の意を示す“正”を用いて、概念上“魚死去”という出来事を様態的にすべて一纏めにして捉えることができると判断しえる。そのため以下のように図示することができる。

(7a)



この図から複数の“魚”が“死去”をすることで、“魚死去”という出来事が複数に及んでいることが分かる。従って“正”の生起は、この複数の出来事をすべて包括したことを意味すると見なしうる。では続けて全称量子による解析も行おう。

(7b) アル ~ガ 死ヌ ~ガ

$\forall x \{mt'(x) \rightarrow \text{有}'\{x, \text{死去}'(\text{魚})\}\}$

持ツ ~ガ ~トイウ出来事ヲ

この(7b)の式は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならばその“x”が“魚死去”という出来事を持つ」と読むことができる。“死去”(魚)”という命題は「魚が死ぬ」という意味である。

さて今度は(8)の例について検討しよう。

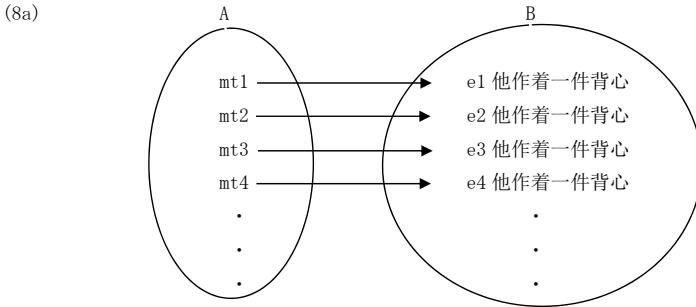
(8) 现在, 他正作着一件背心, 戏台上丫环所穿的那种。(小説《新编老舍文集(第2卷)》400頁)

(今、彼はちょうどチョッキを一着作っている。それは劇で召使いの娘が着るようなやつである。)

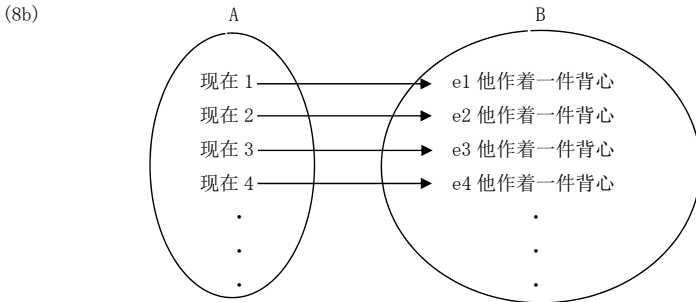
ここでは“他正作着一件背心”における“正”について詳述する。ここでの“正”の運用は“他作着一件背心”という出来事をすべて包括する操作を行ったことを意味する。このような操作を行うためには、“他作着一件背心”という出来事が[持続]してなければならない。そして、この“他作着一件背心”の[持続]を成立させるためには、“作”の後方に[持

続]の意を表す時態成分の“着”が後続していることがポイントとなる。なぜなら、持続動詞の“作”は数量詞の“一件”と結合すると、“作”の動作は量化して必ず[終息]する動作となる。だが、チョッキー着分(“一件背心”)を造り終えるまでの間は、“作”という動作が始まった後の様態が[持続]しえるので、“着”を用いて、“他作一件背心”が一定の間[持続]していることを明示できる。よって、概念上“他作一件背心”という出来事を複数抽出することが可能となり、“正”を用いて一定の間[持続]し続ける“他作一件背心”という出来事をすべて包括することができるのである。

そこで、“他正作一件背心”を以下の(8a)のように図示してみることにしたい。この(8a)における写像の操作も、(6a)や(7a)と同様に全ての“mt”が全ての出来事に一つずつ単射して、全単射となっていることが看取できる。



この集合 A の要素はいずれも“mt”だが、これらは全て“現在”に置き換えて示すことができる。



全称量子による分析は以下ようになる。

(8c) アル ～ガ 作ル ～ガ ～ヲ アル ～ガ ～トイウ量ニ
 ∇x [mt' (x)→有'【x, 作' (他, 背心) & 有' (作' (他, 背心), 一件)&
 持ツ ～ガ

アル ～ガ ～トイウ様態ニ
 有' [有' (作' (他, 背心), 一件), 着]]

～トイウ出来事ヲ

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならばその“x”が“他作着一件背心”という出来事を持つ」と読むことができる。“作' (他, 背心)”は「彼がチョッキを作る」の意を、“有' (作' (他, 背心), 一件)”は「それ(彼がチョッキを作る)が一着という量にある」の意を、そして“有' [有' (作' (他, 背心), 一件), 着]”は「それ(彼がチョッキを一着作る)が[持続]という様態にある」といった意味を表している。

今度は心理活動動詞の“想”によって構成された出来事が“正”によってすべて包括される例を挙げる。論点となる箇所は(9)の一行目の“我现在就给四姐打电话”と六行目の“我正想给你打电话呢”である。

(9) A: 行, 我现在就给四姐打电话! 让四姐听听你们都说她什么!

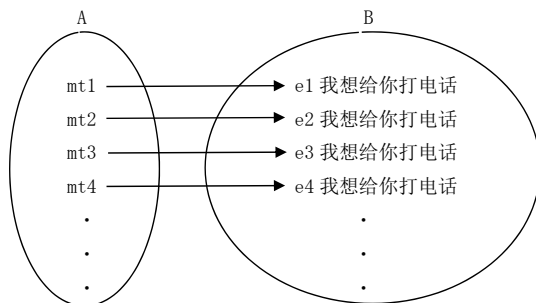
B: 不是, 你给素晓打电话也没有用啊, 素晓自个儿就占百分之二十这事本来就不对啊, 再说了, 那素晓都嫁人了, 本来都不姓赵了, 她还有工作, 还在咱们店里持股, 真是! 你还给人打电话, 小算盘把你都算进去了。真是!

C: 哥, 说谁呢? 我这耳根子怎么那么热呀。

A: 四姐, 你来得正好, 我正想给你打电话呢。我哥跟我嫂子不但背地里说你, 还挑拨咱们之间关系! (テレビドラマ《傻春》第24話)

この(9)の例では“我正想给你打电话呢”(私はちょうどあなたに電話をしようと思っていたの)における“正”が[複数の出来事の包括]の意を表していると解釈する。ここでの“正”が[複数の出来事の包括]の意として成立しえるのは“我想给你打电话呢”という出来事が[持続]を保持しているからである。そしてこの出来事が[持続]を保持できるのは、心理活動動詞の“想”が[持続]の意味特徴を有しているためである。そのため“我正想给你打电话呢”には末尾に[持続の状態]の意を示す“呢”が生起している。この“我正想给你打电话呢”の[持続性]は(9)の用例を深く観察することではっきりと読み取れる。再度(9)の一行目を見られたい。ここには“我现在就给四姐打电话”(私は今すぐ姉に電話をするわ)が生起しており、発話者Aが“四姐”に電話をかけようとする意向を察しえる。そしてこの「姉に電話をしたい」という願望は(9)の六行目の“我正想给你打电话呢”を発話するまでの間において変化することなく[持続]している、と文脈上推測しうる。故に“我正想给你打电话呢”は集合を用いると、

(9a)



となる。この(9a)の図によって、“mt1”から“mt4”までのどの様態時間においても“我想给你打电话”が[持続]していることが分かる。

次に全称量子化による分析を行うことにしよう。

(9b) アル ～ガ カケル ～ガ ～ヲ

∀x [mt' (x)→有' [x, 想' [我, 给' {我, 你, 打' (我, 电话)&

スル ～ガ ～ニ

望ム ～ガ

持ツ ～ガ

アル ～ガ ～トイウ量ニ 到ル ～ガ ～ニ

有' (电话, 一个) & 到' (一个, 你)]]

～トイウコトヲ

～トイウコトヲ

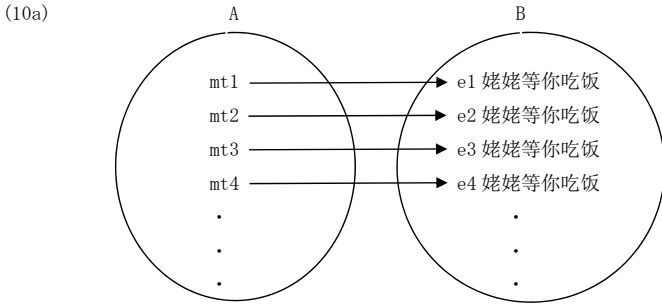
～トイウ出来事ヲ

(9b)は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“我想给你打电话”という出来事を持つ」と読むことができる。“打' (我, 电话)”は「私が電話をかける」という意味を、“有' (电话, 一个)”は「その電話が一本という数量にある」という意味を、“到' (一个, 你)”は「その一本があなたに到る」という意味を、“给' {我, 你, 打' (我, 电话)&有' (电话, 一个)&到' (一个, 你)}”は「私が、あなたに、私が電話を一本かけ、かつその一本があなたに到るということをする」という意味を、そして“想' [我, 给' {我, 你, 打' (我, 电话)&有' (电话, 一个)&到' (一个, 你)]”は「私が、私があなたに電話を一本かけるということ望む」という意を示している。

さて今度は(10)の考察へ移行する。ここでは“姥姥正等你吃饭呢”(おばあちゃんがちょうどあなたが食事をとるのを待っている)が主たる考察対象である。

(10) 你怎么还不走啊！爸爸，那个，姥姥饭都做好了，正等你吃早饭呢。然后我帮你把这个垃圾扔了吧，我正好要去上班呢，你快上去吧，姥姥正等你吃饭呢！（テレビドラマ《宝贝妈妈宝贝女》第7話）

(10)の例の引用先であるドラマ《宝贝妈妈宝贝女》によると、この場面は三人の人物が登場する。それは父、娘、青年である。そして発話者は娘であり、この娘は父親の二女という設定となっている。ここでは発話者である二女が、自分の父親を家に戻らせるように努めているところである。というのは、早朝、発話者の友人である青年が花束を抱えて自宅の前へ現れたからである。以前は三女と交際をしていたはずのこの青年は、近頃、発話者である二女に接近し始めたのである。そこで発話者の二女は頑固な父とキザな青年との激しい衝突を恐れ、(10)のようなセリフを言うに到ったのである。このような場面では、“姥姥等你吃饭”という出来事がいかに大切であるのかを父親に伝え、喧嘩の勃発前に父に口実を与えて家に戻らせる必要が大いにあるので、“正”の運用が最適であるといえる。つまり、[複数の出来事の包括]の意味を表す“正”を用いて、幾つもの“姥姥等你吃饭”を包括し、その出来事のタイムリー性を突出させているのである。そして、“等”が[持続]の意味特徴を保持し、かつ[持続の状態]の意を示す“呢”が生起していることが看取しえる。故に、集合は次のように記することができる。



この二つの集合の関係により、すべての“mt”において例外なく“姥姥等你吃饭”が生じていることが分かる。では、この“姥姥正等你吃饭”を全称量量子によって分析してみよう。

(10b) アル　～ガ トル　～ガ　～ヲ
 $\forall x$ [mt' (x) → 有' [x, 等' {姥姥, 吃' (你, 饭)}]]
 待ツ　～ガ ～トイウコトヲ
 持ツ　～ガ ～トイウ出来事ヲ

これは「すべての“x”に対して、その“x”が“mt”であるならば、その“x”が“姥姥等你吃饭”という出来事を持つ」と読むことができる。「吃' (你, 饭)」は「あなたが食事をとる」という意を、“等' {姥姥, 吃' (你, 饭)}”が「おばあちゃんが、それ(あなたが

食事をとる)を待つ」という意味を示している。

次の(11)では“正”と“在”が生起した文について考えてみよう。

(11) 我现在正在调查, 可是结果都不理想。(テレビドラマ《女人的颜色》第39話)

(私は最近まさに調査をしています、結果はみな満足のいくものではありません。)

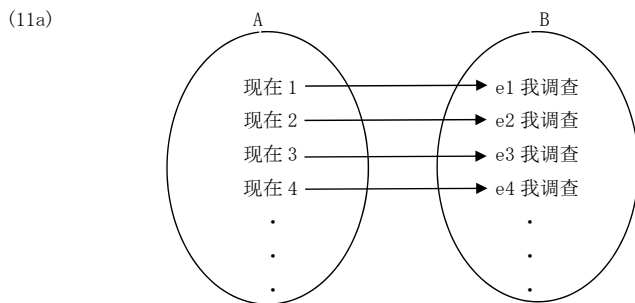
“我现在正在调查”には“正”と“在”が生起している。従って、“正”が示す[複数の出来事の包括]が成立するためには、“在”の[複数の出来事存在]が前提条件に、そして“在”の[複数の出来事存在]の成立には、“我调查”という出来事が[持続]を保持していることが前提条件に、更に、“我调查”という出来事の[持続]は、動詞の“调查”が[持続]の意味特徴を有していることが前提条件である、と演繹して推論するに到りうる。よって、論理上“我正在调查”の生起プロセスは三つの段階を得ると仮定することができる。要するに、

① “我调查” → ② “我在调查” → ③ “我正在调查”

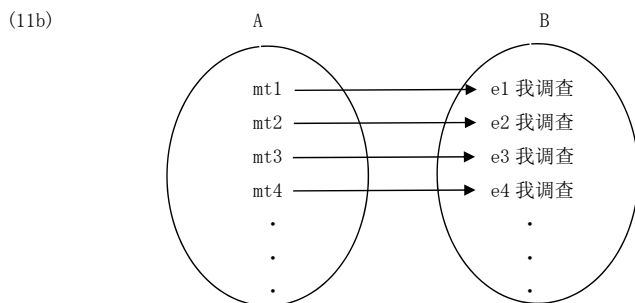
である。注目されたいのは、“我现在正在调查”における後節の“可是结果都不理想”には“都”が生起しているのだから、“我调查”という出来事は一つ以上存在すると推測できることである。そして“正”はすべての出来事を包括する役割を担っているのだから、“我在调查”がすべて包括されることになる。

もう一つ留意されたいことは、(11)では副詞の“正在”を“正”と“在”の二つに分けて分析した所以である。このような見解に到ったのは、Chao(2011(1968):787-788)の記述が拠所となっている。Chaoは、時間副詞を三つに分けて論じた。この区分は意味特徴と音節を意識している。つまり、一つは、単音節の時間副詞である。いま一つは、二音節の時間副詞である。そして三つ目は、二音節であるが、意味上、二つの副詞に分けて解釈すべき時間副詞である。“正在”はこの第三のタイプに分類されている。従って、Chaoの記述は、“正在”を“正”と“在”に分けて分析する必要性を示唆していると思われる。また、Chao(2011(1968):788)によると、“正在”が表す意味は‘just at……ing’である。故に“正”は“just”の意として「出来事がちょうどである」ということを示し、“在”は“at”の意として「出来事存在場所を導く」という役割を果たし、そして“ing”は「出来事持続」といった意味を表す、と考えることができる。これは、Chao(2011(1968):787)では“正……ing”を「just……ing」と解釈している点からも妥当な推論であるといえる。

では、再び“我正在调查”の文に視点を戻そう。これまでの考察を基にして考えると、“在”は出来事存在場所を導く役割を果たしえると考えられる。しかしながら、“我正在调查”における“我调查”という出来事はどこで行われているのかが判然としない。というのは、(11)における“调查”は、通常、様々な手段を以て行われるので、その出来事地点は複数に及び、一か所に定めることは困難であると考えられるからである。よって、この文における“在”の目的語は省略されたと解しえる。さて、以上の考察を踏まえると“我现在正在调查”は次の様な集合を構成することができる。



この図から“現在”において“我調査”という出来事が複数存在し、かつ、その“我調査”は全ての“現在”において生じているということが分かる。(11a)の“現在”を抽象的に記すと(11b)のようになる。



では次に“我現在正在調査”を全称量子で表現しよう。

(11c) アル ～ガ スル ～ガ
 $\forall x$ [mt' (x)→有' {x, 調査' (我)}]
 持ツ ～ガ ～トイウ出来事ヲ

この式は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“我調査”という出来事を持つ」という意を表している。ここでの“調査' (我)”は「私が調査する」という意味を表している。

次は(12)の“正在等着呢”(ちょうどあそこで待ち続けております)における“正”と“在”について検討しよう。

(12) A: 少爷回来了, 少爷, 有位姓陈的先生等您半天了。

B: 陈先生, 什么事?

A: 说是曾家有一箱刻了字的骨头在他那儿, 听说您用得上, 所以带过来看看, 换点钱花花。

B: 哈哈, 真是踏破铁鞋无觅处啊! 人呢?

A: 正在等着呢! (テレビドラマ《京华烟云》第44話)

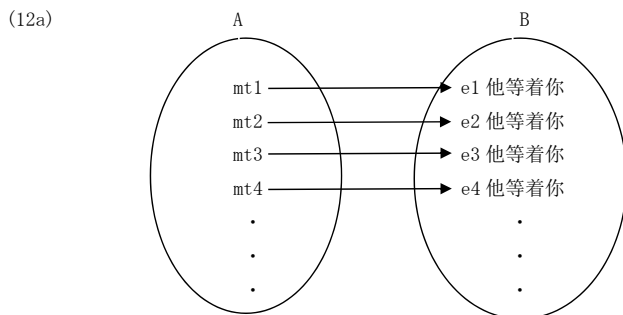
“正在等着呢”の“等”は論理的な観点からいうと、[持続]の意味特徴を有しているの
で、時態助詞の“着”を後続させて、“等”の[持続]が保持されていることを明示すること
ができる。そして“等着”は[持続]の出来事を構成するので、更に[複数の出来事存在]
の意を表す“在”を用いることができる。これにより、意味上“他等着你”という出来事
が複数存在すると考えられる。

また、(12)の“正在等着呢”は、(11)の“我现在正在调查”とは異なり、出来事存在
場所をはっきりと理解することができる。なぜなら、(12)の引用元であるドラマ《京华烟
云》を確認すると、そのシーンにおいて、実際に発話者のやや遠方で“他在等着你”とい
う出来事が行われていることを容易に看取しえる。しかも、発話者 B が、(12)の五行目が
示すように、“人呢?”(そいつはどこにいるんだ)と聞くと、それに対して発話者 A は、“正
在等着呢”と発話する際に、その出来事が行われている場所に向かって指をさしている。
従って、“在等着”は「彼が、あそこにおいて、彼があなたを待ち続けている」という意を
含んでいると解釈できる。これにより、Chao(2011(1968):788)が“正在”を英語で解釈す
る際に“at”を用いた所以を理解することができる。

さて、これで“正在等着呢”の内、“在等着”までの構成プロセスを理解することができ
た。上述の如く、この“在等着”という出来事は複数存在していると考えられるので、こ
れらの出来事をすべて包括することができる。即ち、[複数の出来事存在]の意を表す“正”
を用いるのである。これによって、発話時において、意味上、“他在等着你”という複数の
出来事がすべて抽出されるので、この“他在等着你”という出来事がとてもタイムリーで
あると感じえる。というのは、《京华烟云》によると、発話者 B は、日本軍の命令のもと、
甲骨文字を収集していたが、甲骨文字は貴重な文物であるが故、その収集にとっても苦労し
ていた。そんな時、甲骨文字を携えた客が訪ねて来たからである。

また、“正在等着呢”には“呢”が文末に生起しており、“正在等着”が[持続の状態]に
あることを明示していると見なしえる。

では“正在等着呢”を集合で表現しよう。



(12a)は“在”の意味役割によって“他等着你”という出来事が一つ以上存在し、かつ、“正”の意味役割により“他在等着你”という出来事がすべて包括されていることを示している。よって、“在”と“正”は明らかに異なった意味役割を有し、両成分は論理的に矛盾することなく共起していることが看取できる。

最後にこの“正在等着”を全称量子で記述することにしたい。

$$\begin{aligned}
 (12b) \quad & \text{アル} \sim \text{ガ} \quad \text{待ツ} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \\
 & \forall x [\text{mt}'(x) \rightarrow \text{有}'[x, \text{有}'[\text{等}'(\text{他}, \text{你}), \text{着}]]] \\
 & \quad \text{アル} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{トイウ様態ニ} \\
 & \quad \text{持ツ} \sim \text{ガ} \quad \quad \quad \sim \text{トイウ出来事ヲ}
 \end{aligned}$$

この式全体は「すべての“x”に対して、その“x”が“mt'”であるならば、その“x”が“他等着你”という出来事を持つ」と読むことができる。“等' (他, 你)”は「彼があなたを待つ」という意味を表し、“有' [等' (他, 你), 着]”は「それ(彼があなたを待つ)が[持続]という状態にある」という意を示している。

7.3 第七章の結び

本研究は集合論と量子子を用いて副詞“在”と“正”が表す意味を考察し、両成分の差異を明らかにした。即ち、“在”の[複数の出来事存在]の意は、通常、存在量子子によって解釈することができ、一方、“正”の[複数の出来事包括]の意は全称量子子によって解析しえることを明示した。

結びにかえて

本稿は主として論理的な観点から副詞“在”について論じた。最後に各章の要点を確認しておこう。

第一章では、従来の研究者は副詞“在”を如何に解釈しているのかを確認し、その記述の中から検討の余地があると思われる点を提示した。それは以下の四つである。

第一に、副詞“在”に対して多くの研究者が「進行」という言葉を用いて解釈していることである。

第二に“在”は[現在]、[過去]、[未来]のいずれにおいても生起しえることである。従って、“在”は時態を表現することが可能であると推測できる。

第三としては、“在”は、“经常”、“总”、“一向”、“一直”、“还”、“又”、“已经”といった成分と共に起ることができ、これらの成分によって、“在”が修飾する出来事の長期的な存在を保証していることである。

第四の問題点は、副詞の“在”と前置詞の“在”は共に状況語となる点からして、時に両成分の境界線は曖昧となる可能性があるということである。

そして第二章では、意味上“在”は副詞、前置詞を問わず、いずれも述連構造における一番目の動詞と見なし、副詞“在”は、前置詞“在”のように、出来事の実在場所を示す成分が後続することを主張した。考察の対象となった文は以下の三タイプである。

- ① 出来事地点が既知の情報と見なされて目的語が省略された“在”構文
- ② 出来事地点が特定化できずに目的語が省略された“在”構文
- ③ 目的語が生起した“在”構文

また、“在”の文に含まれる各成分の意味役割、及び意味関係を明らかにするため、松村(2005)の理論を基に、命題論理と述語論理によって構成される論理式を用いて解析した。

第三章では、“在”構文の論理式の整合性の向上を図り、オートマトン、状態遷移図、論理回路、更にはタイプ理論を運用した。そして最後には、談話概念の視点から論理式の生成過程を検討した。

第四章においては、副詞の“在”が生起する文を[現場進行]と[非現場進行]の二タイプに区分して考察を行った。即ち[現場進行]の文は、出来事が発話時間において存在している点に注目が置かれた[進行]であり、出来事地点は一か所である。一方、[非現場進行]は、発話時間に制限されず、出来事が複数存在している点に着目した[進行]であるが故、出来事地点が複数に及ぶ。また、[現場進行]の文は、出来事の多発を保証する成分が生起しないが、[非現場進行]の文には、出来事の多発を保証する成分(“最近”、“現在”、“每天”、“一天到晚”、“一直”、“六年”)が生起していることが判然とした。なお、ここでも論理式による解析を試みた。

第五章では、“在”が表す[進行]の概念が、論理的に如何なるしくみによって成立しているのかを証明した。主たる考察方法は、副詞“在”が生起する文を五つのタイプ(①複数

の時間概念から[進行]を明確に判断できる例、②複数の場所概念から[進行]を明確に判断できる例、③複数の動作主から[進行]を明確に判断できる例、④複数の動作行為の対象から[進行]を明確に判断できる例、⑤他の文脈から[進行]を明確に判断できる例)に分けて分析し、“在”が示す[進行]とは厳密に[複数の出来事存在]の意であることを明示した。

重要なことは、“在”が表す[複数の出来事存在]の概念は、動詞の[持続性]や、文中の他の成分や前後の文脈により、出来事が「数量化」していることによって成立している、ということである。

第六章は、副詞“在”は[進行]の意味を表す時態副詞であるという仮説のもと、“在”と時制の関わりについて詳述した。その結果、絶対時間から考察すると、発話時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[過去]における[進行]、[現在]における[進行]、或いは[未来]における[進行]を表現できることが明瞭となった。一方、相対時間から考察すると、参照時間と時態副詞“在”が生起する文(出来事時間)との時間関係は、[簡単]の関係を構成することを明らかにした。また、ここでも命題論理と述語論理を併用した論理式による解析を行い、“在”構文に含まれる意味を厳密に表記した。最後には、集合論を運用し、時間体系の観点から“在”構文の生起プロセスを検討した。つまり、“在”構文の成立は、時相表現から時態表現、そして時態表現から時制表現というプロセスを辿る、ということである。

第七章では、集合論と量子論を運用して副詞“在”と副詞“正”が表す意味役割を考察し、両成分の差異を明らかにした。結果、“在”の[複数の出来事存在]の意は一般的に存在量子によって解釈することができ、一方、“正”が示す[複数の出来事包括]の意は全称量子を用いて解釈しえることを証明した。なお、本稿は昨年の2014年に提出した博士論文だが、今回、『言語と文化論集(特別号)』として発行して頂くにあたり、若干の加筆修正を行った。

筆者は学部時代から神奈川大学に在学していたため、九年目となるこの今、なんとか博士論文を書き上げることができ、言葉では形容し難い思いがある。特に指導教員の松村文芳先生には、学部一年時から現在に至るまでの九年間、毎日の如く、本当に本当に多くのご指導を賜った。この場を借りて心から感謝の念を表したい。有り難うございました。加藤宏紀先生、彭国躍先生(五十音順)には学部や大学院の授業、或いは課外授業にてご指導いただき、大変お世話になった。また、学部時や授業外においては、大里浩秋先生、鈴木陽一先生、孫安石先生、村井寛志先生、山口建治先生(五十音順)からも多くのことを学び、貴重なご指導、ご助言をいただき感謝している。そして、常に応援してくれた両親、祖父母に感謝の意を表したい。

今後も熱い情熱を以て中国語の文法研究に勤しみ、それを多くの人々と享受しえる人物となれるよう日々努力していきたいと思って已まない。

参考文献

- 青木萌 2013a. 「現代中国語の統語成分“在”の用法と意味」, 『神奈川大学言語研究 2012』。神奈川大学言語研究センター。
- 2013b. 「時態成分“在”の時制構造における意味と論理」, 『人文研究第 180 集』。神奈川大学人文学会。
- 2013c. 「時態成分“在”の生成過程」, 『人文研究第 181 集』。神奈川大学人文学会。
- 2013d. 「副詞“在”が表す二つの進行性」, 『連語論研究<2>』。大東文化大学国際連語論学会。
- 2014a. 「副詞“在”の意味解釈と問題点」, 『言語と文化論集第 20 号』。神奈川大学大学院外国語学研究所。
- 2014b. 「時態成分“在”と“正”の意味と論理」, 『神奈川大学言語研究 2013』。神奈川大学言語研究センター。
- 2014c. 「時態副詞“在”が表す二つの進行の論理意味分析」, 『人文研究第 182 集』。神奈川大学人文学会。
- 2014d. 「現代中国語における時相構造の「量化」現象」, 『人文研究第 183 集』。神奈川大学人文学会。
- 伊原大策 1982. 「進行を表す「在」について」, 『中国語学』。
- ウィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳 2003. 『論理哲学論考』。東京:岩波文庫。
- 小倉久和 1996. 『形式言語と有限オートマトン入門』。東京:コロナ社。
- オールウッド・アンデソン・ダール著、公平珠躬・野家啓一訳 1979. 『日常言語の論理学』。東京:産業図書。
- 朱继征 2000. 『中国語の動相』。東京:白帝社。
- 杉村博文 1994. 『中国語文法教室』。東京:大修館書店。
- 杉本孝司 1998. 『形式意味論』。東京:くろしお出版。
- 松村文芳 2005. 「「把構文」と「被構文」に用いられる「給」の意味と論理」。大東文化大学語学教育研究所。
- 2010. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 2011. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 2012. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 2013. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 2014. 神奈川大学大学院中国語学特殊研究Ⅲa/b 講義。
- 北京大学中文系 1955、1957 级语言班编 1982. 『现代汉语虚词例释』。北京:商务印书馆。
- 岑玉珍主编 2013. 『汉语副词词典』。北京:北京大学出版社。
- 陈平 1988. 「论现代汉语时间系统的三元结构」, 『中国语文』。1988 年第 6 期。
- 陈前瑞 2008. 『汉语体貌研究的类型学视野』。北京:商务印书馆。

- 丁声树等 2009(1961). 『现代汉语语法讲话』. 北京:商务印书馆。
- 范继淹 1982. 「论介词短语“在+处所”」, 『语言研究』. 1982年第1期。
- 方立 2000. 『逻辑语义学』. 北京:北京语言文化大学出版社。
- 房玉清 2008. 『实用汉语语法(第二次修订本)』. 北京:北京语言大学出版社。
- 龚千炎 1995. 『汉语的时相时制时态』. 北京:商务印书馆。
- 郭凤岚 1998. 「论副词“在”与“正”的语义特征」, 『语言教学与研究』. 1998年第2期。
- 侯学超编 1998. 『现代汉语虚词词典』. 北京:北京大学出版社。
- 李华倬 2010. 『基于中国哲学思想的汉语研究』. 镇江:江苏大学出版社。
- 李科第 2001. 『汉语虚词辞典』. 昆明:云南出版社。
- 李晓琪 2005. 『现代汉语虚词讲义』. 北京:北京大学出版社。
- 刘月华等 2001. 『实用现代汉语语法(增订本)』. 北京:商务印书馆。
- 卢福波 2010. 『汉语语法教学理论与方法』. 北京:北京大学出版社。
- 吕叔湘主编 1999. 『现代汉语八百词(增订本)』. 北京:商务印书馆。
- 马真 2004. 『现代汉语虚词研究方法论』. 北京:商务印书馆。
- 潘文娛 1980. 「谈谈“正”“在”和“正在”」, 『语言教学与研究』. 1980年第1期。
- 沈家煊 1999. 「“在”字句和“给”字句」, 『中国语文』. 1999年第2期。
- 王还主编 1997. 『汉英双解词典』. 北京:北京语言大学出版社。
- 徐烈炯 2002. 「汉语是话语概念结构化语言吗?」, 『中国语文』. 2002年第5期。
- 袁莉蓉 郭淑伟 王静 2010. 『现代汉语句子的时间语义范畴研究』. 成都:四川大学出版社。
- 张斌主编 2001. 『现代汉语虚词词典』. 北京:商务印书馆。
- 张谊生 2004. 『现代汉语副词探索』. 上海:学林出版社。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2012. 『现代汉语词典(第6版)』. 北京:商务印书馆。
- 朱德熙 1980. 『现代汉语语法研究』. 北京:商务印书馆。
- 1982. 『语法讲义』. 北京:商务印书馆。
- 朱景松主编 2007. 『现代汉语虚词词典』. 北京:语文出版社。
- Chao, Yuenren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.
- Chao, Yuenren. 2011(1968). *A Grammar of Spoken Chinese*. 商务印书馆。

用例の出典先

[小説]

- 艾米 2009. 『致命的温柔』。北京:群言出版社。
 ——2010. 『山楂树之恋』。南京:江苏人民出版社。
 ——2011. 『云中之珠』。北京:中信出版社。
 崔曼莉 2009. 『浮沉 2』。西安:陕西师范大学出版社。
 老舍 1998. 『四世同堂』。北京:人民文学出版社。
 ——2009. 『鼓书艺人』。上海:文汇出版社。
 ——2009. 『新编老舍文集(第2卷)』。北京:商务印书馆国际有限公司。
 赵玫 2010. 『上官婉儿』。天津:天津人民出版社。

[テレビドラマ]

- 《爱的创可贴》(2013)
 《艾米加油》(2012, TV 版)
 《爱情公寓 第一季》(2009)
 《爱情公寓 第三季》(2012)
 《宝贝妈妈宝贝女》(2012)
 《北京青年》(2012)
 《等待绽放》(2013)
 《独生子女的婆婆妈妈》(2013)
 《儿女情更长》(2012)
 《范府大院》(2006, 全 41 話版)
 《夫妻那些事》(2012)
 《花非花雾非雾》(2013, TV 版)
 《家》(2007)
 《佳期如梦》(2010, DVD 版)
 《家有儿女 第一部》(2005)
 《家有儿女 第四部》(2008)
 《京华烟云》(2005)
 《来不及说我爱你》(2010)
 《离婚前规则》(2012, DVD 版)
 《女人的颜色》(2012, TV 版)
 《傻春》(2011)
 《四世同堂》(2007)
 《岁月》(2010)
 《天真遇到现实》(2013, DVD 版)
 《铁面歌女》(2010)

- 《托马斯&朋友》(2009)
- 《温柔的背叛》(2009)
- 《温州一家人》(2012)
- 《夏家三千金》(2011)
- 《夜幕下的哈尔滨》(2008)
- 《蚁族的奋斗》(2011)
- 《再婚进行时》(2012)
- 《咱们结婚吧》(2013)
- 《张小五的春天》(2010)

本稿で用例としては挙げなかったが、副詞“在”の文を研究する上で視聴したテレビドラマは以下のようなものがある。

- 《AA 制生活》(2012)
- 《爱情公寓 第二季》(2011)
- 《北京爱情故事》(2012)
- 《大男当婚》(2012)
- 《奋斗》(2007)
- 《浮沉》(2012)
- 《和空姐一起的日子》(2010)
- 《家的N次方》(2011)
- 《家有儿女 第二部》(2005)
- 《家有儿女 第三部》(2007)
- 《郎心如铁》(2010)
- 《裸婚时代》(2011)
- 《你是我兄弟》(2011)
- 《偏偏爱上你》(2012)
- 《闪婚》(2011)
- 《守望的天空》(2012)
- 《说谎的爱人》(2010)
- 《武则天秘史》(2011)
- 《媳妇的美好时代》(2010)
- 《媳妇的美好宣言》(2012)
- 《西施秘史》(2012)
- 《幸福3+2》(2011)
- 《杨贵妃秘史》(2010)

**神奈川大学大学院
言語と文化論集 特別号**

2015年9月 印刷
2015年9月 発行

編集発行 神奈川大学大学院
外国語学研究科
(横浜市神奈川区六角橋 3-27-1)

製 作 共立速記印刷株式会社

LANGUAGE AND CULTURE
BULLETIN
OF
THE GRADUATE SCHOOL OF FOREIGN LANGUAGES
KANAGAWA UNIVERSITY
Special number, September, 2015

Doctoral Course, Chinese Language and Culture
(Date of Degree Awarded : March 31, 2015)

Adverb *Zai* (在) in Mandarin Chinese Semantics

Moe AOKI
